



取扱説明書

IVA-D901J

MOBILE MEDIA STATION

MP3

MX

DVD
VIDEO

COMPACT
disc
DIGITAL VIDEO

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO
TEXT

DD **DOLBY**
DIGITAL

dtS
2.0+DIGITAL OUT

お問い合わせはインフォメーションセンターへ

〒141-8501 東京都品川区西五反田1丁目1番8号

FAX: 03-3494-1767 Phone: 03-3779-0711

- 電話受付時間 土日祝日、弊社休業日を除く 9:30 ~ 17:30
- 電話は混雑が予想されます。FAXかハガキをおすすめします。
- アルパインホームページ : <http://www.alpine.co.jp>

アルパイン株式会社

Designed by ALPINE Japan

Printed in Japan (Y-515)

68-00323Z61-A

安全にお使いいただくために

- ご使用の前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、説明書を手元に置いてご使用ください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

分解・改造をしないでください。
事故・火災・感電の原因になります。



電池・ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



ヒューズ交換は、規定容量（アンペア数）を守ってください。事故・火災の原因になります。



DC12V マイナスアース車以外に接続しないでください。事故・火災の原因になります。



配線作業の前にはバッテリーのマイナス端子からアース線を外して、配線作業をしてください。感電・ケガの原因になります。



コードの被覆を切って、他の機器の電源を取らないでください。火災・感電の原因になります。



前方の視界を妨げる場所、ハンドル・変速レバーなど運転操作を妨げる場所、同乗者に危険をおよぼす場所には、取り付けしないでください。事故・ケガの原因になります。



取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。



音や画面が出ない、異物が入った、煙が出る、変な臭いがしたときには、ただちに使用を中止して、お買い上げ店に相談してください。事故・火災・感電の原因になります。



運転中は操作をしたり、画面を見たりしないでください。事故・ケガの原因になります。操作や画面を見る場合には、安全な場所に停車してください。



コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。



車体に穴をあける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。



注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

説明書に従って、正しく接続してください。火災・事故の原因になります。



コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。



通風孔・放熱板をふさがないでください。火災・故障の原因になります。



付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。



水のかかるところ、湿気やホコリの多いところには取り付けしないでください。火災・故障の原因になります。



新旧の電池を混ぜる、指定外の電池を使用する、極性を間違えるなど、しないでください。電池の破裂・液漏れや火災・ケガの原因になります。



取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。お買い上げ店に依頼してください。



車外の音が聞こえる音量でお使いください。事故・故障の原因になります。



車以外には使わないでください。感電・ケガの原因になります。



禁止

ディスク挿入口や可動ディスプレイのすきまには、指や異物を入れないでください。ケガ・故障の原因になります。



禁止

取り扱い上のご注意(共通)

本機の近くでは携帯電話や無線機を使わない
雑音や誤動作の原因になる場合があります。電話や無線機は、本機から離れてご使用になることをお勧めします。

また、リモコンスターターも誤動作の原因になる場合があります。

無理な力を加えない

製品は、精密な部品を用いて精密に組み立てられています。初期の性能を維持するためにやさしく丁寧な取り扱いをお願いいたします。

本機は国内で使う

本機は国内でのみお使いいただけます。外国ではお使いになれません。

お手入れは乾いた布を使う

お手入れは乾いた布が強く絞った布で拭いてください。ベンジンやシンナーなどの化学薬品は絶対に使わないでください。

極端な温度では使わない

車内の温度が極端に高い(炎天下駐車)ときや低い(厳冬期駐車)ときは、常温になってからお使いください。

結露にご注意

寒い車内を急に暖めると、信号読み取り装置のレンズに露がつき誤動作の原因になります。このようなときは、一時間ほどディスクを取り出しておくとして正常に動作します。

音飛びについて

路面状況の悪いところを走行しているときに音飛びを起こすことがあります。プレーヤーには影響ありません。車のサスペンションを通常より硬めにしていたり、サスペンションが壊れている場合は、音飛びする頻度が高くなります。

取り扱い上のご注意(ディスク)

- 特殊な形状のディスクは使わない
必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因になります。
- ディスクのお手入れ
柔らかいきれいな布で中心から外に向かってやさしく拭き取ってください。
- 新品のバリに注意
ディスクの側面やセンターホール面にバリ(突起)があると勝手にイジェクトします。このような場合は、ボールペンなどで縁をなぞって突起を取り除いてください。

モニターのお手入れ

- モニターが汚れたら柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどい場合は水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に含ませ、よくしぼってからふきとってください。
- 「水」や「水で薄めた中性洗剤」は直接モニターにかけないでください。液体が内部に入り「シミ」や「故障」の原因になります。
- モニター表面は傷つきやすいため、硬いものでふいたり、こすったりしないでください。
- ベンジン、アルコール、シンナーは使用しないでください。変色、変質の原因になります。

本機で再生できるディスクについて

● 再生できるディスク

本機では次のディスクが再生できます。

	マーク(ロゴ)	記録内容	ディスクの大きさ	最長再生時間
DVD ビデオ		音声 + 映像 (動画)	12cm*	片面 ディスク 約4時間
				両面 ディスク 約8時間
			8cm	片面 ディスク 約80分
				両面 ディスク 約160分
ビデオ CD		音声 + 映像 (動画)	12cm	約74分
			8cm	約20分
音楽* CD		音声	12cm	約74分
			8cm (CDシングル)	約20分

* DVD二層ディスクに対応しています。

** ディスクレーベル面に「CDロゴ」上記マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。
CD-R/CD-RWを含む。

● 再生できないディスク

DVD-ROM、DVD-RAM、DVD+R、DVD + RW、CD-ROM (MP3 ファイルを除く)、フォトCD、ナビゲーション専用ディスクなど。

CD規格外ディスクを使用された場合には安定した再生や最良な音質の保証は致しかねます。

また、本機は音楽専用機器で録音した音楽専用のCD-R (CD-Recordable) / CD-RW (CD-ReWritable)、MP3 ファイル形式のCD-R / CD-RW の再生が可能です。

次のようなディスクは、再生できないことがあります。
指紋やキズが付いている / 車内や製品内に長時間放置した / データ書き込み状態が不安定 / データ書き込みに失敗し再録音した場合など。

MP3 ファイルはISO9660 レベル1またはレベル2フォーマットで記憶したディスクを使用してください。詳しくは80 ~ 81 ページを参照してください。

● コンパクトディスク (CD/CD-R/CD-RW) の取り扱い
故障や動作不良を起こさないために次の点を守ってお使いください。

盤面にさわらない / 直射日光下に置かない / ラベルを貼らない / ホコリやごみが付いたら拭きとる / バリが無いことを確認する / 市販のアクセサリを使わない。

特に CD-R/CD-RW は以下の点について十分に注意してください。

車内や製品内に長時間放置しない。特に直射日光下には絶対放置しない。 高温多湿の環境に弱いので、ディスクが劣化し再生不能となる場合があります。

● CD-R/CD-RW をご使用のお客様へ

- CD-R/CD-RW が再生できない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行っているかどうか、確認してください。
- 行われていない場合は、クローズセッション (ファイナライズ処理) を行い、再度、お試しください。

● DVD-R/DVD-RW ディスクのご使用について

- 本機は、DVD-Video モードで記録されたディスクのみ対応しております。DVD-VRモードで記録されたディスクの再生はできません。
- ファイナライズ処理 (再生専用 DVD プレーヤーで再生可能にするための処理) がされていないディスクは再生できませんのでご注意ください。
- ディスクの書き込みに使用した機器の仕様によっては再生できない場合があります。(本機には違法コピー検出機能を有しております。違法コピーを検出した際は再生を行いません。正しい方式で記録されないPCソフトで記録した場合、本機では違法コピーと検出する場合があります)
- 録画に使用したDVDレコーダやDVD-R/DVD-RWディスクの特性、傷、汚れ、またはDVDプレーヤーのピックアップレンズの汚れ、結露などにより再生できない場合があります。
- DVD-R/DVD-RW ディスクの取り扱いにあたっては、ディスクの使用上の注意を必ずお守りください。
- DVD-R/DVD-RW ディスクのレーベル面や記録面にシール、シート、テープなどを貼らないでください。
- DVD-R/DVD-RWディスクは通常のDVDに比べ高温多湿環境や直射日光に弱く、一部のディスクや長時間車内に放置したディスクは再生できない場合があります。

● DVDリージョン番号 (再生可能な地域番号) について
このDVDヘッドユニットのリージョン番号は2です。DVDビデオディスクに表示されている地域番号が下記のようなリージョン番号を含んでいないまたは、が表示されていないディスクは再生できません。



- ビデオ CD について

本機は、プレイバックコントロール (PBC) 付き対応ビデオ CD (バージョン 2.0) に対応しています。

PBCとはディスクに記録されているメニュー画面を見ながら、見たい画面や情報を対話形式で楽しむことができることを言います。

- ディスクに関する用語について

タイトル

DVDビデオディスクに記録されている映像や曲などを区切るいちばん大きな単位です。

チャプター

タイトルの内容を場面や曲ごとにさらに小さく区切った単位です。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、ドルビー、PRO LOGICおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権 1992 - 1997 年

ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

DTS および DTS 2.0+Digital Out は米国 Digital Theater System, Inc. の登録商標です。

目次



安全にお使いいただくために

警告 / 注意	2
本機で再生できるディスクについて	4
目次	6



基本操作

簡単操作ガイド	8
リセットする	9
電源の ON/OFF	9
ディスプレイを立ち上げる / 収納する	9
ディスプレイ前後方向の調整	9
ディスプレイの角度調整	10
ディスプレイをフラットにする	10
音量 / バランス / フェダー / ディフィートの調整	10
ミュートの ON/OFF	10

CD 操作

ディスクディスプレイ表示について	11
CD (ディスク) を聴く	12
曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)	13
繰り返し聴く REPEAT (リピート)	13

MP3 操作

MP3 を聴く	14
フォルダを選択する	14
曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)	15
繰り返し聴く REPEAT (リピート)	15

DVD / ビデオ CD 操作

DVD / ビデオ CD を再生する	16
再生中止 (PRE STOP)	17
再生停止	17
早送り / 早戻し	17
チャプター / トラックの頭出し	17
静止 (一時停止) する	18
コマ送り再生	18
スローモーション再生	18
タイトル番号で頭出し (DVD のみ)	18
チャプター / トラック番号で直接頭出し	18
チャプター / トラック / タイトルリピート再生	19
音声言語切りかえ	20
アングル切りかえ (DVD のみ)	20
サブタイトル (字幕言語) 切りかえ (DVD のみ)	20
DVD の使用状態を表示する	21
ビデオ CD の使用状態を表示する	21

ラジオ操作

ラジオ、TV ディスプレイ表示について	22
ラジオを聴く	23
自動的に放送局を記憶する	23
記憶した放送局を受信する (ファンクションスイッチで選ぶ場合)	24
記憶した放送局を受信する (プリセットリストメニューで選ぶ場合)	24
放送局を記憶する	24
道路交通情報を受信する TRF (トラフィックインフォメーション)	24

TV 操作

自動的にチャンネルを記憶する	25
記憶した放送局を呼び出す (ファンクションスイッチで選ぶ場合)	25
記憶した放送局を呼び出す (プリセットリストメニューで選ぶ場合)	25
放送局を選ぶ	26
放送局を記憶する	26
音声多重機能を使う (二重音声放送)	26
チャンネルを微調整する	26

サウンド調整

MX モードの設定	27
Bass Engine の設定	28
低音を強調する (バスセンター周波数)	28
高音を強調する (トレブルセンター周波数)	29
タイムコレクション (時間補正) について	29
Bass Focus の設定	30
タイムコレクションの調整	30
X-OVER の設定	31
サブウーハーの ON/OFF	31

タイトル / テキスト操作

タイトル / テキスト / スクロールとは	32
タイトルをつける	32
タイトルリストを表示する	33
スクロールの設定	34

便利な機能

リアエンター機能	35
リモコン受光部を切りかえるには	35
デジタルスベアナ表示をする	36
映像ソースのみを切りかえる (サイマル機能)	36
表示モードを切りかえる	37
バックライトを OFF にする (BLACK OUT 機能)	37
デモンストレーション機能	37
デモンストレーションの解除	37

セットアップ操作

DVD セットアップ	38
言語設定を変更する	38
メニュー言語の設定	38
音声言語の設定	38
字幕言語の設定	38
カントリーコード設定を変更する	39
視聴規制（パレンタルロック）を設定する	39
PARENTAL の規制レベル設定	39
パスワードを変更する	39
デジタル出力設定を変更する	40
デジタルアウトの設定	41
TV スクリーン設定を変更する	41
GENERAL セットアップ	42
ディスプレイ自動開閉の設定	42
時計を表示する	42
時刻を設定する	42
操作音の切りかえ	42
VISUAL の設定	43
MP3 再生データの設定	43
エリア機能を使う	43
エリア放送局一覧表	44
SYSTEM セットアップ	45
ナビゲーション音声の割込み音量調整	45
ナビゲーションモードを設定する	46
AUX モードを設定する	46
外部入力に表示名をつける	46
リアカメラの設定	46
外部モニター出力の設定	46
外部割り込みモードの設定	46
外部割り込みアイコン表示の設定	47
外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定	47
DISPLAY セットアップ	47
バックライトの明るさを設定する	48
映像の明るさを調整する	48
映像の色あいを調整する	48
映像の色の濃さを調整する	48
背景画面を切りかえる（バックグラウンド）	48
オートバックグラウンドの設定	48

ナビゲーション操作（オプション）

ナビゲーションモードにする	49
---------------	----

AUX 操作（オプション）

AUX（外部入力）モードにする	49
-----------------	----

チェンジャー操作（オプション）

チェンジャーで CD/MD を聴く	50
-------------------	----

外部オーディオプロセッサの操作（オプション）

ドルビーサラウンドの調整手順	51
スピーカーの設定をする	51
外部オーディオプロセッサの MX モードを設定する	52
X-OVER の調整	53
手動で時間補正を行う（TCR）/ 位相切りかえ	53
グラフィック EQ の調整	54
パラメトリック EQ の調整	55
Bass Compressor の設定	56
Bass Focus の設定	56
スピーカーセットアップ	57
Dolby 5.1ch を設定する	57
映像を調整する	57
リアに低域音声をミキシングする	58
迫力のある大音量再生を楽しむには	58
スピーカーレベルを調整する	58
DVD レベルを調整する	59
設定した内容を記憶する	59
記憶した内容を呼び出す	59
PRO LOGIC II を使う	60
リニア PCM の設定	61

リモコン操作

使用時のご注意	62
電池を入れる	62
別売のナビゲーション / TV モニターを操作する	62
本機を操作する	63
別売の DVD プレイヤー / DVD チェンジャーを操作する	64

✂ 取り付けと接続

取り付けと接続	65
---------	----

その他

用語解説	77
言語コード表	78
DVD について	79
MP3 について	80
故障かな？と思ったら	82
規格	85
保証について	86
お問い合わせ窓口	87
索引	88

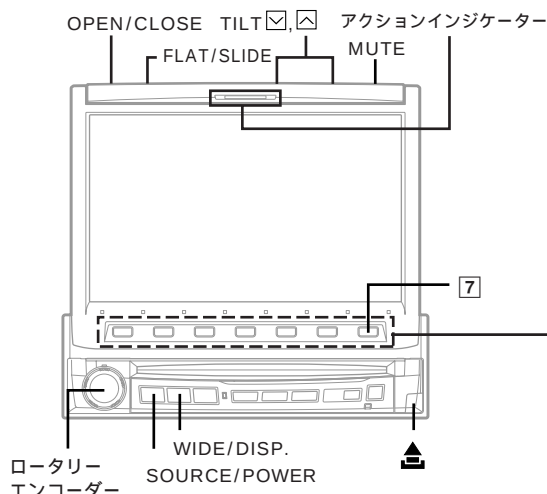
オプションとは？

当社別売の拡張オーディオ製品（チェンジャー、オーディオプロセッサなど）と組み合わせた場合に、本機から操作することができます。別売製品と組み合わせた際にお読みください。

説明ページを検索するために

本書は説明ページを検索するために「索引」を用意しました。「索引」については、88ページ～90ページを参照してください。





基本操作

簡単操作ガイド

ここでは、DVD モード画面の移りかわりを例に説明します。

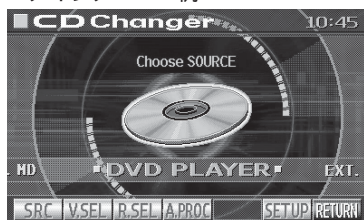
- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
オープニング画面が表示される。

<オープニング画面>



- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。

<メインメニュー例>



- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、DVD PLAYER を選ぶ。



- 別売のDVDプレイヤーまたはDVDチェンジャーと接続した場合、**AUX1**、**AUX2** は、**EXT. DVD** または **DVD CHG**、**AUX2** と表示します。
- 別売のDVDプレイヤーとDVDチェンジャーが両方接続している場合は、**AUX1** が **EXT. DVD**、**AUX2** が **DVD CHG** と表示します。
- **A.PROC** と **SETUP** の選択は、車を停止させてから行ってください。

- 4 「ロータリーエンコーダー」を押して、選んだソースを確定する。
DVD モードメイン画面に切りかわる。
(DVD が再生される。)

< DVD モードメイン画面例 >



ファンクションガイド：
ファンクションスイッチ①～⑦に割りあてられた機能を表示。
(各ソースによって、ファンクションガイドの表示が異なります。)



- ファンクションガイド上に、PAGE1/2または、PAGE1/3など表示された場合はファンクションスイッチ⑦を押すことで、ファンクションガイドの内容が切りかわり、さらに多くの操作が可能になります。

- * 1. 「WIDE/DISP.」を2秒以上押す。
モードメイン画面の動作インジケータ表示がスぺアインジケータ表示に切りかわる。
- 2. 再度、「WIDE/DISP.」を2秒以上押すと、動作インジケータ表示に戻る。

- 5 他のソースに移るときは「SOURCE/POWER」を押す。

アクションインジケーターは、下記以外は常時点灯しています。

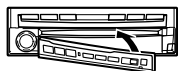
- ディスプレイ開閉時は点滅。
- Dimmer(ディスプレイの明るさ)の設定がONのときは消灯。



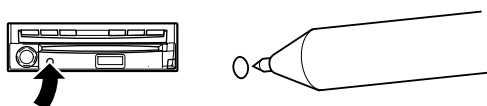
リセットする

初めて使うときや、チェンジャー等を取り付けたり車のバッテリーを交換したときは、リセットしましょう。

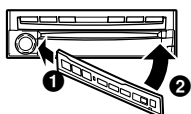
- 1 電源が切れているか確認する。入っている場合には、「SOURCE/POWER」を2秒以上押して、電源を切る。
- 2 「▲」を押す。
パネルの右端をつかんで、斜め上に引き上げて取り外す。



- 3 リセットスイッチをペン先などで押す。



- 4 左端の角へパネルを斜めに合わせる。
左側を押さえながら、右端をまっすぐ、そのままゆっくりカチッと音がするまで押し込む。



Memo

- リセットによるディスプレイクローズ（収納）動作中は、すべてのボタン操作を受け付けません。
- 取り外したパネル（特に裏側端子部）が暖かくなっても故障ではありません。
- リセットすると、時刻など記憶した内容が消去されます。もう一度、登録し直してください。
- 取り外したパネルを取り付ける前にコネクター端子に汚れやほこりがないこと、取り外したパネルとメインユニットの間に異物がないことを確認してください。

電源の ON/OFF

- 1 イグニッションキー（エンジンキー）をACCまたはONにする。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
システム電源がONになる。
オープニング画面が表示される。
- 3 電源を切るときは、「SOURCE/POWER」を2秒以上押す。
システム電源がOFFになる。

Memo

- 電源は「▲」「▲」「OPEN/CLOSE」「TILT」「FLAT/SLIDE」以外のどのスイッチを押しても入りません。
- 動きのない画面（たとえばナビゲーションの「必ずお読みください」の画面）を長時間表示させないでください。同じ画像を長時間表示しているとその画像が他の画面に残ってしまうことがあります。
- 電源を入れた直後は、画面が暗く見にくいことがあります。数分たちまちで正常表示になります。
- 走行中は、一部の操作しかできません。（SETUPモード、A.PROCモード、ディスク/ラジオ/TVにタイトルをつけるときなどの操作は、車を停止させてから行ってください。）
- モニターが閉じた状態でも、リモコン操作（63～64ページ）は、ご使用できます。

ディスプレイを立ち上げる / 収納する

- 1 「OPEN/CLOSE」を押す。
ブザー音3回とともに、ディスプレイが自動的に立ち上がる / 収納する。

Memo

- ディスプレイを立ち上げたときに障害物があったときは、その場で止まります。その時は障害物を取り除き、再度「OPEN/CLOSE」を押すとディスプレイは収納されます。
- ディスプレイを手で無理に引っ張ったり押し戻したりしないでください。故障の原因となります。

ディスプレイ前後方向の調整

- 1 ディスプレイが立ち上がっているときに、「FLAT/SLIDE」を2秒以上押す。
押すたびにディスプレイが前後にスライドする。

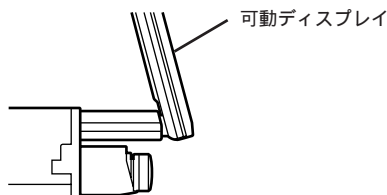
Memo

- ディスプレイ前後調整の動作中に、障害物などはさみ込みが起きた場合は「OPEN/CLOSE」操作しか受け付けません。

ディスプレイの角度調整

ディスプレイを見やすい角度（40～105度の間）に調整することができます。

- 1 「TILT」を押して希望の角度に調整する。
調整されたディスプレイの角度はそのまま記憶される。



- 角度調整の際に障害物にあたったときは、障害物を取り除き、再度「TILT」を押してください。
- 液晶ディスプレイは、斜め方向から見ると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。見やすい角度に調整してご覧ください。
- 車のバッテリー電圧が低い場合、視野角度を調整すると画面がちらつくことがあります。故障ではありません。

ディスプレイをフラットにする

立ち上げたディスプレイの影になってしまう車側のエアコン操作などをしたいときに便利な機能です。

- 1 「FLAT/SLIDE」を押す。
ディスプレイはフラット（平ら）な状態になる。
- 2 再度「FLAT/SLIDE」を押すと、ディスプレイの角度はもとに戻る。



- フラット（平らな）状態から10秒後にディスプレイはもとの角度に戻ります。
- ディスプレイがFLAT（平らな）状態のときに、ディスプレイの背面に物を置くなど無理な力を加えますと故障の原因となります。

音量/バランス/フェダー/ディフィートの調整

- 1 「ロータリーエンコーダー」を押して調整したいモードを選ぶ。
VOL. → NAV.* → SUB W.* → BAL. → FAD.
→ DEFEAT → VOL.
* NAV.（45ページ）SUB W.（31ページ）が「ON」に設定されている場合は、レベル調整ができます。

VOL.	--	音量調整モード 音を大きくしたり小さくしたりします。 （0～35）
NAV.	--	ナビゲーション割り込み音声調整モード 割り込みの音量を調整します。 （0～15）
SUB W.	--	サブウーハー出力レベル調整モード サブウーハー出力の調整を行います。 （0～+15）
BAL.	--	バランス調整モード 左右のスピーカー音量を調整します。 （L15～R15）
FAD.	--	フェダー調整モード 前後のスピーカー音量を調整します。 （F15～R15）
DEFEAT	--	ディフィート設定モード ONに設定するとMXをOFF、パス/トレブルセンター周波数を初期値に戻します。（ON/OFF）

- 2 5秒以内に「ロータリーエンコーダー」を回転させて、好みのレベルに調整または設定する。



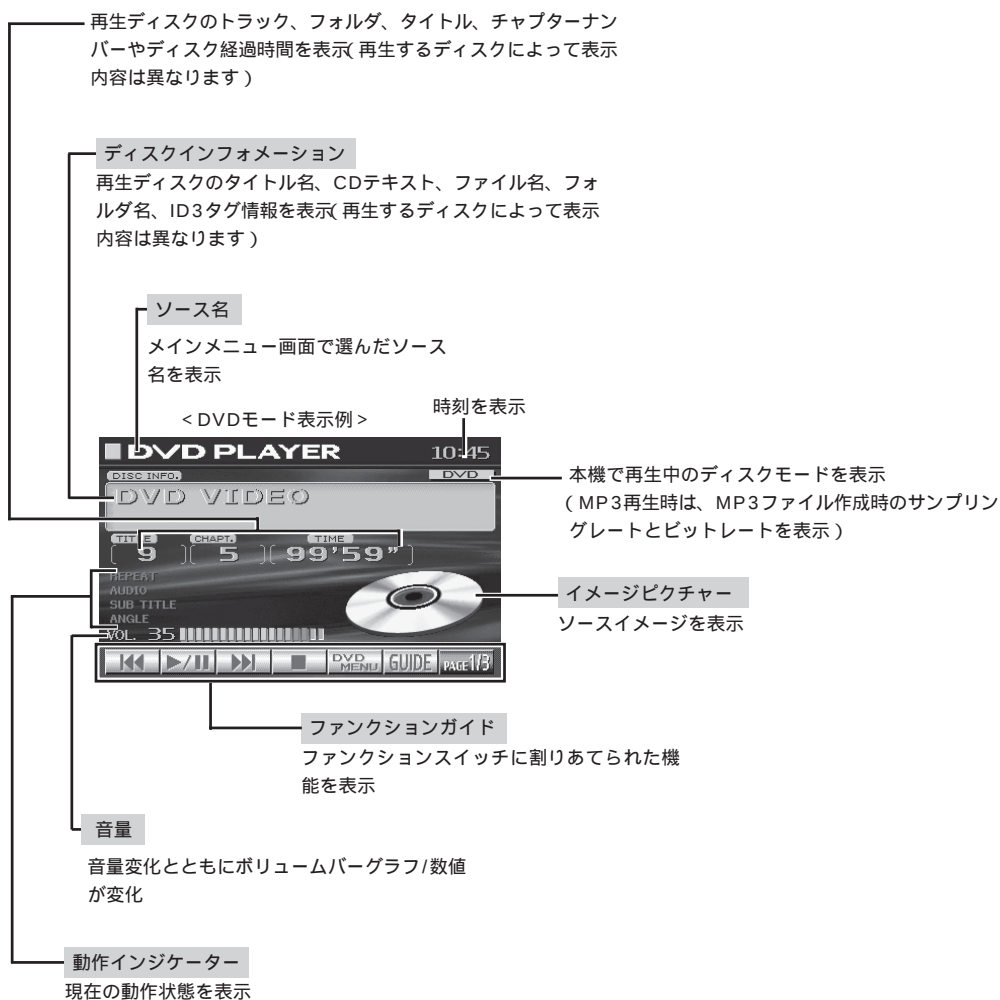
- 音量調整だけは、モード選択しなくても、ロータリーエンコーダーを回して調整することができます。
- モード選択して5秒間操作を行わなかった場合、選択前の表示に戻ります。
- 使用環境によっては、一時的に音量が下がる場合がありますが故障ではありません。
- 製品を長い時間使用していると、製品は徐々に熱くなってきます。温度上昇は異常ではありませんが、煙が出たり変な臭いがした場合は直ちに使用を中止し、お買い上げ店または、サービスセンターにご相談ください。

ミュートのON/OFF

- 1 「MUTE」を押す。
瞬時に音量が下がる。
- 2 解除するには、再度「MUTE」を押す。

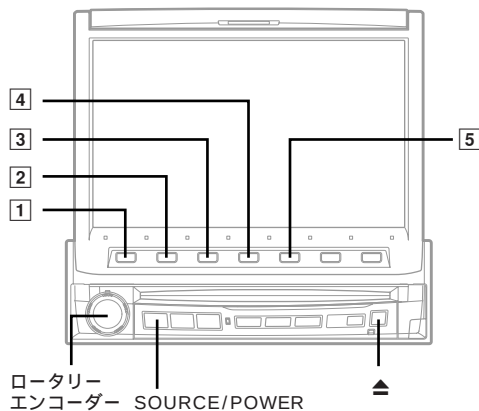
ディスクディスプレイ表示について

DVD や CD モード、そして接続されたチェンジャーモードを操作するために、ディスプレイ表示を理解しましょう。下図をよくお読みの上、操作説明に進んでください。



Memo

- 画面はDVDモードのメイン画面です。ソースによっては画面が異なる場合があります。
- 詳しくは、操作説明ページ(12～21ページ)も合わせてご覧ください。



Memo

- 当社のCDプレイヤー、CDチェンジャーを接続した場合、本機から操作することができます。(CDチェンジャーを使っているディスクの選びかたは50ページに記載しています。)
- 別売のCDプレイヤーを接続している場合は、CDプレイヤー側にディスクを挿入すると演奏が始まります。
- すでにディスクが入っているときは、「SOURCE/POWER」を押して、DVD PLAYERモードにすると演奏が始まります。
- シングルCD(8cm CD)はそのまま使用できますので、アダプター無しで挿入してください。
- ディスクによっては、演奏が始まるまで時間がかかる場合があります。

CD 操作

CD (ディスク) を聴く

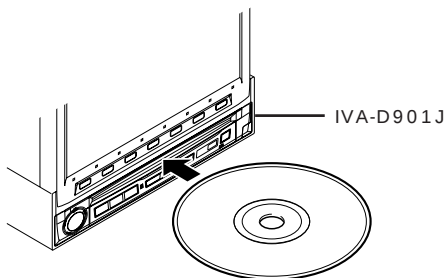
- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、DVD PLAYERモードを選ぶ。
「ロータリーエンコーダー」を押して、確定する。
DVD モードメイン画面に切りかわる。
ディスクを挿入すると演奏が始まる。

CD 再生時、DISC INFO. (ディスクインフォメーション) の上段にはトラックテキスト*が表示される。
下段には入力したタイトルが表示される。
タイトルがない場合には、ディスクテキスト*が表示される。

* CD テキスト挿入時

< 挿入時の注意 >

- ラベル面を上にする。



- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、音量(0 ~ 35)を調整する。
- 4 ① (◀) または ③ (▶) を押して、聞きたい曲を選ぶ。
 - 演奏中の曲の頭出し ① (◀) を押す。
 - 早戻し ① (◀) を押し続ける。
 - 次の曲の頭出し ③ (▶) を押す。
 - 早送り ③ (▶) を押し続ける。
- 5 演奏を一時中止するには ② (▶/||) を押す。
再度 ② (▶/||) を押すと、演奏が始まる。
- 6 ディスクを取り出すときは、▲を押す。
ディスクは必ず取り出す。



Memo

- 別売のCDプレイヤーを接続している場合は、CDプレイヤー側の▲を押すとディスクが取り出せます。
- 当社のMDプレイヤー製品(MDA-5051)と接続した場合は、MDモードに切りかわると自動的にMD再生が始まります。
本機からMDA-5051を操作することはできません。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

- 1** [5] (M.I.X.) を押して、< M.I.X. インジケーター > を点灯させる。

順不同に曲を演奏する。



- 2** 解除するには、再度 [5] (M.I.X.) を押す。



- チェンジャー接続時
 - ・ 「M.I.X.」を指定すれば、ディスクの曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していきます。
 - ・ 「M.I.X. ALL」を指定すれば、1曲ずつディスクをかえながら演奏します。(M.I.X ALL 対応チェンジャーのみ)
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。

CD/DVD/ビデオCD/チェンジャーモード時に、「BAND」を押すと、ディスクモードが切りかわります。



繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

- 1** 演奏中に、[4] (REPEAT) を押して、< REPEAT インジケーター > を点灯させる。
選んだ曲を繰り返し演奏する。

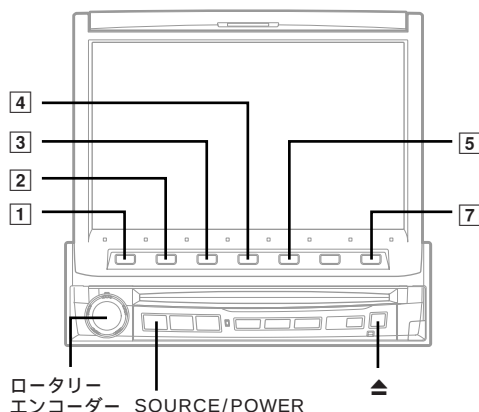


(*チェンジャーモード時)

- 2** 解除するときは、再度 [4] (REPEAT) を押す。



- チェンジャー接続時
 - ・ 「REPEAT ALL」を指定すれば、そのディスクを繰り返し演奏させることができます。
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。



ロータリー
エンコーダー SOURCE/POWER



Memo

- すでにディスクが入っているときは、「SOURCE/POWER」を押して、DVD PLAYERモードにすると演奏がはじまります。

- 「ロータリーエンコーダー」を回転させて、音量（0 ~ 35）を調整する。
- ①（◀◀）または③（▶▶）を押して、聴きたい曲（ファイル）を選ぶ。
 - 演奏中の曲の頭出し ①（◀◀）を押す。
 - 早戻し ①（◀◀）を押し続ける。
 - 次の曲の頭出し ③（▶▶）を押す。
 - 早送り ③（▶▶）を押し続ける。
- 演奏を一時停止するときは、②（▶||）を押す。再度②（▶||）を押すと、演奏が再開する。
- ディスクを取り出すときは、「▲」を押す。ディスクは必ず取り出す。



Memo

- 本機はオーディオデータとMP3データが混在するディスクでも再生が可能です。
- CDオーディオデータ再生時のトラック表示はディスクに記憶されているトラック番号になります。
- 作成したライティングソフト / MP3変換ソフトによっては、再生できない場合があります。その際は他のソフトでお試ください。
- 「MP3再生データの設定」は43ページに記載しています。

MP3 操作

MP3 を聴く

本機で再生できるMP3は、ISO9660 level1またはlevel2フォーマットで記録されたディスクのみです。詳しくは、「MP3について」（80 ~ 81 ページ）を参照してください。

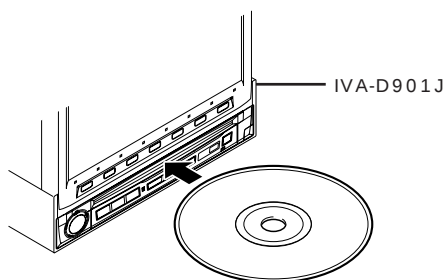
- 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 「ロータリーエンコーダー」を回して、DVD PLAYERモードを選ぶ。「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。
DVD モードメイン画面に切りかわる。
- MP3 ファイルが収録されたディスクを挿入する。
演奏がはじまり、MP3 インジケーターが点灯する。

MP3再生時、DISC INFO.(ディスクインフォメーション)の上段には、ファイル名を表示後、ID3 タグ情報があれば曲名を表示する。
下段には、フォルダ名表示後、ID3 タグ情報があればアーティスト名 / アルバム名が表示される。

MP3 のディスクは、演奏がはじまるまで時間がかかる場合があります。

< 挿入時の注意 >

- ラベル面を上にする。



フォルダを選択する

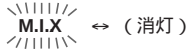
- ⑦（PAGE1/2）を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- ①（◀ F. DN）または③（F. UP ▶）を押して、前後のフォルダを選ぶ。

曲順を変えて聴く M.I.X. (ミックス)

曲を順不同に演奏させることができます。

- 1 [5] (M.I.X.) を押して、< M.I.X. インジケーター > を点灯させる。

順不同に曲を演奏する。



- 2 解除するには、再度 [5] (M.I.X.) を押す。

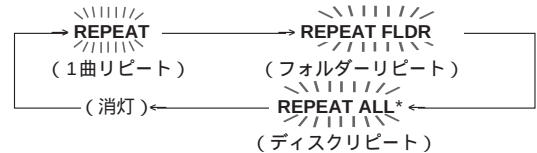
Memo

- MP3対応チェンジャー接続時
「M.I.X.」を指定すれば、ディスクの曲を順不同に全曲演奏し、次のディスクへと移動していきます。
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。
- 「M.I.X. FLDR」にするには、「REPEAT FLDR」選択後、[5] (M.I.X.) を押してください。選んでいるフォルダ内のみを対象にM.I.X.演奏します。[4] (REPEAT) を押して、「REPEAT FLDR」を解除すると、「M.I.X. FLDR」も同時に解除されます。

繰り返し聴く REPEAT (リピート)

気に入った曲や覚えたい曲を繰り返し演奏させることができます。

- 1 演奏中に、[4] (REPEAT) を押して、< REPEAT インジケーター > を点灯させる。
選んだ曲を繰り返し演奏する。

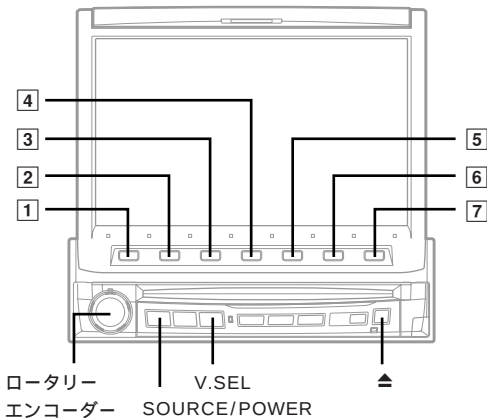


(*チェンジャーモード時)

- 2 解除するときは、再度 [4] (REPEAT) を押す。

Memo

- MP3対応チェンジャー接続時
「REPEAT ALL」を指定すれば、そのディスクを繰り返し演奏させることができます。
- M.I.X.演奏中に、1曲リピートはできません。
- 「REPEAT FLDR」を指定すれば、フォルダ内の曲のみを対象に繰り返し演奏されます。



DVD / ビデオ CD 操作

- プレイポジションメモリ機能:
再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえても次に電源をONすると続きから再生します。

DVD/ ビデオ CD を再生する

- ⚠ 注意**
- DVDの場合、ディスクによって各種操作を禁止しているものもあり、これらのディスクでは操作を受け付けられない場合もあります。
 - ディスクによっては本書で説明している操作とは異なる場合があります。ディスクの説明書もあわせてご覧ください。
 - ディスクに指紋が付くと再生しない場合があります。再生しない場合は、ディスクを取り出し、きれいにふき取ってからご使用ください。
 - リモコンのボタンを押すときは、1つずつ確実に押してください。同時に複数のボタンを押すと誤動作の原因になります。
 - 再生中に電源またはイグニッションキーをOFFにしたり、ソースを切りかえたりしても、次に電源をONすると続きから再生します。ディスクを切りかえた場合はプレイポジションメモリは解除されます。
 - ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。その時はモニター画面に マークを表示します。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、DVD PLAYER モードを選ぶ。「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。
DVD モードメイン画面に切りかわる。
ディスクを挿入すると再生する。

< 挿入時の注意 >

- 文字やイラストが書いてある面を上にする。

- 3 ディスクを取り出すときは、本体の「▲」を押す。
ディスクは必ず取り出す。



Memo

- 両面ディスクのDVDは、自動でウラ面を再生しません。ディスクを取り出しウラ返しに入れ直してください。
- ナビゲーション用の地図ディスクは、絶対に挿入しないでください。故障の原因になります。
- 別売のDVD/ビデオCD/CDプレイヤーまたは、DVDチェンジャー製品と接続した場合、本機から操作ができます。
- 再生中に、[6] (GUIDE) を押して、ファンクションガイドのON/OFFを切りかえることができます。
ON: ファンクションガイドを常に画面表示させます。
OFF: ファンクションガイドの表示は、各スイッチ操作がなければ約5秒後に消えます。再度ファンクションガイドを表示させるには、ファンクションスイッチ [1] ~ [7] のいずれかを押してください。
- ファンクションガイドONの時には、「WIDE / DISP.」を2秒以上押しての表示モード切りかえはできません。
- 「DVDセットアップ」項目(38 ~ 41 ページ)もあわせてご覧ください。

● メニュー画面が表示されたら

DVDやプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは、自動的にメニュー画面が表示される場合があります。この時は次の操作を行い再生させてください。

DVD メニュー

- 1 [7] (PAGE1/3) を 2 回押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 [1] (←) [2] (↑) [3] (↓) [4] (→) のいずれかを押して項目を選び、[5] (ENTER) を押して項目を確定する。



Memo

- ディスクによっては添付リモコンの「0 ~ 9」(10キー)で直接メニュー項目を選び、「ENTER」を押して確定することができます。

ビデオ CD メニュー

添付リモコンの「0 ~ 9」(10キー)を使い希望する番号を選び、「ENTER」を押して確定することができます。

PBCがOFFになっている場合、メニュー画面は表示されません。その場合は、PBCをONにしてください。

リモコン操作:

「MENU」を押す。

押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。

本体ボタンからの操作:

- 1 ビデオ CD モード時、[5] (PBC) を押す。
押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。
- 2 [1] (◀◀) または [3] (▶▶) を押して、メニュー項目を選ぶ。

ディスクによっては異なりますが、DVDメニュー画面を表示させることができます。

リモコンからの操作：

「MENU」を押す、または「TITLE」を2秒以上押す。

本体ボタンからの操作Ⅰ：

- 1 DVDモード時、**[5]** (DVD MENU) を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 **[1]** (←) **[2]** (↑) **[3]** (↓) **[4]** (→) **[5]** (ENTER) を押して、項目を設定する。

本体ボタンからの操作Ⅱ：

- 1 DVDモード時、**[7]** (PAGE1/3) を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 **[5]** (TITLE MENU) を押す。
- 3 **[1]** (←) **[2]** (↑) **[3]** (↓) **[4]** (→) **[5]** (ENTER) を押して、項目を設定する。
- **[6]** (DVD RETURN) を押すと、1つ前の選択画面に戻る。

再生しているディスクの動作状態を確認するには：

- 1 停車時に「V.SEL」を押す。
押すごとに映像ソースが切りかわる。
DVDモードメイン画面が表示される。
ディスクの動作状態を確認することができる。
- 2 DVD映像に戻すには、再度「V.SEL」を押す。
押すごとに映像ソースが切りかわる。

< DVDディスプレイ例 >



- ① 現在のチャプター番号
- ② 現在のタイトル番号
- ③ リpeat設定
- ④ 現在のサウンド (DOLBY D 3/2.1 などを表示)
- ⑤ 現在の字幕言語
- ⑥ 現在のアングル番号
- ⑦ 現チャプターの再生経過時間

再生中止 (PRE STOP)

再生中に停止ボタンを押すと止まり、その位置を記憶します。

- 1 再生中に**[4]** (■) を1回押す。
「PRE STOP」と表示される。
- 2 PRE STOP中に**[2]** (▶/||) を押す。
再生中止した位置から再生される。



- ディスクによってはPRE STOPしたとき、再生中止位置を正しく記憶できない場合があります。

再生停止

- 1 再生中に**[4]** (■) を2回押す。または**[4]** (■) を1回2秒以上押す。
「STOP」と表示される。



- 添付リモコンの「■」を2秒以上押しても再生は停止します。
- 停止中に**[2]** (▶/||) を押すとはじめから再生されます。

早送り / 早戻し

- 1 再生中に**[1]** (◀◀) (早戻し) または**[3]** (▶▶) (早送り) を1秒以上押すと、2倍速早送り / 早戻しになり、その状態で5秒以上押し続けると8倍速で早送り / 早戻しができる。
- 2 通常再生に戻すには**[1]** (◀◀) または**[3]** (▶▶) をはなす。



- 早送り / 早戻し中は音声と字幕は再生されません。
- DVD及びプレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDでは早送り / 早戻し中にメニュー画面に戻ることがあります。

チャプター / トラックの頭出し

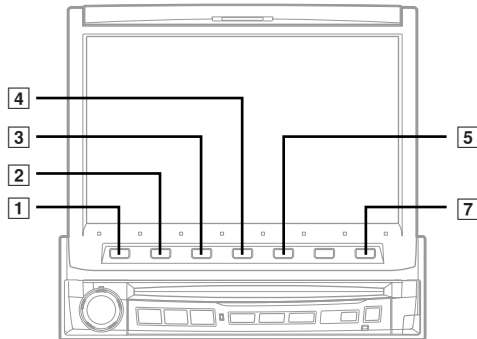
- 1 再生中に**[1]** (◀◀) または**[3]** (▶▶) を押す。
押すたびにチャプター / トラックが切りかわる。選んだチャプター / トラックの再生が始まる。
- ▶▶ 一つ後のチャプター / トラックの頭から再生。
- ◀◀ 現在のチャプター / トラックの頭から再生。



- DVDによっては、チャプターがないものもあります。

補足説明

チャプターとは、DVDに記憶されている映像や曲の区切り。
トラックとは、ビデオCDやCDに記憶されている映像や曲の区切り(1曲分)。



静止（一時停止）する

- 1 再生中に [2] (▶/II) を 1 回押す。
- 2 再度、再生するには [2] (▶/II) を押す。



- 静止中は音声は再生されません。
- 一時静止画(ポーズ)の状態から再生を開始すると画像や音声が一瞬止まる場合がありますが故障ではありません。

コマ送り再生

- 1 一時停止中に [3] (▶▶) を押す。
押すたびに 1 コマずつコマ送り再生する。
- 2 通常再生に戻すには [2] (▶/II) を押す。



- コマ送り再生中は音声は再生されません。

スローモーション再生

- 1 一時停止中に [3] (▶▶) を押し続けると、1/8 倍速でスローモーション再生になる。さらにその状態で 5 秒押し続けると 1/2 倍速にスローモーションの速度が変わる。
- 2 [3] (▶▶) をはなすと一時停止になるので、[2] (▶/II) を押して再生させる。



- スローモーション再生中は音声は再生されません。
- スライドショーを再生中はスロー再生はできません。
- 1/2 倍速、1/8 倍速はおおよその速さです。ディスクによっても異なります。
- バックスローモーション再生はできません。

タイトル番号で頭出し (DVD のみ)

DVD に記憶されているタイトルから簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止中に、再生させたいタイトル番号を添付リモコンの「0」～「9」で入力する。



- PRE STOP の状態ではチャプター/トラック番号の頭出しになります。
- タイトル番号が記憶されていないディスクでは頭出しはできません。
- タイトル番号が 2 桁のときは、手順 2 の「ENTER」を押さなくても自動で再生が始まります。
- 「DEL」を押すたびに、タイトル番号を 1 桁ずつ消去できます。「DEL」を 2 秒以上押すと、タイトル番号をすべて消去できます。
- 「RETURN」を押すと、頭出しモードは解除されます。

- 2 添付リモコンの「ENTER」を押す。
選んだタイトル番号から再生がはじまる。

チャプター/トラック番号で直接頭出し

ディスクに記憶されているチャプター/トラックを簡単に頭出しできます。

- 1 再生停止時以外のときに、[5] (DVD MENU) を押す。
DVD メニュー画面を呼び出す。
- 2 [7] (PAGE 1/3) を 2 回押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 3 [1] (←) ～ [4] (→) を押して、再生させたいチャプターまたはトラックを選ぶ。
- 4 [5] (ENTER) を押す。
選んだチャプターまたはトラックから再生が始まる。



- [5] (TITLE MENU) からも DVD タイトルメニューを呼び出すこともできますが、ディスクによっては、[5] (DVD MENU) または [5] (TITLE MENU) を押しても呼び出せない場合があります。

リモコン操作

- 1 再生停止時以外のときに、再生させたいチャプターまたはトラック番号を「0」～「9」で入力する。
- 2 「ENTER」を押す。
選んだチャプター／トラックから再生がはじまる。



- チャプターが記憶されていないディスクでは頭出しはできません。
 - チャプター番号が2桁または3桁のときは、手順2の「ENTER」を押さなくても自動で再生が始まります。
 - プレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDではトラック番号で直接頭出しは使用できません。PBCがOFFになっている場合、メニュー画面は表示されません。その場合は、PBCをONにしてください。
- リモコン操作：
1. 「MENU」を押す。
押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。
- 本体ボタンからの操作：
1. Video CDモード時、[5] (PBC) を押す。
押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。
 2. [1] (◀◀) または [3] (▶▶) を押して、メニュー項目を選ぶ。
- 「DEL」を押すたびに、チャプター／トラック番号を1桁ずつ消去できます。「DEL」を2秒以上押すとチャプター／トラック番号をすべて消去できます。
 - 「RETURN」を押すと頭出しモードは解除され通常再生に戻ります。
 - チャプター／トラック番号がわかっている場合は、再生中またはPRE STOP中などに「0～9」キーで直接頭出しができます。

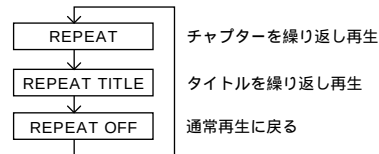
チャプター／トラック／タイトル
リピート再生

ディスクのタイトルやチャプター、トラックを選び繰り返し再生できます。

DVD

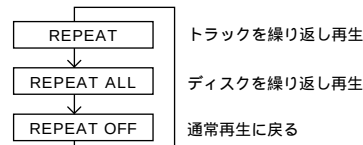
- 1 再生中に [7] (PAGE1/3) を押す。

- 2 [4] (REPEAT) を押す。
押すごとにリピートの種類が変わる。

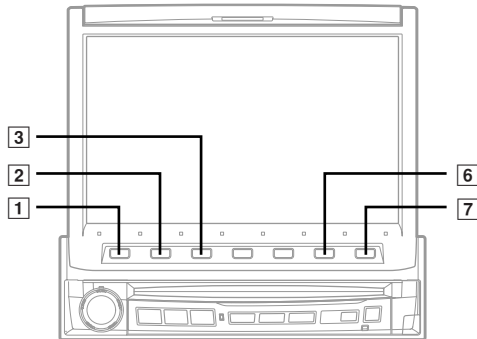


ビデオ CD

- 1 再生中に [4] (REPEAT) を押す。
押すごとにリピートの種類が変わる。



- プレイバックコントロール(PBC)付きビデオCDではトラックリピート／ディスクリピートは使用できません。PBCがOFFになっている場合、メニュー画面は表示されません。その場合は、PBCをONにしてください。
- リモコン操作：
1. 「MENU」を押す。
押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。
- 本体ボタンからの操作：
1. Video CDモード時、[5] (PBC) を押す。
押すごとにPBC ON/OFFを切りかえる。
 2. [1] (◀◀) または [3] (▶▶) を押して、メニュー項目を選ぶ。
- ディスクによってはリピートの種類が切りかえられない場合があります。



音声言語切り換え

複数の音声または音声言語が記録されているDVDでは、再生中に音声言語を切り換えることができます。

1 再生中に **[7]** (PAGE1/3) を押す。

2 **[1]** (AUDIO) を押す。

押すごとにディスクに記録されている音声が変わる。



- 電源投入時 / ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。
- ディスクによっては再生中の切り換えができない場合があります。そのときはディスクメニューから音声を選んでください。
- 音声変更まで多少時間がかかる場合があります。

● 多重音声記録されているビデオ CD

1 再生中に添付リモコンの「AUDIO」を押す。

押すごとにLチャンネル、Rチャンネル音声の組み合わせが変わる。

→ LL → RR → LR

アングル切り換え (DVD のみ)

複数のアングルで撮影された映像が記録されているDVDでは、再生中にアングル(角度)を切り換えることができます。

1 再生中に **[7]** (PAGE1/3) を押す。

2 **[2]** (ANGLE) を押す。

押すごとにディスクに記録されているアングルが切りかわる。



- アングル変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによって異なりますがアングル切り換えには2種類あります。
 - ・シームレス: つぎめなくスムーズにアングルが切りかわる。
 - ・ノンシームレス: アングル切り換え時、一瞬静止画となりその後アングルが切りかわる。

サブタイトル (字幕言語) 切り換え (DVD のみ)

複数の字幕言語が記録されているDVDでは、再生中に字幕言語の切り換えや非表示にすることができます。

1 再生中に **[7]** (PAGE1/3) を押す。

2 **[3]** (SUB.T) を押す。

押すごとにディスクに記録されている字幕言語が切りかわる。また字幕をOFFにする。



- 字幕言語変更までに多少時間がかかる場合があります。
- ディスクによっては再生中の切り換えができない場合があります。そのときはディスクメニューから選んでください。
- 電源投入時 / ディスク交換時は初期設定で設定されている言語になります。その言語がディスクにないときは、ディスクで決められている言語になります。
- ディスクによってはOFFに設定しても、サブタイトルが表示される場合があります。

● ディスクメニューからの切り換え
ディスクによって異なりますが、音声言語、アングル、サブタイトルをディスクメニューから切り換えることができます。



リモコン操作:

1 「MENU」を押す。または「TITLE」を2秒以上押してメニューを表示させ、項目を選び「ENTER」を押す。

2 「ジョイスティック」で言語またはアングルを選び「ENTER」を押す。
(ディスクによっては言語またはアングルメニュー表示中に「0~9」で選ぶことができます。)

本体ボタンからの操作 I:

1 DVDモード時、**[5]** DVD MENU を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。

2 **[1]** (←) **[2]** (↑) **[3]** (↓) **[4]** (→) **[5]** (ENTER) を押して、項目を設定する。

本体ボタンからの操作 II:

1 DVDモード時、**[7]** (PAGE1/3) を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。

2 **[5]** (TITLE MENU) を押す。

3 **[1]** (←) **[2]** (↑) **[3]** (↓) **[4]** (→) **[5]** (ENTER) を押して、項目を設定する。
[6] (DVD RETURN) を押すと、1つ前の選択画面に戻る。

DVD の使用状態を表示する

再生中の DVD ビデオディスクの状態（タイトル番号、チャプター番号など）を画面に表示して確認することができます。

- 1 再生中にファンクションスイッチ [1] ~ [7] のうち 1 つを押す。
ファンクションガイドが表示される。
- 2 [6] (GUIDE) を 2 秒以上押す。
10 秒間再生状態が表示される。

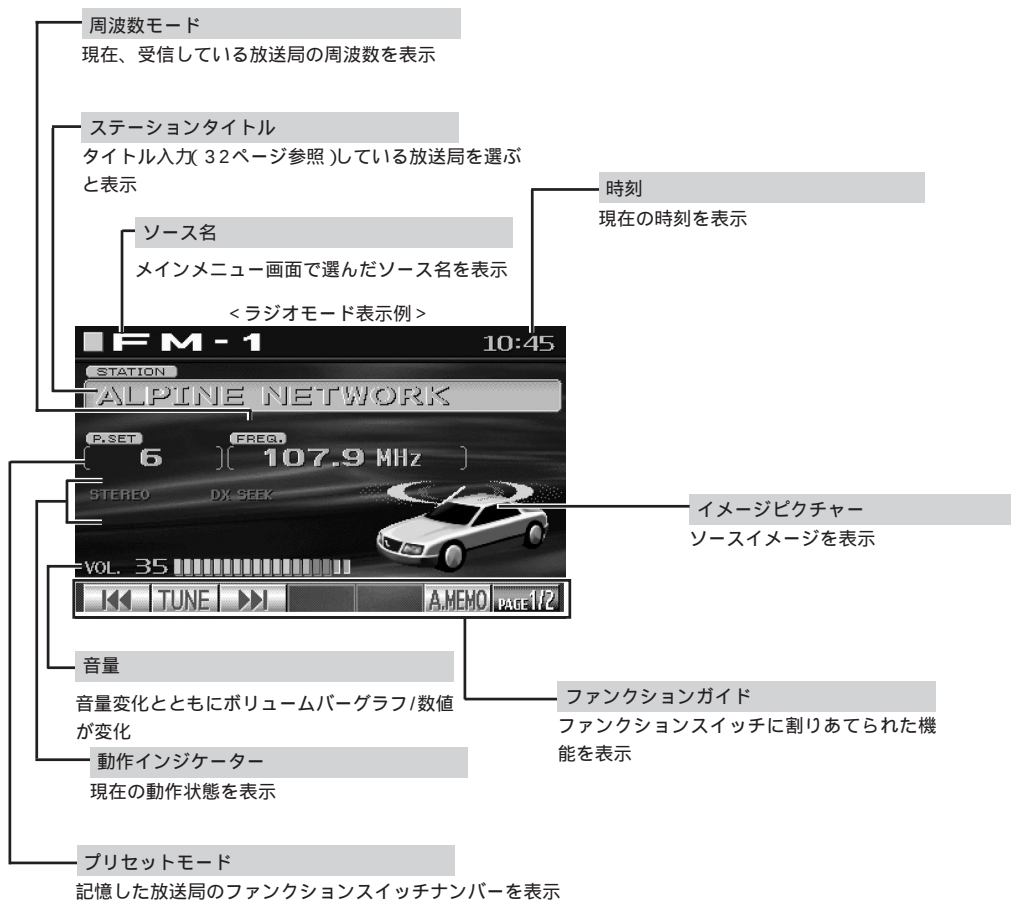
ビデオ CD の使用状態を表示する

再生中のビデオ CD の状態（トラック番号など）を画面に表示して確認することができます。

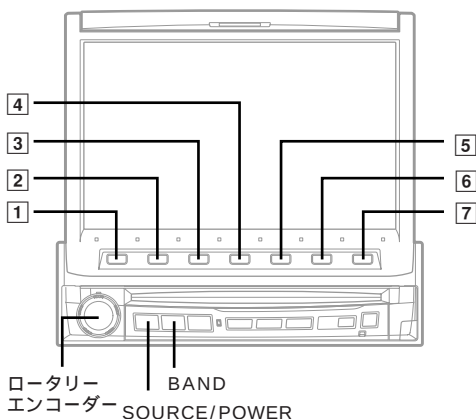
- 1 再生中にファンクションスイッチ [1] ~ [7] のうち 1 つを押す。
ファンクションガイドが表示される。
- 2 [6] (GUIDE) を 2 秒以上押す。
10 秒間再生状態が表示される。

ラジオ、TV ディスプレイ表示について

ラジオモードやTVモードを操作するために、ディスプレイ表示を理解しましょう。下図をよくお読みの上、操作説明に読み進んでください。



- 画面はラジオモードのメイン画面です。TVモードは若干画面が異なります。
- タイトル入力されていなければ「NO TITLE」と表示します。
- 詳しくは、操作説明ページ(23 ~ 26 ページ)も合わせてご覧ください。



ラジオ操作

ラジオを聴く

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、RADIOモードを選ぶ。「ロータリーエンコーダー」を押して、確定する。
ラジオモードメイン画面に切りかわる。
ラジオモードにするとアンテナが伸びる。(パワーアンテナ装着車のみ)

- 3 「BAND」を押して、バンドを選ぶ。

→ FM-1 → FM-2 → AM →

- 4 ② (TUNE) を押してチューニングモードを選ぶ。
② (TUNE) を押すごとに ①、③ のファンクションガイド表示がかわる。



- 5 ① または、③ を押して、聴きたい放送局 (周波数) をさがす。



- 初期設定はディスタンスモードに設定されています。
- ・ ディスタンスモードのとき
受信可能な放送局を自動的に受信します。(自動選局)
- ・ ローカルモードのとき
電波の強い放送局だけを自動的に受信します。(自動選局)
- ・ マニュアルモードのとき
1段階ずつ周波数がかわります。(手動選局)
- ディスプレイに<STEREOインジケーター>が点灯しているときは、FMステレオ放送が受信されています。(AMステレオ放送は常にモノラルで受信します。)

自動的に放送局を記憶する

- 1 「BAND」を押してバンドを選ぶ。

→ FM-1 → FM-2 → AM →

- 2 ⑥ (A.MEMO) を押す。
電波の強い順に6つの放送局が自動的に受信されてファンクションスイッチ ① (P.SET1) ~ ⑥ (P.SET6) に記憶される。記憶が終わるとファンクションスイッチの ① に記憶されている放送局が受信される。



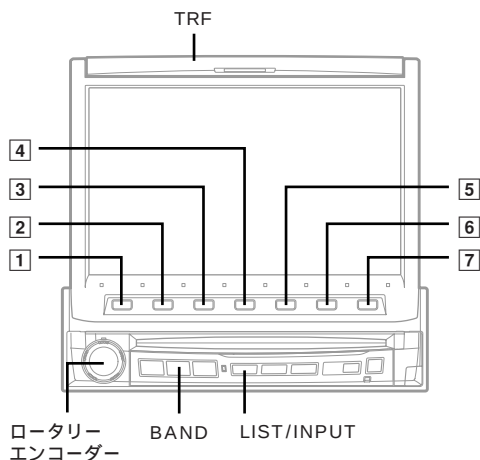
- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。

エリア機能 43 ~ 44 ページ参照 で設定した放送局を呼び出すことができます。
希望の放送局がファンクションスイッチ ① (P.SET1) ~ ⑥ (P.SET6) から選べます。
エリア機能を設定した場合、「BAND」を押すごとに下記の様に切りかわります。

FM-1 (エリア機能で設定したFM放送局)
↓
FM-2* (ユーザーズプリセットしたFM放送局)
↓
AM (エリア機能で設定したAM放送局)

* エリア機能をお使いになるお客様でプリセットメモリーするときは、バンドのFM-2を選び、プリセットメモリーをすることをお勧めします





記憶した放送局を受信する (ファンクションスイッチで選ぶ場合)

- 1 「BAND」を押してバンドを選ぶ。
押すたびにバンドが切りかわる。

→ FM-1 → FM-2 → AM →
- 2 [7] (PAGE1/2) を押します。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 3 記憶させた放送局のファンクションスイッチ [1] (P.SET1) ~ [6] (P.SET6) のうち 1 つを押す。
選択した放送局が受信される。

記憶した放送局を受信する (プリセットリストメニューで選ぶ場合)

記憶した放送局をリスト表示させ、聴きたい放送局が選べます。
放送局にタイトルが入力されていれば、リストに表示されます。(タイトル入力方法は、32 ~ 33 ページ参照)

- 1 「LIST/INPUT」を押す。
プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)に切りかわる。
記憶した放送局が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を左右に回して、聴きたい放送局を選ぶ。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を押す。
ラジオモードメイン画面に切りかわり、聴きたい放送局が受信される。



- プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)表示時、LIST、[7] (RETURN) を押して、ラジオモードメイン画面へ戻ることができます。
- プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)表示画面上で、[2] (RADIO) を押すと、ラジオモードのプリセット(ステーション)リストメニュー画面へダイレクトに切りかえることができます。
さらに、「BAND」を押すことにより、バンドが切りかわって表示します。
[1] を押すと、ディスクタイトルリスト表示画面へ切りかえることができます。
[3] (TV) を押すと、TVモードのプリセット(ステーション)リストメニュー画面へ切りかえることができます。

放送局を記憶する

- 1 記憶させたい放送局を選んだあと、[7] (PAGE1/2) を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 2 ファンクションスイッチ [1] (P.SET1) ~ [6] (P.SET6) のうち 1 つを 2 秒以上押す。
押されたファンクションスイッチに放送局が記憶される。



- 放送局は18局まで記憶できます。
FM1...6局、FM2...6局、AM...6局
- すでに記憶されているスイッチに記憶させると、後から記憶させた放送局が有効になります。

エリア機能(43 ~ 44 ページ参照)で設定した放送局も上記手順で記憶することができます。

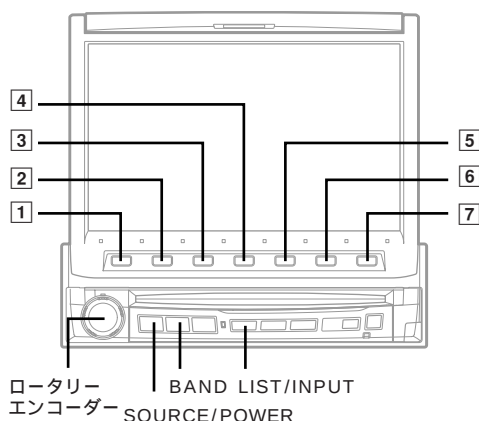


道路交通情報を受信する TRF (トラフィックインフォメーション)

- 1 「TRF」を押す。
TRF モードになり、AM 放送の 1620kHz、または 1629kHz の交通情報を受信する。
- 2 [1] (1620kHz) または [2] (1629kHz) を押して、1620kHz/1629kHz を切りかえる。
- 3 解除するには、再度「TRF」を押す。



- CD、チェンジャー、ラジオのいずれかを聴いていても、交通情報を受信できます。
- [7] (RETURN) を押して、TRF モードを解除することもできます。



TV 操作

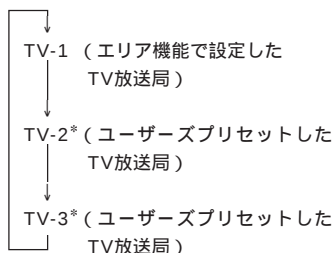
自動的にチャンネルを記憶する

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、TVモードを選ぶ。
「ロータリーエンコーダー」を押して、確定する。
TVモードメイン画面に切りかわる。
- 3 [6] (A.MEMO) を押す。
電波の強いチャンネルを選択して記憶する。オートメモリーが終わると、自動的に電波の強いチャンネルを受信する。



- 放送局を1つも受信できなかったときは、操作の直前に受信していた放送局が受信されます。
- 放送局は18局まで記憶できます。
TV1...6局、TV2...6局、TV3...6局

エリア機能(43～44ページ参照)で設定した放送局を呼び出すことができます。
希望の放送局がファンクションスイッチ[1] (P.SET1)～[6] (P.SET6) から選べます。
エリア機能を設定した場合、「BAND」を押すごとに下記の様に切りかわります。



* エリア機能をお使いのお客様でプリセットメモリーするときは、バンドのTV-2またはTV-3を選び、プリセットメモリーすることをお勧めします

記憶した放送局を呼び出す (ファンクションスイッチで選ぶ場合)

- 1 TVモードのとき、[7] (PAGE1/2) を押す。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- 2 記憶させた放送局の[1] (P.SET1)～[6] (P.SET6) のうちの1つを押す。
呼びだしたい放送局を選ぶ。

記憶した放送局を呼び出す (プリセットリストメニューで選ぶ場合)

記憶した放送局をリスト表示させ、呼びだしたい放送局が選べます。
放送局にタイトルが入力されていれば、リストに表示されます。
(タイトル入力方法は、32～33ページ参照)

- 1 「LIST/INPUT」を押す。
プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)に切りかわる。
記憶した放送局が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を左右に回して、呼びだしたい放送局を選ぶ。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を押す。
TVモードメイン画面に切りかわり、呼びだしたい放送局が受信される。

(次ページへつづく)

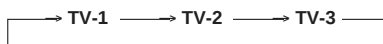


Memo

- プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)表示時、**[7]**(RETURN)を押して、TVモードメイン画面へ戻ることができます。
 - プリセットリストメニュー画面(ステーションタイトルリスト)表示上で、**[2]**(RADIO)を押すと、ラジオモードのプリセット(ステーション)リストメニュー画面へダイレクトに切りかえることができます。
- さらに、「BAND」を押すことにより、バンドが切りかわって表示します。
- [1]**を押すと、ディスクタイトルリスト表示画面へ切りかえることができます。
- [3]**(TV)を押すと、TVモードのプリセット(ステーション)リストメニュー画面へ切りかえることができます。

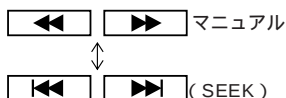
放送局を選ぶ

- TVモードのとき、「BAND」を押して、バンドを選ぶ。



- [2]**(TUNE)を押して、チューニングモードを選ぶ。

[2](TUNE)を押すごとに**[1]**、**[3]**のファンクションガイド表示がかわる。



Memo

- SEEKモードのとき受信可能な放送局(チャンネル)を自動的に探します。
- マニュアルモードのとき、1段階ずつチャンネルがかわります。

- [1]**または、**[3]**を押して、放送局を選ぶ。マニュアルモード時に押し続けると連続でチャンネルNo(1～62ch)が切りかわる。

TVモードのとき、各スイッチの操作から5秒経過すると、ファンクションガイド表示画面から、TV画面に切りかわります。再度、ファンクションガイドを表示させるには、**[7]**を押してください。



放送局を記憶する

- TVモードのとき、記憶させたい放送局に周波数を合わせる。
記憶させたい放送局を選んだあと、**[7]**(PAGE1/2)を押す。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
- [1]**(P.SET1)～**[6]**(P.SET6)のうちの1つを2秒以上押す。
押されたファンクションスイッチに放送局が記憶される。

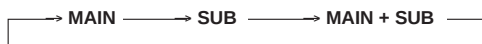
エリア機能(43～44ページ参照)で設定した放送局も上記手順で記憶することができます。



音声多重機能を使う(二重音声放送)

ニュースや映画などの2カ国語放送や、スポーツの実況中継など、異なった2種類の音声放送(二重音声放送)を楽しむことができます。

- TVモードのとき、**[4]**(MAIN/SUB)を押す。
押すたびに切りかわる。



Memo

- 二重音声放送を受信していないときは、表示は切りかわりますが、主音声/副音声(メイン/サブ)は切りかわりません。

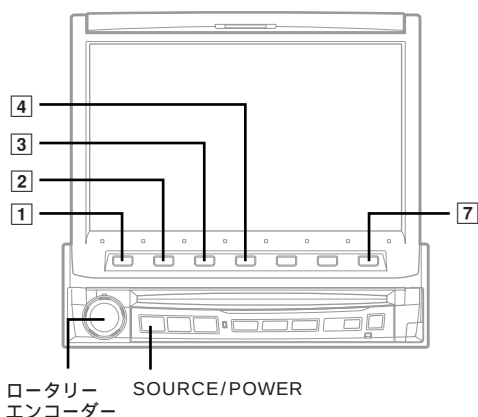
チャンネルを微調整する

- TVモードのとき、**[5]**(FREQ. ADJ)を押す。
微調整モードに切りかわる。
- 「ロータリーエンコーダー」を回しながら最も映りがいいように調整する。
- 調整が終わったら、「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。



Memo

- チャンネルの微調整は、車を停止させてから行って下さい。走行中は操作できません。
- サイマル機能(36ページ参照)でTVを選んでいるときは、チャンネルの微調整はできません。



サウンド調整

MX モードの設定

MX(Media Xpander)は、ラジオ/CD/MP3 など音楽ソースごとにボーカルや各楽器の音を際立たせ、走行騒音の多い車内においても音楽をクリアに再生することができます。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 ④ (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面に切りかわる。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、Media Xpander を選ぶ。
OFF：すべての音楽ソースの MX 効果が OFF になる。
ON：設定した MX モードを ON にする。
- 4 ② (ON) を押したあとに ③ (SETUP) を押す。
MX リスト画面に切りかわる。
- 5 「ロータリーエンコーダー」を回して、お好みの MX モードを選ぶ。
モードごとにファンクションガイドが切りかわる。

- 6 ファンクションガイドに割り当てられた「ファンクションスイッチ」を押す。
音楽ソース (AM ラジオを除くラジオ / CD など) についてのレベルが調整できる。但し、MX モードが反映されるのは音楽ソースを切りかえたあとになる。

MX FM (OFF、FM1 ~ 3)

こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。

MX CD (OFF、CD1 ~ 3)

情報量豊富な CD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。

MX MP3 (OFF、MP3 1 ~ 3) / MX MD (OFF、MD 1 ~ 3)

圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。

MX DVD

・(OFF、MOVIE 1 ~ 2)

映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。

・(DVD MUSIC)

ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。

MX AUX1 ~ 3 (OFF、MP3、MOVIE、MUSIC)

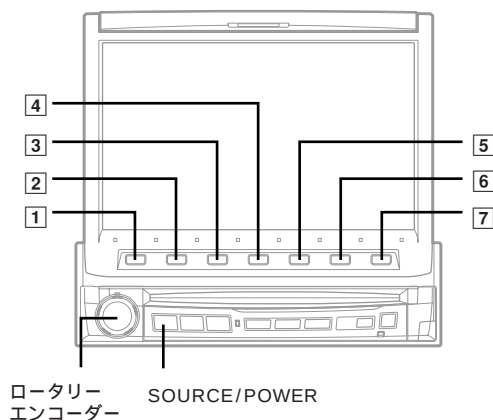
接続するメディアに対応した MX モード (MP3、MUSIC、MOVIE) が選べる。

- 7 設定が終了したら ⑦ (RETURN) を押す。
1 つ前の画面に戻る。



Memo

- MX レベルは 1 → 2 → 3 の順に効果が大きくなります。
- OFF に設定すると、各 MX モードの MX 効果が OFF になります。
- 「MX MD」は別売の MD 製品と接続した場合に表示します。
- 「MX AUX」は外部入力製品を接続し、さらに「AUX モードを設定する」(46 ページ) で LEVEL LOW または LEVEL HIGH 設定のときに表示します。
- ディフューズ (10 ページ) が ON のときは、操作を受け付けません。
- ラジオ / CD / MP3 などの各音楽ソースごとに設定することができます。
- MX 連動機能を持つオーディオプロセッサ製品 (PXA-H700 など) と組み合わせる場合、オーディオプロセッサ側の MX 内容と連動させることができます。その場合オーディオプロセッサ側での設定が必要になります。詳しくは、オーディオプロセッサ側の取扱説明書をご覧ください。
その他のオーディオプロセッサと組み合わせる場合は、操作を受け付けません。



Bass Engine の設定

次の手順 1 ~ 7 は、サウンド設定の共通操作になります。設定項目の詳細は、それぞれの項目を参照してください。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサー)リスト画面が表示される。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、bass engine を選ぶ。
- 4 [1] (SETUP) を押す。
bass engine リスト画面に切りかわる。
- 5 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望のサウンド設定を選ぶ。
サウンドモードごとにファンクションガイド*が切りかわる。
*ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示
設定項目：
BASS ↔ TREBLE ↔ BASS FOCUS ↔
TIME CORRECTION ↔ CROSSOVER
- 6 「ファンクションスイッチ」を押して、設定を切りかえる。
- 7 [7] (RETURN) を押す。
1 つ前の画面に戻る。

低音を強調する (バスセンター周波数)

お聴きになる音楽ソフトに合わせて強調したい周波数 (低音) を設定 / 調整することができます。

設定項目： BASS

設定値： FREQ. DN/UP / LEVEL DN/UP /
WIDTH DN/UP

バスセンター周波数の設定

設定した周波数の音域 (低音) を強調する。
(各音楽ソース共通設定)

- 1) [1] (FREQ. ◀DN) または [2] (FREQ. UP ▶) を押して、周波数を選ぶ。
60Hz ↔ 70Hz ↔ 80Hz ↔ 90Hz ↔
100Hz ↔ 130Hz ↔ 150Hz ↔ 180Hz

バスレベルの調整

バスレベルを調整することで低音域を強めたり、弱めたりすることができる。

(各音楽ソースごとに調整が可能)

- 1) [3] (LEVEL ◀DN) または [4] (LEVEL UP ▶) を押して、お好みの Bass Level (- 7 ~ + 7) を選ぶ。

バス帯域幅の設定

設定した周波数に対して帯域幅を変更することができる。
(各音楽ソース共通設定)

- 1) [5] (WIDTH ◀DN) または [6] (WIDTH UP ▶) を押して、帯域幅を設定する。
Q1 ↔ Q2 ↔ Q3 ↔ Q4
(狭い) ←.....→ (広い)



- ディフィートの設定がONのときは、操作を受け付けません。
- 外部オーディオプロセッサーを接続した場合は、調整を行えません。

高音を強調する（トレブルセンター周波数）

お聴きになる音楽ソフトに合わせて強調したい周波数（高音）を設定／調整することができます。

設定項目：TREBLE

設定値：FREQ. DN/UP / LEVEL DN/UP

トレブルセンター周波数の設定

設定した周波数の音域（高音）を強調する。

（各音楽ソース共通設定）

- 1) [1] (FREQ. ◀DN) または [2] (FREQ. UP ▶) を押して、周波数を選ぶ。

10kHz ↔ 12.5kHz ↔ 15.0kHz ↔ 17.5kHz

トレブルレベルの調整

トレブルレベルを調整することで高音域を強めたり、弱めたりすることができます。

（各音楽ソースごとに調整が可能）

- 1) [3] (LEVEL ◀DN) または [4] (LEVEL UP ▶) を押して、お好みの Treble Level(- 7 ~ + 7) を選ぶ。



- デフィートの設定がONのときは、操作を受け付けません。
- 外部オーディオプロセッサを接続した場合は、調整を行えません。

タイムコレクション（時間補正）について

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばらつきがあります。リスニングポジションでの時間差を取り除くときにこの機能を使います。ここでは、時間補正値の算出方法について説明します。

- 1 リスニングポジション（運転席など）に座り、頭の位置と各スピーカーの距離（m）を測定する。

- 2 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。

$L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$

- 3 スピーカーごとに算出した距離を音速（343m/s 気温20℃）で割る。

その値が各スピーカーの時間補正値となる。

● 具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正値を算出する。

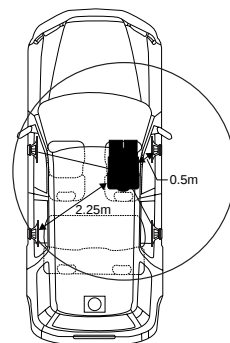
（条件）：

一番遠いスピーカー～リスニングポジション：2.25m
フロント右側スピーカー～リスニングポジション：0.5m

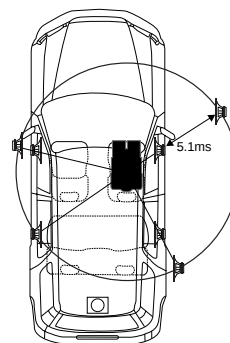
（算出）： $L = 2.25\text{m} - 0.5\text{m} = 1.75\text{m}$

補正時間 = $1.75 \div 343 \times 1000 = 5.1(\text{ms})$

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正値に5.1(ms)与えることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音になる。右前スピーカーと左後スピーカーでは1.75mの差がある。

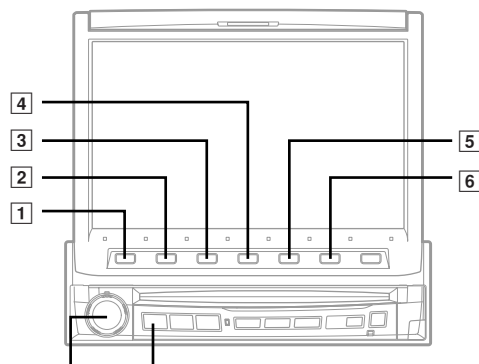


時間補正により到達時間差が解消される。

右前スピーカーに5.1msの時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。



- サブウーハーの時間補正はできませんが、フロント/リアスピーカーの時間補正を行うことで、サブウーハーをフロント方向に定位させることができます。
- 車種・システムに合わせたタイムコレクションのデータを、アルパインオーナー専用Webサイトの「i-Personalize™」にアクセスし、Web上からプリントアウトしたデータを参考に、マニュアル入力してください。ただし、車種によってはデータがない場合があります。詳しくはALPINE Webサイトをご覧ください。(<http://www.alpine.co.jp>)



ロータリー
エンコーダー SOURCE/POWER

Bass Focus の設定

あらかじめ設定されているステップ値(時間差)を使用することで、前後 / 左右同時に時間差を設定することができ、感覚的に時間補正を調整することができます。
ステップは、0.1ms 間隔で 0 ~ 99 ステップ用意しています。

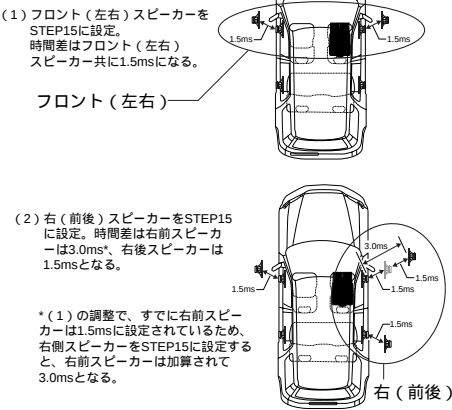
設定項目 : BASS FOCUS
設定値 : TIME DN/UP / FRONT / LEFT / RIGHT / REAR

スピーカーを選ぶには、**[3]** (FRONT) ~ **[6]** (REAR) の中から前後左右のスピーカーを選ぶ。
ステップを設定するには、**[1]** (TIME ◀DN) または **[2]** (TIME UP▶) を押して、前後 / 左右のステップを設定する。

**Memo**

- Bass Focusでの設定は、タイムコレクションにも反映されます。
- 運転席では低音の遅れが原因で音楽が鈍く聴こえがちです。Bass Focusを使うことで、音場位置を見かけ上前方に移動し、最適な音場バランスが得られます。

Bass Focus の設定例



時間差表

STEP数	時間差(ms)	STEP数	時間差(ms)	STEP数	時間差(ms)
0	0.0	34	3.4	68	6.8
1	0.1	35	3.5	69	6.9
2	0.2	36	3.6	70	7.0
3	0.3	37	3.7	71	7.1
4	0.4	38	3.8	72	7.2
5	0.5	39	3.9	73	7.3
6	0.6	40	4.0	74	7.4
7	0.7	41	4.1	75	7.5
8	0.8	42	4.2	76	7.6
9	0.9	43	4.3	77	7.7
10	1.0	44	4.4	78	7.8
11	1.1	45	4.5	79	7.9
12	1.2	46	4.6	80	8.0
13	1.3	47	4.7	81	8.1
14	1.4	48	4.8	82	8.2
15	1.5	49	4.9	83	8.3
16	1.6	50	5.0	84	8.4
17	1.7	51	5.1	85	8.5
18	1.8	52	5.2	86	8.6
19	1.9	53	5.3	87	8.7
20	2.0	54	5.4	88	8.8
21	2.1	55	5.5	89	8.9
22	2.2	56	5.6	90	9.0
23	2.3	57	5.7	91	9.1
24	2.4	58	5.8	92	9.2
25	2.5	59	5.9	93	9.3
26	2.6	60	6.0	94	9.4
27	2.7	61	6.1	95	9.5
28	2.8	62	6.2	96	9.6
29	2.9	63	6.3	97	9.7
30	3.0	64	6.4	98	9.8
31	3.1	65	6.5	99	9.9
32	3.2	66	6.6		
33	3.3	67	6.7		

タイムコレクションの調整

操作の前に「タイムコレクション(時間補正)」について (29 ページ) を参照してください。

設定項目 : TIME CORRECTION
設定値 : TIME DN/UP / FRONT-LEFT / FRONT-RIGHT / REAR-LEFT / REAR-RIGHT

スピーカーを選ぶには、**[3]** (FRONT-LEFT) ~ **[6]** (REAR-RIGHT) の中から調整するスピーカーを選ぶ。
時間補正値を調整するには、**[1]** (TIME ◀DN) または **[2]** (TIME UP▶) を押して、時間補正値 (0.0 ~ 9.9) を調整する。

**Memo**

- タイムコレクション(時間補正)での調整値は、Bass Focusモードにも反映されます。

X-OVER の設定

HPF (ハイパスフィルター) / LPF (ローパスフィルター) を設定することで好みの音響空間を再現することができます。

設定項目： CROSSOVER

設定値： LPF DN/UP / HPF DN/UP

LPF (ローパスフィルター) の設定：

[1] (LPF ◀DN) または [2] (LPF UP ▶) を押して、LPF 調整をする。

FLAT(off) ↔ 80Hz ↔ 120Hz ↔ 160Hz

設定した周波数より下の周波数帯域を出力する。

本機のサブウーハー出力を OFF に設定した場合、LPF 機能は使用できません。

HPF (ハイパスフィルター) の設定：

[3] (HPF ◀DN) または [4] (HPF UP ▶) を押して、HPF 調整をする。

FLAT(off) ↔ 80Hz ↔ 120Hz ↔ 160Hz

設定した周波数より上の周波数帯域を出力する。



Memo

- HPF、LPF とバス / トレブルセンター周波数を組み合わせて使用した場合、設定した音域によっては強調されないことがあります。
- HPF、LPF を OFF (FLAT) 以外に設定した場合は、本機のサブウーハー出力はモノラルになります。

サブウーハーの ON/OFF

1 「SOURCE/POWER」を押す。

メインメニューが表示する。

2 [4] (A.PROC) を押す。

A.PROC (オーディオプロセッサー) リスト画面が表示される。

3 「ロータリーエンコーダー」を回して、Subwoofer を選び、「ロータリーエンコーダー」を押す。

サブウーハー画面に切りかわる。

4 「ロータリーエンコーダー」を回して、お好みの設定を選ぶ。

OFF：サブウーハー出力は OFF になる。

0°：サブウーハー出力を ON にし、位相を 0° にする。

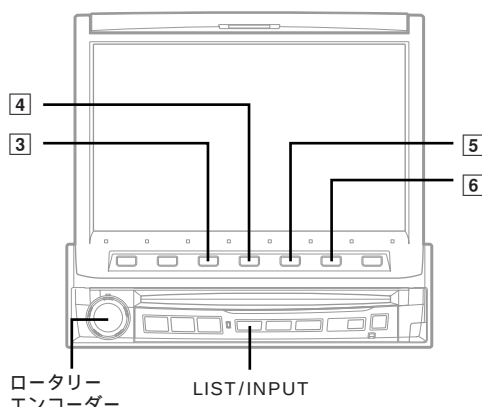
180°：サブウーハー出力を ON にし、位相を 180° にする。



Memo

- 0° または 180° で低音の出ている方 (低音を強く感じる方) を選択してください。

タイトル/テキスト操作



タイトル/テキスト操作

タイトル/テキスト/スクロールとは

この説明書で使用する「タイトル」、「テキスト」、「スクロール」という言葉のちがいについて説明します。

●タイトルとは

文字の入力と表示ができることを言います。本機の場合は「CD」、「ビデオCD」や「ラジオ放送局」、「TV放送局」の名称をタイトルとしてつけることができます。製品によっては文字を正確に表示できない場合もあります。(MP3ディスクのタイトル入力/表示は行えません。)

●テキストとは

あらかじめCDに入力されている文字の表示ができることを言います。



マークがついているものにはテキストが入っています。

CD-R/CD-RW に記録したテキストも表示することができます。また、MP3ディスクの場合はフォルダ名、ファイル名、ID3 タグを表示します。

文字を正確に表示できない場合もあります。

●タイトル/テキスト入力表示一覧

処理 モード	タイトル		テキスト	
	入力	表示	入力	表示
CD	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	×	○
ラジオ	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	×	×
DVD	×	×	×	×
ビデオCD	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	○ 英語、漢字、カタカナ、記号	×	×

●スクロールとは

文字を次々と表示させることを言います。本機では、曲が変わったときなどに一回だけスクロールする「マニュアルモード」とスクロールを繰り返す「オートモード」を搭載しています。タイトル、CDテキストとフォルダ名、ファイル名、ID3 タグ表示のみスクロール表示します。

タイトルをつける

お好みの「ラジオ放送局」、「TV放送局」、「CD」、「CDチェンジャーのCD」、「ビデオCD」にタイトルをつけることができます。(操作は停車中に行ってください。)

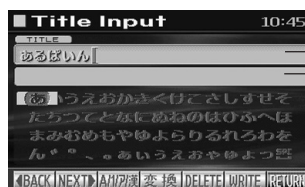
MP3ディスクにタイトル入力行えませんが、(但し、MP3対応チェンジャーは除く。)

- 1 タイトルをつけたいラジオ放送局を選ぶ。
「ラジオ放送局にタイトルをつける」を例に操作説明します。
- 2 「LIST/INPUT」を2秒以上押す。
タイトル入力画面に切りかわる。
- 3 ディスプレイに文字記号が表示される。
「ロータリーエンコーダー」を回しながら、カーソルを入力する文字記号に設定する。
- 4 アルファベット/数字・記号/カタカナ入力の場合
「ロータリーエンコーダー」を押す。1桁目が入力される。

ひらがな入力の場合

「ロータリーエンコーダー」を2回押す。

入力したひらがなは、タイトル決定スペースに表示され確定する。

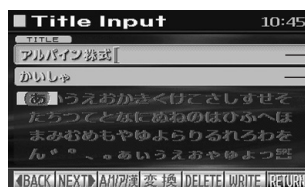


タイトル決定
スペース

入力スペース

漢字入力の場合

- ① 入力スペースにひらがなを入力し、[4] (変換) を押すと、漢字変換モードになる。[4] (変換) を押すごとに、または「ロータリーエンコーダー」を左右に回して、漢字候補を表示させる。



タイトル決定
スペース

入力スペース

- ② 入力したい漢字が決定したら、「ロータリーエンコーダー」を押す。漢字が確定され、タイトル決定スペースに表示される。

5 3、4 を繰り返し、16桁まで入力できる。

6 [6] (WRITE) を押して確定する。
ラジオモードメイン画面に戻る。
入力されたタイトルが記憶され、受信中に表示される。



Memo

- タイトルを入力した直後(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、タイトルが書き込まれない場合があります。
- タイトル入力画面時、[7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面へ戻ることができます。
- タイトル入力は、ラジオ放送局、TV放送局とCD、ビデオCDを合わせてタイトルを100までつけることができます。
- 別売のDVDまたはDVDチェンジャーモード時でも、ビデオCD、CDにタイトルをつけることができます。入力したタイトルは、ディスクタイトルリスト画面(33ページ)に表示されます。(これらの操作は停車中に行ってください。)
- 誤って入力した場合は、[5] (DELETE) を押すと、1文字を消去(漢字変換モード時以外)し、[5] (DELETE) を2秒以上押すと、[5] はCLEARモードになり、入力中のタイトルを消去することができます。
- [1] (◀ BACK) または、[2] (NEXT ▶) を押すと、入力されたタイトル上のカーソルが左右に移動します。
- ディスプレイに「FULL DATA」と2秒間表示されたときは、メモリーがいっぱいになっています。このときに、新しいタイトルを入力すると最初に入力した一番古いタイトルが消え、新しいタイトルがメモリーされます。

本機では、日本語辞書を搭載しております。
搭載語数は、52,000語(単漢字:約2,200語、人名:約8,800語、地名:約11,100語、駅名:約2,400語、一般語:約34,000語)になっています。



タイトルリストを表示する

ラジオ放送局やディスクにタイトルを入力していれば、タイトルリストを表示させることができます。また、CDテキスト対応ディスクは、ディスク名、トラック名などを表示し、MP3ディスク再生時は、フォルダ名、ファイル名をリスト表示させます。聴きたい放送局やディスクを簡単に呼び出すことができます。

(ここでは、CDモードを例に説明します)

- 1 CDモード時に、「LIST/INPUT」を押す。
トラックタイトルリスト表示画面に切りかわる。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、カーソルを希望のタイトルに設定する。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を押す。
選んだタイトルが再生され、CDモードメイン画面に戻る。

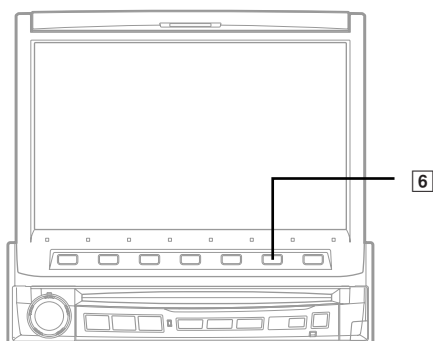
MP3ディスクのフォルダまたはファイルリストを表示するには

- 1 ディスクタイトルリスト表示時に、[6] (NEXT ▶) を押す。
選んだディスク内のフォルダタイトルリスト表示に切りかわる。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して好みのフォルダを選ぶ。
- 3 さらに、[6] (NEXT ▶) を押すと、選んだフォルダ内のファイル(トラック)タイトルがリスト表示される。
[5] (◀ BACK) を押すと、1つ前の画面に戻る。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回し、希望のファイル(トラック)を選ぶ。
- 5 「ロータリーエンコーダー」を押すと、選んだタイトルが再生される。



Memo

- [2] (RADIO) を押すと、ラジオモードのステーションリスト画面に切りかわります。さらに「BAND」を押すと、バンドが切りかわって表示します。
- [1] (DISC) を押すと、ディスクタイトルリスト画面へ切りかわります。
- [3] (TV) を押すと、TVモードのステーションリスト画面へ切りかわります。
- タイトルが入力されていない場合は「NO TITLE」と表示し、ディスクが入っていない場合は「NO DISC」と表示します。
- タイトルリスト表示時「LIST/INPUT」または[7] (RETURN) を押すと、タイトルリスト表示を選択する前のモードメイン画面に戻ります。
- DVDはタイトル入力できませんが、タイトルリストに「DVD VIDEO」と表示されます。



スクロールの設定

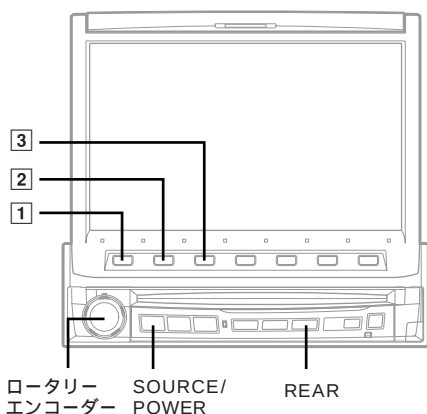
ディスクにタイトルが入力されていれば、スクロール表示することができます。またCDテキストとフォルダ名、ファイル名、ID3 タグ表示もスクロール表示します。

- 1 ディスク再生中に、**[6] (SCROLL)** を 2 秒以上押す。
AUTO スクロールモードになり、ディスクタイトルとトラックタイトルが交互にスクロール表示を続けます。
- 2 **[6] (SCROLL)** を 2 秒以上押すと、AUTO スクロールは解除する。



Memo

- AUTOスクロール解除後、**[6] (SCROLL)** を押すと、ディスクタイトルとトラックタイトルが同時に1回のみスクロール表示を行います。
- 曲が変わったときなども1回スクロール表示を行います。



便利な機能

リアエンター機能

リアエンター機能を設定すると、車室内のフロント席とリア席で、それぞれ独立した空間をつくり出すことができます。たとえば、フロント席でラジオなどのオーディオソースを聴きながら、リア席では別売のリアモニターとヘッドフォンを使用し DVD などを楽しむことができます。

1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面を押す。

2 [3] (R.SEL) を押す。
リアセレクト画面に切りかわる。



- 「REAR」を押して、リアセレクト画面に切りかわることができます。
- SYSTEMセットアップのMONITOR OUT1 ~ 2の設定がOFFの場合は、この機能は使用できません。

3 [1] (REAR1) または [2] (REAR2) を押す。
外部モニターが 1 台のみ接続の場合は、REAR と表示される。
REAR1: AUX OUT1 に接続している外部モニター
REAR2: AUX OUT2 に接続している外部モニター

4 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望のソース(外部入力または内蔵 DVD)を選ぶ。



- “INFO.DISP”にするとリアエンター機能はOFFになります。
- 「AUXモードを設定する(46ページ)のAUX IN設定がOFFの場合は、外部入力のソースは表示されません。
- FRONT LINKを選んだ場合は、フロントメインソース画面と同じ映像が出力されます。但し、音声は出力されません。

5 「ロータリーエンコーダー」を押す。

選んだソースが画面上のREAR1、REAR2 にそれぞれ表示される。

リモコン受光部を切りかえるには：

リモコン操作をするときに拡張ユニット(外部モニターなど)のリモコン受光部をお好みで切りかえることができます。

6 「REAR」を 2 秒以上押す。

リモコン操作を優先させるモニター切りかえモードになる。

7 「REAR」を押す。

押すごとにリモコン操作を優先する外部モニターが切りかわる。選んだ外部モニターのアイコンインジケータ「REAR1」または「REAR2」*が表示される。

REAR1: AUX OUT1 に接続した外部モニターのリモコン受光部が有効となり、ここで選んだソースに対してのみリモコン操作ができます。

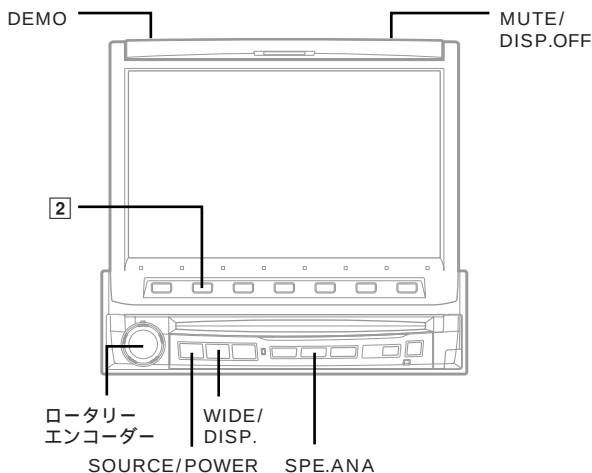
REAR2: AUX OUT2 に接続した外部モニターのリモコン受光部が有効となり、ここで選んだソースに対してのみリモコン操作ができます。

* 接続している外部モニターが 1 台で、さらに「外部モニター出力の設定」(46 ページ)がON設定の場合は、「REAR」とアイコンインジケータが表示される。

「REAR」を 2 秒以上押すと、モニター切りかえモードは解除される。



- 外部モニターのリモコン受光部を有効にした場合、リモコン操作をしても操作音(BEEP音)は鳴りません。
- 外部割り込みが入った場合は、外部割り込みアイコンが優先表示されます。
- IVA-D901J(フロントモニター)とリアモニターで内蔵DVDを見ているときは、リアモニターでのオンスクリーン表示(PLAY、PAUSE、FAST FWD など)は表示されません。



デジタルスピーナ表示をする

組み合わせる DSP、EQ などのオーディオプロセッサによって、この機能は使用できない場合があります。

- 1 CD、ラジオモードなどの音声ソース表示中に、「SPE.ANA」を押す。
スピーナモードになる。
- 2 「SPE.ANA」を押すごとに、色々な音楽のイメージにあった 3 種類のスピーナモードを選ぶことができる。

→ SCAN → MODE1 → MODE2 → MODE3

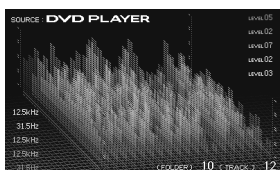
MODE1：特にリズム系 BASS を強調し、ノリの良い低音をイメージしたモードです。



MODE2：ボーカルをメインとした曲などにあったモードです。



MODE3：どんなジャンルにでもあうオールラウンドなモードです。



- SCAN ディスプレイ
MODE1 ~ MODE3 のパターンを繰り返し表示します。

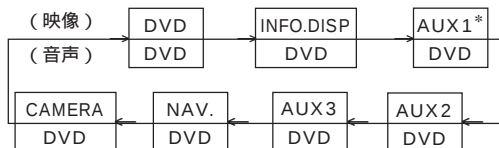
- 3 解除するには、「SPE.ANA」を 2 秒以上押す。

映像ソースのみを切りかえる (サイマル機能)

音声ソースをそのまま、見たい映像だけを切りかえることができます。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [2] (V.SEL) を押す。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、お好みの映像ソースを選ぶ。
「INFO. DISP」を選ぶと再生中のディスク (DVD、ビデオ CD) または外部入力 (AUX、TV など) の動作状態をあらわすメイン画面になる。
このとき「デジタルスピーナを表示する」のスピーナを設定している場合はスピーナモード画面になる。

< 例 >



* AUX1に 別売のDVDビデオプレイヤーを接続している場合：サイマル機能でDVD映像 / 音声を呼び出すことができます。但し、DVA-5200を接続している場合は、呼び出すことができません。
DVA-5205Jまたは、DHA-S680を接続している場合は、DVA-5205JまたはDHA-S680付属リモコンのV.OUTスイッチを2秒以上押すと、DVD映像 / 音声呼び出せます。
また、DVA-5210を接続している場合は付属リモコンのV.OUTを押すと、DVD映像 / 音声呼び出せます。

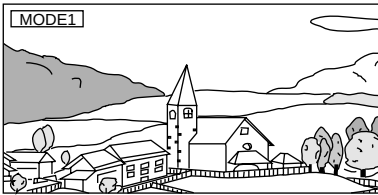
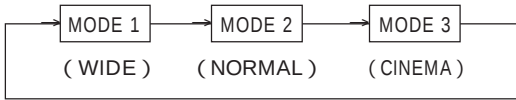
- Memo**

 - 音声ソースがナビゲーションモードの時はサイマル機能は使用できません。
 - 「V.SEL」を2秒以上押すと、サイマル機能は解除されます。(ファンクションスイッチのV.SELを2秒以上押しても解除はされません。)

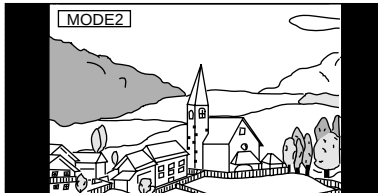
- 4 「ロータリーエンコーダー」を押して、選んだ映像ソースを確定する。

表示モードを切りかえる

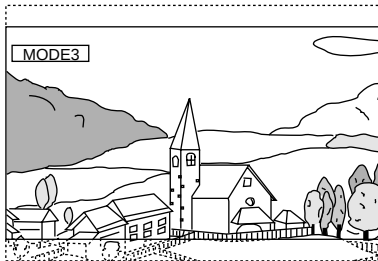
- 1 DVD、ビデオCD、TV、AUXモードなどの映像ソースのときに、「WIDE/DISP.」を2秒以上押す。
押すごとに、モードが切りかわる。



ノーマル映像を水平方向に均等に広げ、画面いっぱいに表示します。



通常のテレビ放送(4:3)の映像は中央に映ります。
(ノーマル映像)



ノーマル映像を水平・垂直両方向に拡大します。
16:9のシネマサイズの映像に適しています。



- TVモード(停車時)のとき表示モードを切りかえたあと、ファンクションスイッチ①~⑥のいずれかを押すと記憶された放送局をダイレクトに呼び出すこともできます。

バックライトをOFFにする (BLACK OUT 機能)

ディスプレイ表示部のバックライトを消灯することで、よりよい高音質を実現させることができます。

- 1 「MUTE/DISP.OFF」を2秒以上押す。
オーディオディスプレイ表示部のバックライトが消える。
- 2 解除するには、再度「MUTE/DISP.OFF」を2秒以上押す。



Memo

- バックライトが消灯しているときに他のスイッチ操作を行った場合、表示部のバックライトを5秒間だけ点灯させ、再び消灯させます。

デモンストレーション機能

本機には、各ソースの基本的な動作をディスプレイに表示させるデモンストレーション機能が用意されています。

- 1 「DEMO」を2秒以上押す。
押すごとに DEMO ON/OFF が切りかわる。
DEMO ON に設定すると、デモンストレーションモードになり動作を自動的に行う。

デモンストレーションの解除

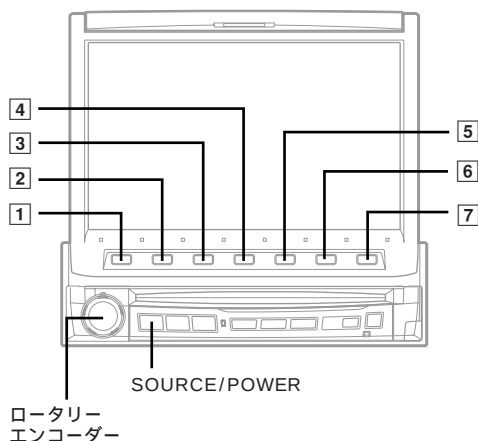
- 1 「DEMO」を2秒以上押す。
デモンストレーション機能が解除される。



Memo

- DEMOモードをOFFにしないかぎり、デモンストレーションの動作は自動的に繰り返します。

セットアップ操作



DVD セットアップ

次の手順1～6は、DVDセットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

DVDセットアップの操作をするには、DVD PLAYER モードを選択し、本機からディスクを取り出してから行ってください。ディスクが入っている状態では操作を受け付けません。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [6] (SETUP) を押す。
セットアップモード画面に切りかわる。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、“DVD”を選び、「ロータリーエンコーダー」を押す。
DVD リスト画面に切りかわる。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望の設定項目を選ぶ。
設定項目ごとにファンクションガイド*が切りかわる。
*ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示。

設定項目：
MENU LANGUAGE ⇔ AUDIO LANGUAGE ⇔
SUB T. LANGUAGE ⇔ COUNTRY CODE ⇔
PARENTAL ⇔ DIGITAL OUT MODE ⇔ OPT.
OUT ⇔ TV SCREEN
- 5 「ファンクションスイッチ」を押して、設定を切りかえる。
- 6 [7] (RETURN) を押す。
1つ前の画面に戻る。

- DVDセットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、設定が変更されない場合があります。
- DVDセットアップ画面のときに、ロータリーエンコーダーを押してから回すと、ボリューム調整ができます。



言語設定を変更する

音声言語、字幕言語、メニュー言語をお好みに合わせ設定することができます。

設定された言語は固定され、常時日本語で聴きたい場合に便利です。(ディスクによっては、設定した言語にならない場合があります。その場合は、そのディスクの優先言語になります。)



Memo

- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- 一時的に今観ているディスクの言語をかえたい場合は、DVDメニューからかえるか、または「音声言語切りかえ(20ページ)でかえることができます。
- 選んだ言語がディスクにないときは、ディスクで決められた言語になります。

メニュー言語の設定

タイトルメニューなどのメニュー言語が設定できます。

設定項目： MENU LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPAN / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先のメニュー言語が再生される。

音声言語の設定

スピーカーから出力される音声言語が設定できます。

設定項目： AUDIO LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPAN / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の音声言語が再生される。

字幕言語の設定

画面に表示される字幕言語が設定できます。

設定項目： SUB T. LANGUAGE

設定値： AUTO / ENGLISH / GERMAN /
FRENCH / JAPAN / CODE

「AUTO」を選ぶとディスクに記録されている最優先の字幕言語が再生される。

【表示されている以外の言語を再生したい場合】

- 1 ファンクションスイッチの[6] (CODE) を押す。
番号入力ボックスが表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して言語番号の1桁目を入力する。
言語番号は、「言語コード表」を(78ページ)参照。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を押して、1桁目の番号を確定する。
- 4 手順2, 3を繰り返して4桁の言語番号を入力し、[6] (ENTER) を押して言語番号をメモリーする。

カントリーコード設定を変更する

視聴規制(パレンタルロック)を設定するときの、国番号を設定します。

設定項目: COUNTRY CODE

設定値: CODE



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

- 1 [6] (CODE) を押す。
番号入力 BOX が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、国番号の1桁目を入力する。
日本の国番号は7480(工場出荷時の設定)。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を押して、1桁目の番号を確定する。
- 4 手順2, 3を繰り返して4桁の国番号を入力し、[6] (ENTER) を押して、国番号をメモリーする。

視聴規制(パレンタルロック)を設定する

お子様などに見せたくない映像を規制することができます。

設定項目: PARENTAL

設定値: P-WORD



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- 視聴制限がないDVDでは視聴規制を設定しても再生は制限できません。
- 設定した視聴規制は保持されます。違うディスクを再生したいときや視聴規制を解除したい場合は、設定を変更してください。

- 1 [1] (P-WORD) を押す。
番号入力 BOX が表示される。
- 2 添付リモコンの「0 ~ 9」を押して、パスワードの1桁目を入力する。
工場出荷時は1111。
- 4桁のパスワードを入力し、本体の[1] (ENTER) を押して、パスワードをメモリーする。入力された数字は*で表示される。
PARENTAL 画面に切りかわる。

PARENTAL の規制レベル設定

- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、PARENTAL LEVEL を選ぶ。
- 4 [1] (◀ DN) または[2] (UP ▶) を押して、規制レベル値(1 ~ 8)を選ぶ。



- 規制を解除したいときや設定しないときは、8を選びます。数字が小さいほど、規制レベルは高くなります。

- 5 [7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面に戻る。

パスワードを変更する

- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、PASSWORD CHANGE を選ぶ。
- 4 [1] (P-WORD) を押す。
- 5 「ロータリーエンコーダー」を回して数字を入れ、「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。
新しいパスワード4桁を入力する。
注) パスワードは忘れないように、メモなどをして保管してください。
- 6 [1] (ENTER) を押して、新しいパスワードをメモリーする。
- 7 [7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面に戻る。

- テンポラリー・パレンタルレベル変更について
ディスクによっては、再生中に初期設定で設定した視聴規制レベル(パレンタルレベル)の変更を要求する場合があります。このとき、ディスプレイ画面に "PARENTAL LEVEL CHANGE OK? <YES/NO>" と表示します。
この表示が出た場合は、下記の操作で設定してください。
- 変更したパレンタルレベルで再生する場合は、[2] (▶/II) を押す。
- パレンタルレベルを変更しないで再生する場合は、[4] (■) を押す。
[4] (■) を押した場合は、「視聴規制(パレンタルロック)を設定する」で設定したパレンタルレベルで再生されます。



セットアップ操作

デジタル出力設定を変更する

本機から音声を設定します。

設定項目： DIGITAL OUT MODE

設定値： AUTO / LPCM



- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。

AUTO

再生中の音声の記録方式に従いデジタル出力を自動で切りかえる。デジタルオーディオプロセッサと接続し、ドルビーデジタル音声で再生したいときは、必ず、AUTO にする。

LPCM

ディスクに記録されている音声を48kHz/16bit(DVD)または、44.1kHz(ビデオCD、CD) のリニアPCM 音声に変換して出力する。

- 音声出力 / 光デジタル音声出力について

ディスク	音声記録方式		デジタル出力設定	光デジタル音声出力 (デジタルオーディオプロセッサ接続時)	アナログ音声出力 (Ai-NET、RCA出力)
DVD	DTS		AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
			LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (48kHz/16bit)	○
	ドルビーデジタル		AUTO	ドルビーデジタル	○
			LPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	リニアPCM	48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		48kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/20bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
		96kHz/24bit	AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
	MPEG2		AUTOまたはLPCM	LPCM (48kHz/16bit)	○
ビデオCD	MPEG1		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
CD	リニアPCM		AUTOまたはLPCM	LPCM (44.1kHz)	○
	DTS		AUTO	DTSエレメンタリ ストリーム	○
			LPCM	LPCMエンコード2chダウンミクス (44.1kHz/16bit)	○
MP3	MPEG Audio Layer3 ビットレート : 32kbps ~ 320kbps	32kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (32kHz/16bit)	○
		44.1kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (44.1kHz/16bit)	○
		48kHz/16bit	AUTOまたはLPCM	LPCMエンコード2ch (48kHz/16bit)	○

デジタルアウトの設定

光デジタル対応製品と接続した場合に「ON」に設定します。

設定項目：OPT.OUT

設定値：OFF / ON



Memo

- 設定後、一度ACCをOFFにしてから再度ACC ONにしてください。デジタルアウトの設定が確定されます。

TV スクリーン設定を変更する

お使いの別売のTVモニター(リアモニター)に合わせて、画面の比率(アスペクト比)を設定します。

設定項目：TV SCREEN

設定値： 4:3LB / 4:3PS / 16:9



Memo

- 変更された設定内容は書き換えられます。変更する前に現在の設定内容をメモして保管してください。設定内容は車のバッテリー電源をはずしても記憶しています。
- ディスクによっては設定した画面サイズにならない場合があります。(詳しくはディスクのジャケットに記載されている内容をご覧ください)

4:3 LETTER BOX

従来サイズの4:3のモニターに接続したときに選ぶ。アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、上下に黒帯が入る。



4:3 PAN-SCAN

従来サイズの 4:3 のモニターに接続したときに選ぶ。画面全体に表示する。(アスペクト比 16:9 の映像を再生した場合は、左右が切れる。)

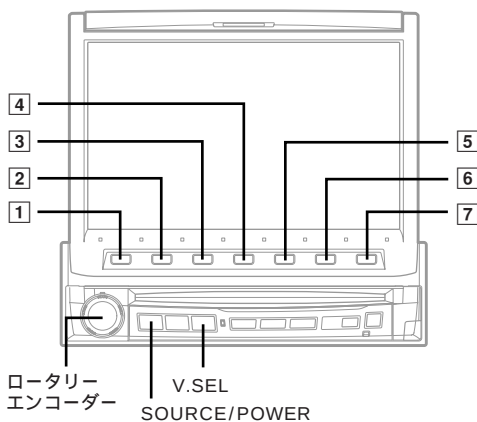


16:9 WIDE

ワイドテレビに接続したときに選ぶ。



セットアップ操作



GENERAL セットアップ

次の手順 1 ～ 6 は、GENERAL セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [6] (SETUP) を押す。
セットアップモード画面に切りかわる。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、「GENERAL」を選び、「ロータリーエンコーダー」を押す。
GENERAL リスト画面に切りかわる。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望の設定項目を選ぶ。
設定項目ごとにファンクションガイド*が切りかわる。
* ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示。

設定項目：
MONITOR OPEN / CLOSE ↔ V.SEL KEY ↔
MULTI SESSION PLAY ↔ BEEP ↔ CLOCK ↔
CLOCK ADJUST ↔ AREA CALL
- 5 「ファンクションスイッチ」を押して、設定を切りかえる。
- 6 [7] (RETURN) を押す。
1 つ前の画面に戻る。

- GENERAL セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。
- GENERAL セットアップ画面のときに、ロータリーエンコーダーを押してから回すと、ボリューム調整ができます。



ディスプレイ自動開閉の設定

設定項目：MONITOR OPEN/CLOSE

設定値：MANUAL/FULL/CLOSE

MANUAL: 本体の「OPEN/CLOSE」を押して、ディスプレイの開閉を行います。

FULL: イグニッションキー(エンジンキー)の ON/OFF ごとにディスプレイ開閉を自動的に行う。

CLOSE: イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、ディスプレイは自動的に閉まる。

時計を表示する

時計表示の ON/OFF を切りかえます。

設定項目：CLOCK

設定値：OFF / ON

時刻を設定する

設定項目：CLOCK ADJUST

設定値：HOUR DN/UP / MINUTE DN/UP /
TIME RESET

HOUR DN/UP: 時を合わせる。

MINUTE DN/UP: 分を合わせる。

TIME RESET: 「:30 未満」で押すと分表示が「:00」となる。「:30 以上」で押すと「時」が繰り上がる。



- 時計調整モードは、Power OFF、[7] (RETURN) を押すか、または GENERAL セットアップの他の項目を選択したときに解除されます。

操作音の切りかえ

スイッチを押したときに操作音を鳴らして操作を受け付けたことを伝えます。

設定項目：BEEP

設定値：OFF/ON

ON: 操作音を鳴らす。

OFF: 操作音が出なくなる。

VISUAL の設定

VISUALモードであらかじめNAV.選択、またはV.SEL選択を設定しておけば、V.SELスイッチを押すだけで映像をダイレクトに呼び出すことができます。

設定項目： V.SEL KEY

設定値： NAV. / V.SEL

NAV.: 「V.SEL」を押すと、ナビゲーション画面へダイレクトに切りかわる（別売ナビゲーション製品接続時のみ）。

V.SEL: 「V.SEL」を押すごとにディスプレイ表示が切りかわる。

例）ソースディスプレイ → AUX1 →
AUX2 → AUX3 → Navigation →
CAMERA → ソースディスプレイ



- SYSTEM リスト画面のNAV.INとAUX IN 1 ~ 3の設定がOFF、そしてCAMERA INの設定がOFFの場合は操作できません。

MP3 再生データの設定

オーディオデータとMP3データ混在ディスクのオーディオデータのみを再生するか、MP3のみを再生するかを設定することができます。（オーディオデータとMP3データ混在ディスク使用時のみ）

設定項目： MULTI SESSION PLAY

設定値： CD / MP3

CD: オーディオデータとMP3データ混在ディスクのオーディオデータのみを再生する。

MP3: MP3のみを再生する。

- MP3対応チェンジャーの場合、オーディオデータとMP3の両方とも再生します。

エリア機能を使う

記憶されている各エリアのTV放送局とラジオ放送局を呼び出すことができます。

設定項目： AREA

設定値： 札幌 / 仙台 / 東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

エリア機能で設定した放送局を呼び出すには、

ラジオ放送局 ----- P.23

TV 放送局 ----- P.25

をご覧ください。



Memo

- 選んだエリアを解除するには、再度同じスイッチを押すか、または別のエリアのスイッチを押してください。

各エリアの放送局は、「エリア放送局一覧表」（44ページ）をご覧ください。
（工場出荷時は、東京エリアに設定されています。）



セットアップ操作

エリア放送局一覧表

札幌

ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	1	北海道放送	76.2	三角山放送局	567	NHK第1
2	3	NHK総合	76.5	アップル	747	NHK第2
3	5	札幌テレビ放送	78.6	ノスタルジア	1287	北海道放送
4	17	テレビ北海道	80.4	AIR-G	1440	札幌TV放送
5	27	北海道文化放送	82.5	FM-N.W.	522	
6	35	北海道テレビ	85.2	NHK-FM	522	

仙台

ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	1	TBC東北放送	77.1	FM仙台	540	NHK第1
2	3	NHK総合	80.4	FM山形	891	NHK第1
3	5	NHK教育	82.1	NHK-FM	918	山形放送
4	12	仙台放送	82.5	NHK-FM	1089	NHK第2
5	32	東日本放送	77.0		1260	東北放送
6	34	宮城テレビ放送	77.0		1521	NHK第2

東京

ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	1	NHK総合	76.1	インターFM	594	NHK第1
2	4	日本テレビ	78.0	bay-fm	810	AFN
3	6	TBS	79.5	NACK5	954	TBS
4	8	フジテレビ	80.0	FM東京	1134	文化放送
5	10	テレビ朝日	81.3	J-WAVE	1242	ニッポン放送
6	12	テレビ東京	82.5	NHK-FM	1422	ラジオ日本

名古屋

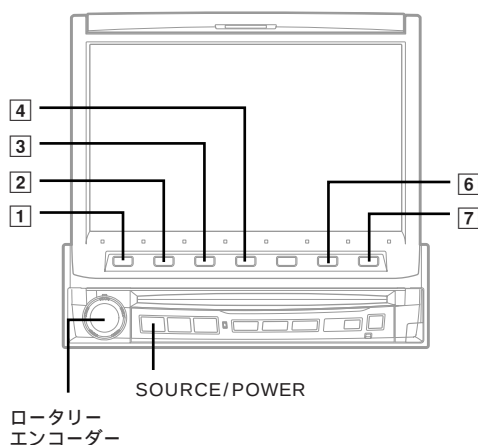
ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	1	東海テレビ	77.8	ZIP-FM	729	NHK第1
2	3	NHK総合	78.9	FM三重	1053	CBCラジオ
3	5	CBCテレビ	80.7	FM愛知	1143	KBS京都
4	11	名古屋テレビ	81.8	NHK-FM	1332	東海ラジオ
5	25	テレビ愛知	82.5	NHK-FM	1404	静岡放送
6	35	中京テレビ	83.6	NHK-FM	1431	岐阜ラジオ

大阪

ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	2	NHK総合	76.5	FM CO. CO. LO	558	ラジオ関西
2	4	MBS毎日放送	80.2	FM 802	666	NHK第1
3	6	ABC朝日放送	85.1	fm osaka	828	NHK第2
4	8	関西テレビ	88.1	NHK-FM	1008	朝日放送
5	10	読売テレビ	89.4	α-STATION	1179	毎日放送
6	12	NHK教育	89.9	Kiss-FM	1314	大阪放送

福岡

ファンクションスイッチ	TV		FM		AM	
	CH	放送局名	周波数	放送局名	周波数	放送局名
1	1	九州朝日放送	78.7	CROSS-FM	612	NHK第1
2	3	NHK総合	80.7	FM福岡	1017	NHK第2
3	4	RKB毎日放送	84.8	NHK-FM	1278	RKB毎日放送
4	9	テレビ西日本	76.1	LOVE-FM	1413	九州朝日放送
5	19	九州放送	77.0		522	
6	37	FBS福岡放送	77.0		522	



SYSTEM セットアップ

次の手順 1 ~ 6 は、SYSTEM セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [6] (SETUP) を押す。
セットアップモード画面に切りかわる。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、“SYSTEM”を選び、「ロータリーエンコーダー」を押す。
System リスト画面に切りかわる。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望の設定項目を選ぶ。
設定項目ごとにファンクションガイド* が切りかわる。
* ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示。

設定項目：

NAV.MIX ↔ NAV.IN ↔ AUX IN1 ↔ AUX IN2 ↔
AUX IN3 ↔ AUX IN1 MODE ↔ AUX IN2 MODE
↔ AUX IN3 MODE ↔ CAMERA IN ↔
MONITOR OUT1 ↔ MONITOR OUT2 ↔
IN-INT MUTE ↔ IN-INT ICON ↔ A.PROC TYPE

- 5 「ファンクションスイッチ」を押して、設定を切りかえる。
- 6 [7] (RETURN) を押す。
1 つ前の画面に戻る。

- SYSTEM セットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)を OFF にすると、設定が変更されない場合があります。
- SYSTEM セットアップ画面のときに、ロータリーエンコーダーを押してから回すと、ボリューム調整ができます。

ナビゲーション音声の割り込み音量調整

当社のナビゲーション製品(ディスプレイコントロール、ガイドコントロールを接続したナビゲーション)と組み合わせた場合、CD やラジオなどを聴いていても、ナビゲーション側の音声案内を本機に割り込ませることができます。また、音声案内の音量を設定できます。

設定項目： NAV.MIX

設定値： OFF / ON

OFF：ナビゲーション音声割り込みをさせない。

ON：ナビゲーション音声割り込みモードになる。

- 1) ON に設定したあと、「ロータリーエンコーダー」を押して、NAV.MIX モードを選ぶ。
VOL. → NAV.MIX → SUB W. → BAL. → FAD. → DEFEAT → VOL. →
- 2) 「ロータリーエンコーダー」を回して、ナビゲーション音声の割り込み音量レベル(0 ~ +15)を調整する。

Memo

- ナビゲーション音声案内割り込み中に、オーディオ音量を調整すると、音声案内割り込み時のオーディオ音量が設定できます。
設定しておく、ナビゲーション音声案内割り込み時に、自動的にその設定したオーディオ音量値と割り込み画面になり、割り込みが解除されると、もとのオーディオ音量と画面に戻るようになります。但し、設定した値より小さいオーディオ音量で聞いていた時に割り込みが入ると、割り込み時のオーディオ音量は、その小さいオーディオ音量に再設定されます。(ナビゲーション音声案内が割り込まれた場合、割り込む前のオーディオ音量より大きくなることはありません)
- SYSTEM リスト画面の NAV.IN 設定が ON のときに有効です。
- PXA-H510 または PXA-H900 接続時、本機で設定した NAV.MIX 値は PXA-H510 または PXA-H900 側には反映されません。

セットアップ操作

ナビゲーションモードを設定する

別売のナビゲーション製品を接続した場合は、ON に設定してください。

設定項目： NAV. IN

設定値： OFF / ON

ON：ナビゲーションソースを表示させる。

OFF：ナビゲーションソースは表示されない。本機からのナビゲーション関連の設定は出来なくなる。

AUX モードを設定する

設定項目： AUX IN 1,2,3

設定値： OFF / LEVEL LOW / HIGH

OFF：AUX ソース表示はされない。

LEVEL LOW/HIGH：

LOW または HIGH を設定すると AUX ソースは ON になり、外部入力音声レベルの調整をする。外部入力音声が大きいときは LOW に設定し、外部入力音声が小さいときは HIGH に設定する。



- 別売の DVD プレイヤー、DVD チェンジャーを接続している場合は、OFF は表示されません。
- OFF に設定すると、本機からの AUX 関連の設定は出来なくなります(「外部入力に表示名をつける」を除く)。
- AUX IN 1 に DVD プレイヤーまたは DVD チェンジャーのどちらかを接続している場合は、DVD と表示され、どちらも接続している場合は、AUX IN 1 に DVD と表示し、AUX IN 2 に DVD CHG と表示されます。

外部入力に表示名をつける

外部入力製品を接続した場合、それぞれ(外部入力製品 3 台まで)に表示名をお好みでつけることができます。

設定項目： AUX IN 1 ~ 3 MODE

設定値： AUX/VCR / GAME 1,2



- 選んだ表示名が AUX モードのソース名に切りかわる。ソースを選択すると AUX モードのファンクションガイドに切りかわります。

リアカメラの設定

リアカメラを接続している場合、バック映像を出力させます。

設定項目： CAMERA IN

設定値： OFF / ON

ON：シフトレバーをバック(R)に入れなくても V.SEL を押して、CAMERA ソースを選ぶとバック映像が出力される。

OFF：バック映像は出力されない。



- シフトレバーをバック(R)に入れると、連動でバック映像が出力されます。リバーコードが接続している場合に有効です。

外部モニター出力の設定

リアエンター機能(35 ページ)を使用するときは ON に設定する。

設定項目： MONITOR OUT1 ~ 2

設定値： OFF / ON

ON：接続している外部モニターの出力を ON にし、リモコン操作を受け付ける。

OFF：MONITOR OUT1 または 2 のどちらかを OFF にすると、リアエンター機能で設定できるモニターは 1 台となる。

MONITOR OUT1 と 2 どちらも OFF にすると、メインメニュー画面に表示されるファンクションガイドの [3] (R.SEL) は使用できない。

外部割り込みモードの設定

Ai 割り込み Box(NVE-K200)と組み合わせると、音楽 CD 再生対応ナビゲーションでの CD 音声などの音声を本機に割り込ませることができます。組み合わせる製品によっては、利用できない場合があります。詳しくは組み合わせる製品の説明書を参照してください。

設定項目： IN-INT MUTE

設定値： OFF / ON

OFF：外部割り込みモードになり音量調整ができる。

ON：音声は出力されない。



- この機能は、対応製品との組み合わせで、INT (音声割り込み)コードが接続されている場合に有効です。

外部割り込みアイコン表示の設定

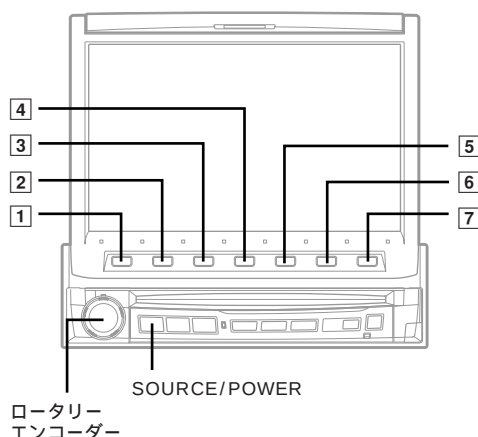
別売のAi割り込みBox(NVE-K200)と組み合わせて、ナビゲーションでの「音楽CD演奏」などを割り込ませる場合に使用します。その際に「INT」アイコンを設定すると、外部割り込みがあるときに「INT」アイコンが表示されます。なお、「TEL」アイコンについては、現在組み合わせて使用できる製品が発売されておりませんが、外部割り込み時のアイコン表示を「INT」にするか「TEL」にするかの違いだけですので、どちらのアイコンをご使用になっても機能上問題はありません。

設定項目： IN-INT ICON

設定値： INT / TEL

INT： INT アイコンが表示される。

TEL： 外部割り込み（TEL）がされたとき、画面上にTELのアイコンが表示される。



外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切りかえ設定

当社の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合は、「デジタルアウトの設定」(41 ページ) を ON にしたあと、本設定の切りかえを行ってください。

設定項目： A.PROC TYPE

設定値： PXA-H510 / OTHER

PXA-H510： PXA-H510と接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、DVD用へ接続する。
 OTHER： PXA-H510 以外の光デジタル対応オーディオプロセッサと接続した場合に設定する。光デジタル入力端子は、ヘッドユニット用へ接続する。



- 設定終了後、一度ACCをOFFにしてから再度ACC ONにしてください。光デジタル入力切りかえの設定が確定されます。

DISPLAY セットアップ

次の手順 1 ～ 6 は、DISPLAY セットアップの共通操作になります。セットアップ項目の詳細は、それぞれの設定項目を参照してください。

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 [6] (SETUP) を押す。
セットアップモード画面に切りかわる。
- 3 「ロータリーエンコーダー」を回して、「DISPLAY」を選び、「ロータリーエンコーダー」を押す。
DISPLAY リスト画面に切りかわる。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望の設定項目を選ぶ。
設定項目ごとにファンクションガイド*が切りかわる。
* ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示。
設定項目：
DIMMER ⇄ BRIGHT ⇄ TINT ⇄ COLOR ⇄
BACK GND ⇄ AUTO BACK GND
- 5 「ファンクションスイッチ」を押して、設定を切りかえる。
- 6 [7] (RETURN) を押す。
1 つ前の画面に戻る。

セットアップ操作

- DISPLAYセットアップモード時(システムが自動的に書き込みをしているとき)は、イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにしないでください。
イグニッションキー(エンジンキー)をOFFにすると、設定が変更されない場合があります。
- DISPLAYセットアップ画面のときに、ロータリーエンコーダーを押してから回すと、ボリューム調整ができます。



バックライトの明るさを設定する

車内の明るさに連動して液晶パネルに内蔵されているバックライト(蛍光管)の明るさを切りかえ、画面を見やすくすることができます。

設定項目: DIMMER

設定値: OFF / ON / AUTO

OFF: バックライトを明るいまま固定する。

ON: バックライトを暗いまま固定する。

AUTO: 車内の明るさに連動して画面の明るさを自動で調光する。

映像の明るさを調整する

設定項目: BRIGHT

設定値: DARK / ± 0 / LIGHT

DARK/LIGHT: **[1]** (◀DARK) または **[3]** (LIGHT▶) を押して、- 15 ~ + 15 の間で明るさを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。

± 0 : **[2]** (± 0) を押すと、調整値はセンター位置になる。

映像の色あいを調整する

設定項目: TINT

設定値: GRN. / ± 0 / RED

GRN./RED: **[1]** (◀GRN) または **[3]** (RED▶) を押して、G15 ~ R15 の間で色合いを調整する。最大値時は「G MAX」、「R MAX」とそれぞれ表示する。

± 0 : **[2]** (± 0) を押すと、調整値はセンター位置になる。



Memo

- 色あいの調整は、TV、NAV(RGB NAV以外)、AUX(AUX1 ~ 3)、DVDモード時のみ可能です。

映像の色の濃さを調整する

設定項目: COLOR

設定値: THIN / ± 0 / THICK

THIN / THICK: **[1]** (◀THIN) または **[3]** (THICK▶) を押して、- 15 ~ + 15 の間で色の濃さを調整する。最大値時は「MAX」、最小値時は「MIN」と表示する。

± 0 : **[2]** (± 0) を押すと、調整値はセンター位置になる。



Memo

- 色の濃さの調整は、TV、NAV(RGB NAV以外)、AUX(AUX1 ~ 3)、DVDモード時のみ可能です。

背景画面を切りかえる(バックグラウンド)

背景画面は、あらかじめ設定されている6種類の中から選べます。

設定項目: BACK GND

設定値: MODE 1(LIGHT) / MODE 2(WATER) / MODE 3(WOOD) / MODE 4(SKY) / MODE 5(TIME) / MODE 6(WIRE-FRAME)

オートバックグラウンドの設定

イグニッションキー(エンジンキー)のON/OFFごとに、バックグラウンド6種類が自動的に切りかわります。

設定項目: AUTO BACK GND

設定値: OFF / ON

ON に設定するとイグニッションキー(エンジンキー)のON/OFFごとにオートバックグラウンドモードが切りかわる。

LIGHT → WATER → WOOD → SKY → TIME → WIRE-FRAME → LIGHT



ロータリー
エンコーダー SOURCE/POWER



ロータリー
エンコーダー SOURCE/POWER

ナビゲーション操作 (オプション)

ナビゲーションモードにする

当社のナビゲーション製品が接続されている場合、本機のスイッチからナビゲーションを操作することができます。また、ナビゲーション側の電源が ON の状態ならば、ナビゲーションの映像と音声が入ります。(設定については、ナビゲーションの取扱説明書を参照してください。)

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、NAV. モードを選ぶ。「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。
ナビゲーションモードが表示され、ファンクションガイドの内容が切りかわる。



Memo

- 「VISUALの設定 (43ページ)」で、NAV. を設定していれば、「V.SEL」を押すとナビゲーション画面に切りかわります。
- メインメニュー画面上で、ナビゲーションモードが表示されない場合は、「ナビゲーションモードを設定する (46ページ)」の NAV. IN を ON に設定してください。
- これらのスイッチ操作を組み合わせると、リモコン同等の操作が本機から行えます。詳しい操作については、ナビゲーションの取扱説明書をご覧ください。
- 操作説明では、N555シリーズのナビゲーション画面を利用しています。

AUX 操作 (オプション)

AUX (外部入力) モードにする

外部機器 (ビデオデッキなど) を接続した場合にご使用ください。

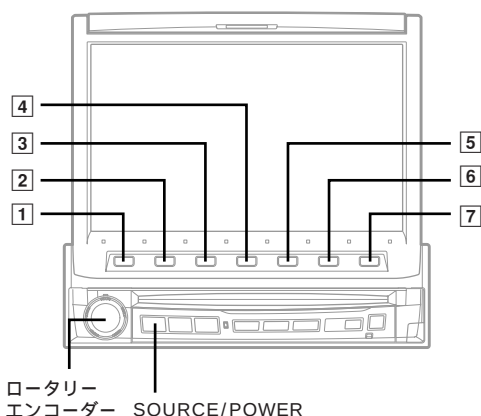
- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
- 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、AUX を選び、「ロータリーエンコーダー」を押して確定する。



Memo

- メインメニュー画面上で、AUXモードが表示されない場合は、「AUXモードを設定する (46ページ)」の AUX IN を LEVEL LOW、または LEVEL HIGH に設定してください。

チェンジャー操作 (オプション)



チェンジャー操作 (オプション)

チェンジャーを接続していると、本機から操作できます。

チェンジャーでCD/MDを聴く

- 1 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニュー画面が表示される。
 - 2 「ロータリーエンコーダー」を回して、CD CHG (CDチェンジャー) モードを選ぶ。「ロータリーエンコーダー」を押して、確定する。
CDチェンジャーモードメイン画面に切りかわる。
 - 3 6連奏CDチェンジャーの場合：
[7] (PAGE1/2) を押す。
ファンクションガイドの内容がかわる。
ディスク3枚目を選ぶときは...
[3] (DISC3) を押す。
[1] (DISC1) ~ [6] (DISC6) が、ディスクNo.1 ~ 6に対応している。
-
- 12連奏CDチェンジャーの9枚目を選ぶ場合：
[7] (PAGE1/3) を2回押す。
ファンクションガイドの内容が切りかわる。
次に[3] (DISC9) を押す。
[1] (DISC7) ~ [6] (DISC12) が、ディスクNo.7 ~ 12に対応している。

Memo

- ディスクを選んだ後は、12~15ページの操作説明をご覧ください。
- CD/MD/DVDチェンジャーが接続しているときは、「BAND」を押すごとにチェンジャーモードが切りかわります。
- 曲の番号(トラックNo.)を指定するには、軽く[1] (◀◀) または、[3] (▶▶) を押します。
- 別売のVersatile Link Terminal (KCA-410C) を使用し、チェンジャー2台を接続している場合は、メインメニュー画面から選ぶか、または「BAND」を押して製品を選びます。
- 別売のMP3対応チェンジャーを接続した場合、本機内蔵MP3と同様に操作することができます。
- 別売のDVDチェンジャーを接続した場合、CDチェンジャー同様に本機から操作することができます。詳しい操作については、DVDチェンジャー側の取扱説明書をご覧ください。

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)

外部オーディオプロセッサと接続している場合は、本機から操作することができます。但し、接続するオーディオプロセッサによって、操作できない場合もあります。ここでは、PXA-H700またはPXA-H701と接続した場合を例に説明します。接続しているオーディオプロセッサ側の取扱説明書も合わせてご覧ください。

- PXA-H510またはPXA-H900と接続している場合は、一部の操作が本機からできません。その場合は、PXA-H510またはPXA-H900側で操作を行ってください。
- 走行中はA.PROCリストのみ表示されます。設定の調整は、車を停止させてから行ってください。
- 接続しているオーディオプロセッサ側で調整/設定を行っているときは、本機から正しく操作することはできません。



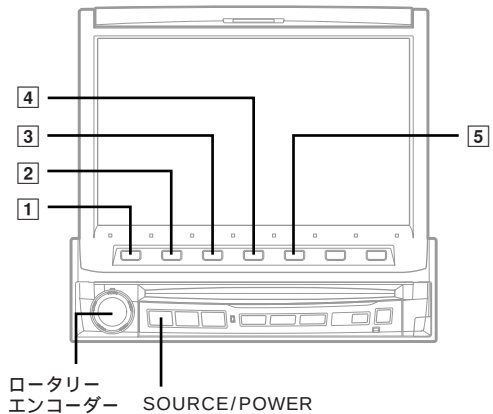
ドルビーサラウンドの調整手順

ドルビーデジタルやDTSサウンドをより正確に再現するには下記調整を行ってください。

< 調整手順 >

- 1 **スピーカーセットアップ (P57)**
使用するスピーカーの有無または、特性を設定します。
- 2 **スピーカーレベルを調整する (P58)**
各スピーカーへの信号出力レベルを調整します。
- 3 **リアに低域音声をミキシングする (P58)**
リアスピーカーにフロントの音声信号をミキシングすることで後部座席でも聴きやすくさせることができます。
- 4 **音像を調整する (P57)**
センタースピーカーが真正面にあるように音像を調整します。
- 5 **迫力のある大音量再生を楽しむには (P58)**
必要に応じて、更に迫力のある「映画館のようなエネルギー感」を楽しむことができます。
- 6 **DVDレベルを調整する (P59)**
ドルビーデジタル / PRO LOGIC II / DTS / PCMそれぞれのモードでの音量信号レベルを調整します。
- 7 **設定した内容を記憶する (P59)**
上記の内容に限らず本機で設定 / 調整した内容を全て記憶させることができます。

- 自動調整などと組み合わせて使用する場合は、ドルビーサラウンドの調整前に行うことをお勧めします。



スピーカーの設定をする

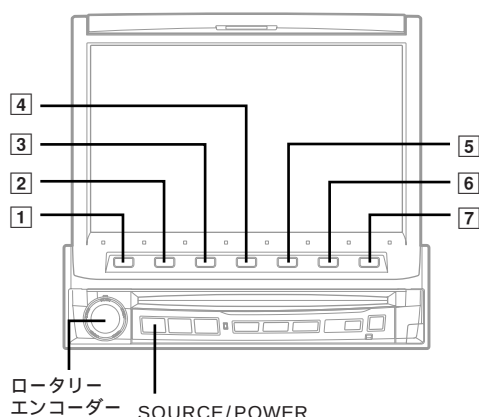
- 1 ディフューザーがOFFであることを確認する。(10ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC (オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、SPEAKER SELECTを選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
スピーカーセレクトリスト画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、各スピーカーを選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 7 「ファンクションスイッチ」を押して、選んだスピーカーの設定をする。
FRONT1 : OFF/FULL(Full Range)/TW(Tweeter)
FRONT2 : OFF/ON
REAR : OFF/ON
CENTER/SUB W. :
CENTER OFF/ON
SUB W. (Subwoofer) OFF/MONO/
STEREO



Memo

- 接続していないスピーカーはOFFに設定する。
- 「スピーカーセットアップ (P57ページ) で設定したスピーカーがOFFの状態でも上記設定はできます。
- スピーカーを保護するためFRONT1でTweeterを選択している場合は、H.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定はありません。また、サブウーハーL.P.F.でのフィルターOFF(スロープOFF)設定もありません。
- PXA-H700またはPXA-H701接続時、サブウーハーをMONOで使用する時には、PXA-H700またはPXA-H701側のサブウーハー出力端子へサブウーハーを接続してください。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)



外部オーディオプロセッサの MX モードを設定する

PXA-H700 接続時は、PXA-H700 側の MX(Media Xpander)モードの設定を「AUTO」にしてから下記操作を行ってください。

- 1 ディフイットがOFFであることを確認する。(10 ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC (オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、
“MediaXpander” を選ぶ。
ファンクションガイドがかわる。
- 5 [2] (ON) を押し、その後 [3] (SETUP) を押す。
MX リスト画面に切りかわる。
 - OFF にすると、全ての音楽ソースの MX 効果が OFF になる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、お好みの MX モードを選ぶ。
設定項目ごとにファンクションガイド* が切りかわる。
* ファンクションスイッチに割り当てられた機能を表示。
 - 音楽ソース (AM ラジオを除くラジオ/CD など) についてのレベルが調整できる。
但し、MX モードが反映されるのは、音楽ソースを切りかえたあとになる。

- 7 「ファンクションスイッチ」を押して、MX モードの設定をする。

MX FM (OFF、FM1 ~ 3)

こもりがちな中高域の音をよりクリアにし、全帯域にバランスのとれた音を再生する。

MX CD (OFF、CD1 ~ 3)

情報量豊富な CD。その情報量を活かしたメリハリのある音を再生する。

MX MP3 (OFF、MP3 1 ~ 3) / MX MD (OFF、MD 1 ~ 3)

圧縮時に欠落された情報を補正し、原音に近いバランスのとれた音を再生する。

MX DVD

(OFF、MOVIE 1 ~ 2)

映画ディスクのセリフ部分をより鮮明に再生する。

(DVD MUSIC)

ミュージッククリップなどの情報量豊富なディスク。その情報量を活かし、メリハリのある音を再生する。

MX AUX1 ~ 3 (OFF、MP3、MOVIE、MUSIC)

接続するメディアに対応した MX モード
(MP3、MUSIC、MOVIE) が選べる。

- [7] (RETURN) を押すと、1 つ前の画面に戻る。



- ここで設定した内容は、PXA-H700 または PXA-H701 側の MX モードに反映されます。
- OFF に設定すると各 MX モードの MX 効果が OFF になります。
- ラジオ/CD/MP3 などの各音楽ソースごとに設定することができます。
- 「MX MD」「MX AUX」は別売の MD 製品または外部入力製品と接続した場合のみ表示します。
- [7] RETURN を押すと、1 つ前の画面へ戻ります。

X-OVER の調整

- 1 ディフューズが OFF であることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC (オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、X-OVER を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (SETUP L/R) または [2] (SETUP L + R) を押す。
X-OVER 調整画面に切りかわる。
L/R : チャンネル L/R で独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネル L/R で同じ調整値に設定される。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、設定したいスピーカーを選ぶ。
- 7 「ファンクションスイッチ」を押して、選んだスピーカーの調整を行う。
FREQ. ◀DN/UP▶ : HPF または LPF のカットオフ周波数を調整する。
調整できる帯域はチャンネル (スピーカー) によって異なる。
SLOPE ◀DN/UP▶ : HPF または LPF のスロープを調整する。
LEVEL ◀DN/UP▶ : レベルを調整する。
- 8 さらに別のチャンネルを調整するには、手順 6, 7 の操作を行う。
- 9 [7] (RETURN) を押す。1 つ前の画面に戻る。



- スピーカーが OFF モードの時は、そのスピーカーの X-OVER は設定できません。「スピーカーの設定をする」(51 ページ) を参照してください。
- 調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。
- スピーカーを保護するためサブウーハー L.P.F. でのフィルター OFF (スロープ OFF) 設定はありません。
- FRONT 1 で Tweeter を選択している場合でも、H.P.F. でのフィルター OFF (スロープ OFF) 設定は可能です。但し、スロープ OFF に設定した場合は、スピーカー破損の恐れがあります。設定には十分ご注意ください。

手動で時間補正を行う (TCR) / 位相切りかえ

車という特殊な条件下であるため、リスニングポジションとそれぞれのスピーカーの距離に大きなばらつきがあります。自分で補正值を算出してリスニングポジションでの時間差を取り除く時にこの機能を使います。また、同時に位相の切りかえを行うことができます。

【時間補正】

- 1 ディフューズが OFF であることを確認する。
- 2 リスニングポジション (運転席など) に座り、頭の位置と各スピーカーの距離 (m) を測定する。
- 3 一番遠いスピーカーの距離とその他のスピーカーの距離の差を算出する。
 $L = (\text{一番遠いスピーカーの距離}) - (\text{それぞれのスピーカーの距離})$
- 4 スピーカーごとに算出した距離を音速 (343 m/s 気温 20) で割る。その値が各スピーカーの時間補正值となる。

● 具体例

下記イラストのフロント右側スピーカーの時間補正值を算出する。

(条件):

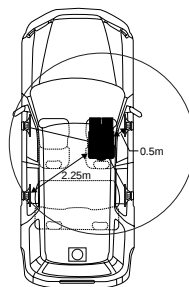
一番遠いスピーカー ~ リスニングポジション : 2.25m

フロント右側スピーカー ~ リスニングポジション : 0.5m

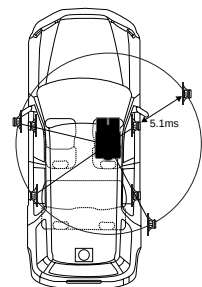
(算出): $L = 2.25\text{m} - 0.5\text{m} = 1.75\text{m}$

補正時間 = $1.75 \div 343 \times 1000 = 5.1 (\text{ms})$

つまり、フロント右側スピーカーの時間補正值に 5.1 (ms) とすることで、見かけの距離を持たせて、一番遠いスピーカーと距離を一致させる。



リスニングポジションと各スピーカーまでの距離が違うために偏った音になる。
右前スピーカーと左後スピーカーでは 1.75m の差がある。



時間補正により到達時間差が解消される。
右前スピーカーに 5.1ms の時間補正を行い、リスニングポイントとスピーカーまでの距離の整合をとることができる。

- 5 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 6 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC (オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 7 「ロータリーエンコーダー」を回して、TCR/PHASEを選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 8 [1] (SETUP L/R) または [2] (SETUP L + R) を押す。
TCR/PHASE 調整画面に切りかわる。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
- 9 「ロータリーエンコーダー」を回して、設定したいスピーカーを選ぶ。
- 10 [1] (TIME ◀DN) または [2] (TIME UP ▶) を押して、時間補正值 (0.0 ~ 20.0ms) を調整する。
(1Step = 0.05ms)
- 11 [3] (0°) または [4] (180°) を押して、位相を切りかえる。
- 12 さらに別のチャンネルを調整するには、手順9 ~ 11の操作を繰り返す。
- 13 [7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面に戻る。



- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのTCRは設定できません。「スピーカーの設定をする」(51ページ)を参照してください。
- タイムコレクション(時間補正)でのFRONT 2スピーカーの調整値は、「Bass Focusの設定」(56ページ)のFRONTスピーカーにも反映されます。
- 自動調整(AUTO TCR)は本機では操作できません。

グラフィックEQの調整

フロント(L/R) / リア(L/R) / センター独立で31バンド、サブウーハーは10バンドのレベル調整を行えますので、思い通りの音場を再現することができます。

- 1 ディフューザーがOFFであることを確認する。(10ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、G.EQ(グラフィックイコライザー)を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [2] (ON) を押して、[3] (SETUP L/R) または [4] (SETUP L + R) を押す。
G.EQ 調整画面に切りかわる。
L/R : チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R : チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
• 調整をしない場合はOFFに設定する。
- 6 お好みのスピーカー(チャンネル)のファンクションスイッチを押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 7 「ロータリーエンコーダー」を回して、お好みの周波数を選ぶ。
- 8 [1] (LEVEL ◀DN) または [2] (LEVEL UP ▶) を押して、レベルを調整する。
[7] (RETURN) を押すと、手順6のファンクションガイドに戻る。
- 9 さらに別の周波数を調整するには、手順6 ~ 8の操作を繰り返す。



- スピーカーがOFFモードの時は、そのスピーカーのグラフィックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(51ページ)を参照してください。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「55Hz ~ 30kHz」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- グラフィックEQの調整を行うと、パラメトリックEQでの調整は無効になります。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

パラメトリック EQ の調整

グラフィックEQでは隣接する帯域まで変化するため、ピーク(山)やディップ(谷)での急峻な特性の乱れをスポット的に補正するには限界があります。パラメトリックEQは、中心周波数、Q(帯域幅)、レベルがそれぞれ任意に調整可能ですので、狙った帯域だけを微妙に調整することができます。高度で本格的な補正、音創りを行うにはこのパラメトリックEQが有効なのです。

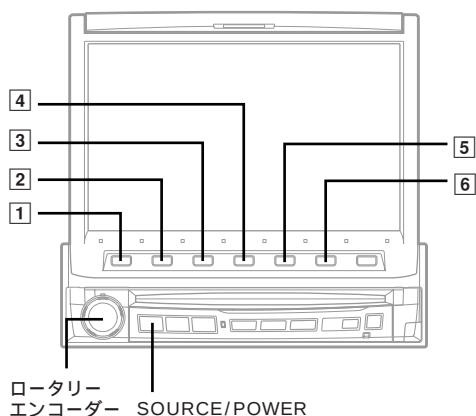
- 1 ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、P.EQ(パラメトリックイコライザー)を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [2] (ON) を押して、[3] (SETUP L/R) または [4] (SETUP L + R) を押す。
P. EQ 調整画面に切りかわる。
L/R: チャンネルL/Rで独立した調整値に設定できる。
L + R: チャンネルL/Rで同じ調整値に設定される。
• 調整をしない場合はOFFに設定する。
- 6 お好みのスピーカー(チャンネル)の「ファンクションスイッチ」を押す。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 7 「ロータリーエンコーダー」を回して、希望のバンドを選ぶ。
- 8 「ファンクションスイッチ」を押して、調整する。
FREQ. ◀DN / UP▶: 周波数を調整する。
LEVEL ◀DN / UP▶: レベルを調整する。
WIDTH ◀DN / UP▶: バンド幅を調整する。
[7] (RETURN) を押すと、手順6のファンクションガイドに戻る。
- 9 さらに別のバンドを調整するには、手順6～8の操作を繰り返す。



Memo

- スピーカーがOFFモードのときは、そのスピーカーのパラメトリックEQは設定できません。「スピーカーの設定をする」(51ページ)を参照してください。
- 隣り合うバンドの周波数は7ステップ以内に調整することはできません。
- イコライザーの調整は、接続するスピーカーの再生周波数を確認して調整してください。スピーカーの再生周波数が「55Hz～30kHz」の場合、40Hzや20Hzのレベル調整を行っても効果がない場合もあります。
- パラメトリックEQの調整を行うと、グラフィックEQでの調整は無効になります。
- [7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)



Bass Compressor の設定

低音域の音質をお好みに調整することができます。

- 1 ディフェルトがOFFであることを確認する。(10ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、「BASS SOUND CONT.」を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
Bass Sound Control リスト画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、「BASS COMP」を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 7 お好みのモードの「ファンクションスイッチ」を押す。
MODE1→2→3 になるにつれて低音域を強め、より迫力のある音が楽しめる。設定しないときは、「OFF」を選ぶ。



- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

Bass Focus の設定

あらかじめ設定されているステップ値(時間差)を使用することで、前後/左右同時に時間差を設定でき、感覚的に時間補正を調整することができます。ステップは、0.1ms 間隔で0~201 ステップ用意しています。

- 1 ディフェルトがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、「BASS SOUND CONT.」を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
Bass Sound Control リスト画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、「BASS FOCUS」を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 7 [3] (FRONT), [4] (LEFT), [5] (RIGHT), [6] (REAR) を押して、前後/左右のスピーカーを選ぶ。
- 8 [1] (TIME ◀DN) または [2] (TIME UP ▶) を押して、前後/左右のステップを設定する。
- 9 さらに別のチャンネル(スピーカー)を設定するには、手順7, 8の操作を繰り返す。



- Bass Focusでの設定はタイムコレクション(時間補正)にも反映されます。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

スピーカーセットアップ

お使いになるスピーカーの再生周波数帯域に応じて、PXA-H700を設定することができます。この操作を行う前に、各スピーカー(サブウーハー以外)の再生周波数帯域を調べて低音再生が可能かを確認してください。(80Hz以下が目安です)



Memo

- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、「SPEAKER SETUP」を選ぶ。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
Speaker セットアップリスト画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、各スピーカーを選ぶ。
- 7 「ファンクションスイッチ」を押して、スピーカー特性を選ぶ。
OFF^{*1} : スピーカーを接続していない場合
SMALL : 低域 (80Hz 以下) が再生できないスピーカーを接続している場合
LARGE^{*2} : 低域 (80Hz 以下) が再生できるスピーカーを接続している場合

*1 フロントスピーカーは、OFFにはできません。

*2 フロントスピーカーがSMALLのときはリアスピーカーとセンタースピーカーをLARGEにできません。



Memo

- サブウーハーはON/OFF設定のみです。
- センタースピーカーをOFFにすると、フロントスピーカーから出力される音声信号に、センターの音声信号をプラスします。
- スピーカー特性をOFFに設定した場合はスピーカー設定もOFFに設定してください。(51ページ参照)
- セットアップは「Front」「Center」「Rear」「サブウーハー」の全てを行ってください。セットアップを行わなかった場合は「Front」「Center」「Rear」「サブウーハー」のバランスが崩れることがあります。
- センターをOFFに設定した場合は、この機能で「Center」の設定を行っても効果ありません。
- 各スピーカーの設定を変更すると、その設定条件により変更したスピーカー以外の出力も変化することがあります。
- PRO LOGIC IIでご使用の場合、リアスピーカーを「LARGE」に設定するとサブウーハーは出力されません。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

Dolby 5.1ch を設定する

- 1 ディフィートがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、DOLBY 5.1CH SETUPを選ぶ。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
DOLBY 5.1CHセットアップリスト画面に切りかわる。
お好みで下記項目を調整してください。

音像を調整する

臨場感ある音声を再現するには、センタースピーカーをリスニングポジションの真正面に置かなくてはなりません。この機能で仮想的に、センタースピーカーの音を両サイドに振り分けることにより、センタースピーカーが真正面にあるような音像を作り出すことができます。(「PRO LOGIC IIを使う」(60 ページ)で「PL II MUSIC」を選択し、センター幅の調整機能が動作中は、この機能で調整を行っても効果ありません。)



Memo

- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

- 1 「ロータリーエンコーダー」を回して、BI-PHANTOMを選ぶ。
- 2 [2] (ON) を押す。
[1] (OFF) を押すと、BI-PHANTOM 機能はOFFになる。
- 3 [3] (LEVEL ◀DN) または [4] (LEVEL UP ▶) を押して、レベルを調整する。
レベルは - 5 ~ + 5 まで調整でき、レベルが大きくなると、音像はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。



Memo

- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- 「スピーカーの設定をする」(51ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。
- 本機設定後のDVD再生時は、その性質上、他のソースよりも音楽信号レベルが低下しますが故障ではありません。「DVDレベルを調整する」(59ページ)でレベル調整を行ってください。

外部オーディオプロセッサの操作 (オプション)

リアに低域音声をミキシングする

リアスピーカーから出力される音声信号に、フロントの音声信号をミキシングします。
後部座席でより聴きやすくなります。



- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

- 1 「ロータリーエンコーダー」を回して、REAR MIX を選ぶ。
- 2 [2] (ON) を押す。
[1] (OFF) を押すと、REAR MIX 機能はOFFになる。
- 3 [3] (LEVEL ◀DN) または [4] (LEVEL UP ▶) を押して、レベルを調整する。
レベルは - 6、- 3、0、+ 3、+ 6 まで調整できる。レベルが大きくなると、リアスピーカーから出力される低域の音声が増加する。(効果は、DVDなどのソフトによって異なる。)



- スピーカーセットアップの設定がリア「OFF」の時は調整を行っても効果がありません。
- リニアPCM信号の場合は、REAR FILL や REAR MIX の設定に関わらずリアスピーカーから音声が出力されます。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

迫力のある大音量再生を楽しむには

ドルビーデジタルでは通常の音量で十分な迫力が楽しめるように「ダイナミックレンジ」が圧縮されています。この圧縮を解除することにより、更に迫力のある「映画館のようなエネルギー感」のある音を楽しむことができます。



- この機能は、ドルビーデジタルの場合のみ有効です。

- 1 「ロータリーエンコーダー」を回して、LISTENING MODE を選ぶ。
- 2 [1] (STD) または [2] (MAX) を押す。
STD : 通常の音量で迫力のある音を楽しむとき
MAX : 大音量で迫力のある音を楽しむとき



- 車外の音が聞こえる音量でお使いください。
- DVDソフトなどのソースの種類によっては効果がないものがあります。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

スピーカーレベルを調整する

本機から出力されるテストトーンで各スピーカーの音量が同じ大きくなるように調整します。各スピーカーの音量をリスニングポジションにおいて同じ大きさに調整することで高い臨場感が得られます。



- 本設定 調整中は、本機側でストップ / ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 「ロータリーエンコーダー」を回して、OUTPUT LEVEL を選ぶ。
- 2 [1] (AUTO) を押す。
テストトーンが各スピーカーチャンネル順に繰り返し出力される。
チャンネルは2秒間何も操作を行わないと次のチャンネルに移行する。

→Left (左フロント)→ Center (センター)→ Right (右フロント)←
←Left Surround (左サラウンド)←Right Surround (右サラウンド)←

- 3 各スピーカーからテストトーンが鳴っているときに [2] (LEVEL ◀DN) または [3] (LEVEL UP ▶) を押して、それぞれの音量が同じになるように出力レベルを調整する。
 - 各スピーカーは - 10dB ~ + 10dB の範囲で調整できる。
 - フロントスピーカーを基準に調整を行ってください。



- スピーカーが「OFFモード」のときは、そのスピーカーのレベル調整はできません。「スピーカーセットアップ」(57ページ)を参照してください。
- 設定を終了させるには [1] (AUTO) または [7] (RETURN) を押してください。

DVD レベルを調整する

ドルビーデジタル/PRO LOGIC II/DTS/PCMそれぞれのモードでの音量信号レベルを設定することができます。



Memo

- 本設定 調整中は、本機側でストップ/ポーズ (一時停止) / ディスク交換 / 曲の頭出し / 早送り / 音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。(10 ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、DVD LEVEL を選ぶ。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
DVD レベルリスト画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、調整したいモードを選ぶ。
- 7 [1] (LEVEL ◀DN) または [2] (LEVEL UP ▶) を押して、レベルを調整する。
レベルは、- 5 ~ + 5 の範囲内で調整できる。



Memo

- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

設定した内容を記憶する

調整 / 設定した内容を記憶することができます。但し、組み合わせるオーディオプロセッサにより、記憶できる内容は異なります。

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、PRESET MEMORY を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (P.SET1) ~ [6] (P.SET6) のうち 1 つを 2 秒以上押す。
設定した内容が記憶される。



Memo

- 記憶した内容はバッテリー電源コードを外したときでも消去されません。
- [7] RETURN を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

記憶した内容を呼び出す

- 1 ディフイートがOFFであることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、PRESET MEMORY を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (P.SET1) ~ [6] (P.SET6) のうち 1 つを押して、呼び出したいプリセットメモリーを選ぶ。



Memo

- 記憶したプリセットメモリーを呼び出すには、多少時間がかかります。

PRO LOGIC II を使う

2チャンネルで録音された音楽信号にプロロジック処理を行い、DOLBY PRO LOGIC II サラウンドとして楽しむことができます。また、2チャンネルのドルビーデジタル、DTS信号の場合は、リアにフロントの信号を出力する「REAR FILL」を使用することができます。

- 1 ディフューザーがOFFであることを確認する。(10ページ参照)
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 [4] (A.PROC) を押す。
A.PROC (オーディオプロセッサ) リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、DOLBY PL II を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 [1] (SETUP) を押す。
DOLBY PL II 調整画面に切りかわる。
- 6 「ロータリーエンコーダー」を回して、DOLBY PL II を選ぶ。
- 7 「ファンクションスイッチ」を押して、希望のモードを選ぶ。

PL II MOVIE : ステレオTVショーやドルビーサラウンドでエンコードされたすべてのプログラムに向いています。その効果はディスクリット5.1チャンネルサウンドの質に迫る音場指向性の改善です。

PL II MUSIC : あらゆるステレオ音楽録音で用いられ、広く深い音場を確保できます。

REAR FILL : 入力信号によっては、音の出力がフロントスピーカーのみの場合があります。このときREAR FILLを使用することでリアスピーカーからも音を出力させることができます。

OFF : DOLBY PL II 機能をOFFにする。

「PL II MUSIC」を選んだ場合は、以下の操作でさらにセンター幅の調整が行えます。
この機能はセンターチャンネル定位をセンタースピーカーとL/Rスピーカーとの間に調整することにより、最良のボーカル定位を提供します。(この機能の動作中は「音像を調整する」(57ページ)で調整を行っても効果がありません。)

CENTER WIDTH CONT を選ぶ

- 1 「ロータリーエンコーダー」を回し、CENTER WIDTH CONT を選ぶ。
ファンクションガイドがかわる。
- 2 [2] (ON) を押す。
[1] (OFF) を押すと、CENTER WIDTH CONT 機能はOFFになる。
- 3 [3] (LEVEL ◀DN) または [4] (LEVEL UP ▶) を押して、レベルを調整する。

レベルは0～7まで調整でき、レベルが大きくなるとセンターチャンネル定位はセンタースピーカーの位置から両サイドに移る。



- スピーカーセットアップでセンタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にすると効果が得られます。
- 本設定調整中は、本機側でストップ/ポーズ(一時停止)/ディスク交換/曲の頭出し/早送り/音声切りかえなどの操作は行わないでください。デコード状態が切りかわると設定が解除されます。
- 「スピーカーの設定をする」(51ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- この機能は2チャンネル信号のみ有効です。DTSやドルビーデジタルの5.1ch信号が入力されたときは効果がありません。
- REAR MIXがONのときにREAR FILLの設定を行った場合、リニアPCM以外の2チャンネルデコード中はREAR MIXを優先させますので、REAR FILL設定での音の変化はありません。
- リニアPCM信号の場合は、REAR FILLやREAR MIXの設定に関わらずリアスピーカーから音声出力されます。
- [7] (RETURN) を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

リニア PCM の設定

リニア PCM で記憶されたディスクの再生時の出力を 2ch または 3ch に設定することができます。

- 1 ディフイートが OFF であることを確認する。
- 2 「SOURCE/POWER」を押す。
メインメニューが表示する。
- 3 **[4]** (A.PROC) を押す。
A.PROC(オーディオプロセッサ)リスト画面が表示される。
- 4 「ロータリーエンコーダー」を回して、PCM MODE を選ぶ。
ファンクションガイドが切りかわる。
- 5 **[1]** (2 CH) または **[2]** (3 CH) を押す。
2CH : 2ch 出力 (L/R)
3CH : 3ch 出力 (L/R/CENTER)

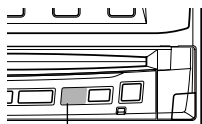


Memo

- 「スピーカーの設定をする (51ページ)にて、設定したスピーカーがCENTERでOFFの時には、効果はありません。
- **[7]** (RETURN) を押すと、1つ前の画面へ戻ります。

リモコン操作

使用時のご注意

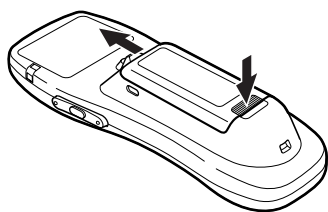


リモコンセンサー部

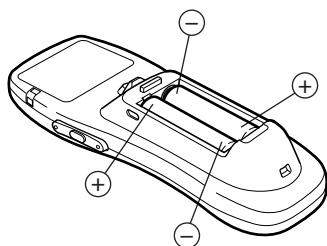
- リモコンは、リモコン送信部をリモコンセンサーに向け2メートル以内でお使いください。
- リモコンセンサーに直射日光が当たっていると、操作できない場合があります。
- リモコンは小型軽量の精密機械です。破損、電池の早期消耗、誤動作や操作感の悪化の原因にならないよう、次の点に注意してお使いください。
衝撃を加えない・ズボンのポケットに入れない・飲み物をかけない・湿気やホコリを避ける・直射日光の当たる場所に置かないでください。

電池を入れる

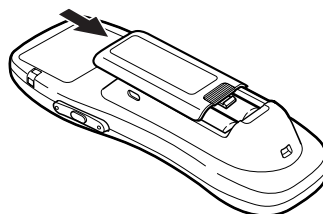
- 1 フタを開ける。
図のみぞの部分を押しながら前方へ押してフタははずす。



- 2 電池を入れる。
本体の⊕、⊖表示通り入れる。



- 3 フタを閉める。
フタを置いてカチリと音がするところまで差し込む。



- 電池は単4乾電池 (UM-4) × 2 をご使用ください。

警告

運転中は操作をしたり、画面を見たりしないでください。事故・ケガの原因になります。操作や画面を見る場合には、安全な場所に停車してください。

別売のナビゲーション /

TV モニターを操作する

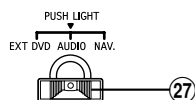
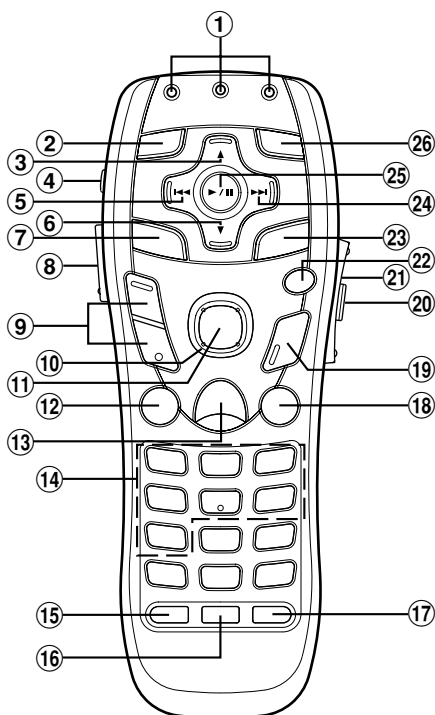
- 別売の当社ナビゲーション、TV モニターを操作するときは、リモコン裏側にあるモード切りかえスイッチを「NAV.」に切りかえてください。
- 添付のリモコン操作シールは、お使いのナビゲーション、TV モニターにあったシールをリモコン裏側に貼りつけてご使用ください。



- 製品によっては、操作が異なったり操作できない場合があります。お使いになる製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

本機を操作する

本機を操作するときは、モード切りかえスイッチを「AUDIO」側に切りかえてください。



(リモコン裏側)

- ① AUDIO/NAV./EXT DVD インジケーター
モード切りかえスイッチを切りかえると、各モードのインジケーターが数秒点灯する。
- ② A.PROC. ボタン
オーディオプロセッサリスト画面を呼び出す。
- ③ ▲ ボタン
ラジオモード：プリセット UP
CD チェンジャーモード：ディスク UP
MP3 モード：フォルダー UP
- ④ POWER ボタン
POWER の ON/OFF
- ⑤ ◀◀ ボタン
ラジオモード：SEEK DOWN
CD/チェンジャーモード：トラック DOWN
押し続けると早戻し
MP3 モード：ファイル DOWN
押し続けると早戻し
DVD/ビデオ CD モード：
・映像の頭出しをする。
・再生中に 1 秒以上押しで 2 倍速早戻し、その状態で 5 秒以上押し続けると 8 倍速で映像を早戻しする。
- ⑥ ▼ ボタン
ラジオモード：プリセット DOWN
CD チェンジャーモード：ディスク DOWN
MP3 モード：フォルダー DOWN

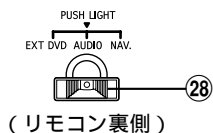
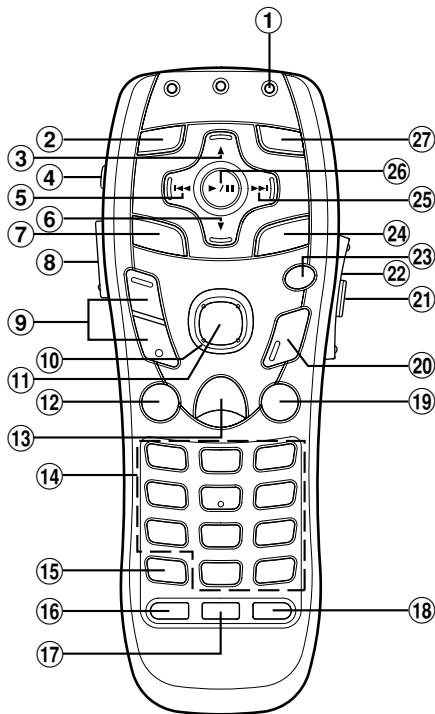


・ディスクによっては操作できない場合があります。

- ⑦ V.SEL ボタン
別売モニターなどを組み合わせた場合に、画面の切りかえを行う。(サイマル機能)
2 秒以上押しで、サイマル機能は解除する。
- ⑧ LIGHT ボタン
照光部分が点灯。
- ⑨ TILT ∨/∧ ボタン
ディスプレイ角度調整
押し続けると連続で変化する。
- ⑩ ジョイスティック
画面に表示される項目を選択。
- ⑪ ENTER ボタン
選択した項目を設定。
- ⑫ REAR ボタン
IVA-D901J のリモコン受光部に向けて、2 秒以上押しとリモコン受光部が切りかわる。別なリモコン受光部に切りかえるには、切りかえた外部製品の受光部に向けて REAR ボタンを押す。
- ⑬ RETURN ボタン
DVD/ビデオ CD (PBC ON 時) モード：
ひとつ前の選択画面へ戻る。(ディスクによっては戻らないものもあります。)
- ⑭ 10 キー
メインメニュー画面のファンクションガイドに表示される機能が 1 ~ 7 ボタンに割りあてられる。
- ⑮ AUDIO ボタン
DVD モード：音声を切りかえる。
- ⑯ SUB T. ボタン
DVD モード：字幕を切りかえる。
- ⑰ ANGLE ボタン
DVD モード：映像のアングルを切りかえる。
- ⑱ DISP/TOP.M ボタン
DVD/ビデオ CD モード：再生状態を表示。
DVD モード：2 秒以上押しで、メニュー画面を表示。
- ⑲ MENU/SETUP ボタン
DVD モード：メニュー画面を呼び出す。
ビデオ CD モード：PBC ON/OFF 切りかえ (PBC 機能付きビデオ CD のみ)
2 秒以上押しで、Setup リスト画面を呼び出す。
- ⑳ MUTE ボタン
瞬時に音量が下がる。再度押しと解除する。
2 秒以上押しで、ディスプレイの開閉を行う。
- ㉑ VOLUME ∨/∧ ボタン
音量を調整
- ㉒ ■ ボタン
停止する。
- ㉓ SOURCE ボタン
ソース切りかえ。
- ㉔ ▶▶▶ ボタン
ラジオモード：SEEK UP
CD/チェンジャーモード：トラック UP
押し続けると早送り
MP3 モード：ファイル UP
押し続けると早送り
DVD/ビデオ CD モード：
・映像の頭出しをする。
・再生中に 1 秒以上押しで 2 倍速早送りし、その状態で 5 秒以上押し続けると 8 倍速で映像を早送りする。
・一時停止中に押し続けると、1/8 倍速でスローモーション再生をする。さらにその状態で 5 秒以上押し続けると 1/2 倍速でスローモーション再生をする。
・一時停止中に 1 回押しごとにコマ送り再生をする。
- ㉕ ▶/|| ボタン
ラジオ/TV モード：Tune を切りかえる。
2 秒以上押しで、A.MEMO 動作を行う。
ディスクモード：プレイ/ポーズを切りかえる。
- ㉖ BAND ボタン
ラジオモード：バンド切りかえ
CD/MP3/チェンジャーモード：ディスクモード切りかえ
- ㉗ モード切りかえスイッチ
本機を操作する場合は「AUDIO」側に切りかえる。
別売の DVD 製品を操作する場合は「EXT DVD」側に切りかえる。
別売のナビゲーション製品を操作する場合は「NAV.」側に切りかえる。
押しと照光部分が点灯する。

別売の DVD プレイヤー / DVD チェンジャーを操作する

別売の当社 DVD プレイヤー / DVD チェンジャーを操作するときは、モード切りかえスイッチを「EXT DVD」側に切りかえてください。



- ① EXT DVD インジケータ
モード切りかえスイッチを「EXT DVD」側に切りかえとインジケータが数秒点灯する。
- ② A.PROC. ボタン
オーディオプロセッサモードを呼び出す。
- ③ ▲ ボタン
ディスク No. UP(DVD チェンジャーのみ)
- ④ POWER ボタン
5 秒以上押しで、NTSC/PAL を切りかえる。
- ⑤ ◀▶ ボタン
映像や音楽の頭出しをする。
2 秒以上押しで、映像や音楽を早戻しする。
- ⑥ ▼ ボタン
ディスク No. DOWN(DVD チェンジャーのみ)
- ⑦ V.SEL ボタン
TV や DVD 映像などの画面切りかえを行う。
- ⑧ LIGHT ボタン
照明部分が点灯。
- ⑨ TILT ∨/∧ ボタン
IVA-D901J のディスプレイ角度調整

- ⑩ ジョイスティック
画面に表示される項目を選択。
- ⑪ ENTER ボタン
選択した項目の決定。
- ⑫ REAR ボタン
DVD プレイヤーまたは DVD チェンジャー添付リモコンの V.OUT ボタンと同じ操作ができます。
(「映像ソースのみを切りかえる(サイマル機能)」)(36 ページ) 手順 3 の * を参照)
- ⑬ RETURN ボタン
ひとつ前の選択画面に戻す。
- ⑭ 10 キー
数字の入力。
- ⑮ DEL. ボタン
選択 / 入力した数字を 1 文字ずつ取り消す。2 秒以上押しで、選択 / 入力した数字を全文字消去する。
- ⑯ AUDIO ボタン
音声を切りかえる。
- ⑰ SUB T. ボタン
字幕を切りかえる。
2 秒以上押しで、字幕表示の ON/OFF。
- ⑱ ANGLE ボタン
アングルを切りかえる。
- ⑲ DISP/TOP.M ボタン
チャプター / トラック / 経過時間での頭出し。
2 秒以上押しで、タイトルメニューを表示する。
- ⑳ MENU/SETUP ボタン
DVD メニューを表示。
2 秒以上押しで、SETUP (初期設定) 画面を呼び出す。
- ㉑ MUTE ボタン
IVA-D901J の音量を瞬時に下げる。再度押すと解除する。
- ㉒ VOLUME ∨/∧ ボタン
IVA-D901J の音量を調整する。
- ㉓ ■ ボタン
PRE STOP する。再度押すと PRE STOP を解除し再生を止める。
- ㉔ SOURCE ボタン
ソース切りかえ。
- ㉕ ▶▶ ボタン
映像や音楽の頭出しをする。
2 秒以上押しで、映像や音楽を早送りする。
- ㉖ ▶/|| ボタン
再生する。
2 秒以上押しで、スローモーション再生する。
- ㉗ BAND ボタン
オーディオ側のバンドまたはディスクモードの切りかえ。
- ㉘ モード切りかえスイッチ
接続した DVD プレイヤー / DVD チェンジャーを操作する場合は「EXT DVD」側に切りかえる。



- ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けられない場合があります。その時はモニター画面に ⊙ マークを表示します。



取り付けと接続

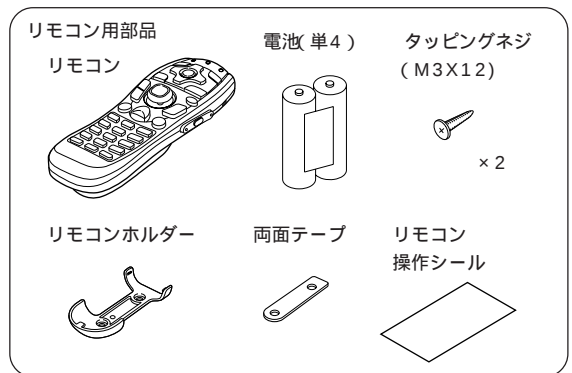
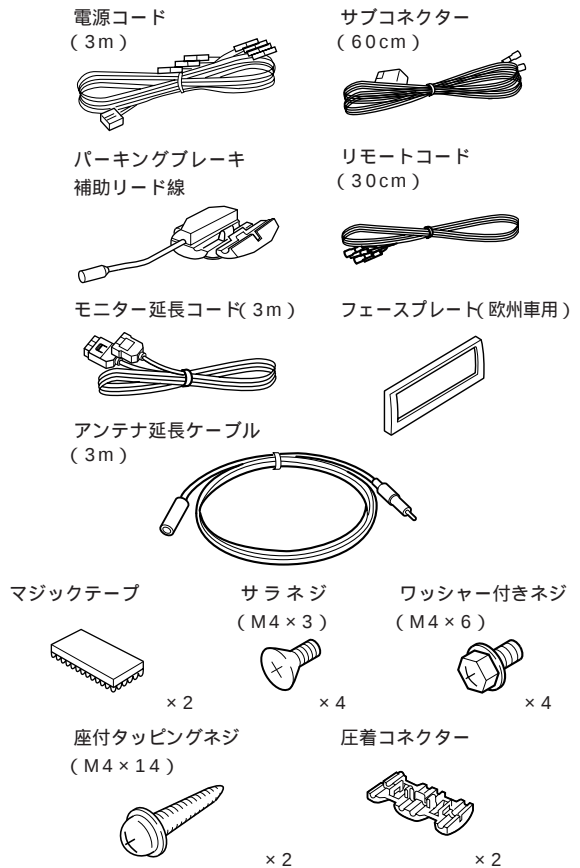
取り付けや接続の作業を行う前には、必ず 2 ～ 3 ページをよくお読みの上、正しい作業をしてください。説明書の指示を守らなかった事による不具合に対して、当社は責任を負いかねます。

1. 正しい作業のコツ

- ここからの説明は、専門技術と経験のある方を対象にしています。
- 車のインパネなどの「取り付け取り外し情報」を販売店から入手してください。
- 動作確認の際に本機の操作を行いますので、本説明書の操作説明部も必ずお読みください。
- 組み合わせる製品の取付説明書も合わせてご覧ください。
- コンピューターが装着されている車は、バッテリーのマイナス端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 一部の車種（外国車など）では、バッテリーのマイナス端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。詳しくは、ディーラーへお問い合わせください。
- 接続の際は、コードに付いているラベルや本説明書を確認しながら、注意して行ってください。
- 音声出力ケーブルを接続するときは、コード端子の色とターミナルの色を合わせてください。
・RCA コード、ピンコード
家庭用機器の信号の受け渡しに利用されるRCA 考案のコネクター付きコードをいいます。カーオーディオはもちろん家庭のステレオ/ビデオ/テレビ等に幅広く採用されています。白がオーディオの左チャンネル、赤が右チャンネル、黄色がビデオ信号です。
- スピーカーの接続
 - 純正のスピーカー用コードを使う場合、左右のコードのマイナス側が共通になっているものには使用できません。
 - スピーカーは、インピーダンスが $3.2 \sim 8 \Omega$ のものをお使いください。
- 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻いてください。
- 取り付け場所について
ディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を設定してください。
- 水平に対して 30 度以内に取り付けてください。
- 不明な点はお買い上げの店/インフォメーションセンターにお問い合わせください。

2. 準備

- 車を平坦で安全な場所に停める。さらに、パーキングブレーキをかけ、イグニッションキーを抜く。
- 付属部品を確認し、工具/取り付け情報をそろえる。



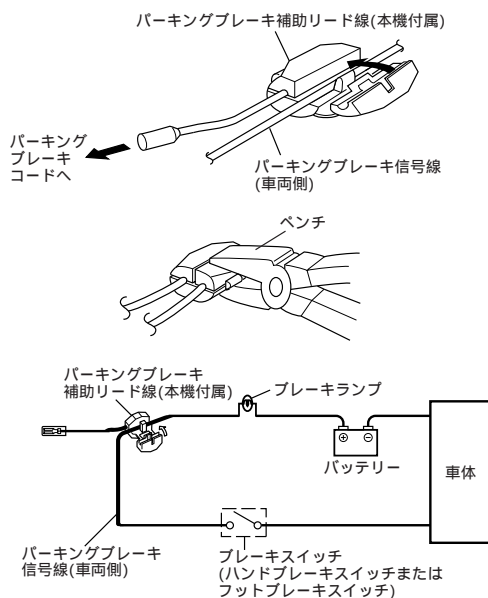
- バッテリーのマイナス端子を外す。
- 灰皿、小物入れなどを外し、パネル(インパネ)を外す。
- 車から取り付けブラケットごとカーオーディオを外す。
- オーディオに付いているケーブルを外し、ブラケットからオーディオを外す。(ブラケットは、6.モニターを取り付ける 2. で利用します。)



取り付けと接続

3. 接続する

- 68 ~ 71 ページの基本接続図を参照して接続する。
 - 他の製品と組み合わせた接続例も記載しています。(72 ~ 76 ページ参照)ご希望の組み合わせを確認しながら作業を進めてください。
 - 誤接続を防ぐために、接続するごとに✓点をつけてください。
- 車両側のパーキングブレーキ信号線に、パーキングブレーキ補助リード線を装着する。



- ヘッドユニットに電源コードを接続する。「カチッ」と音がするまで差し込む。
- 正しく接続されているか、✓点があるところはないか確認する。
- バッテリーマイナス端子を接続する。
- イグニッションキーをON にして本機電源を入れ、音が正しく出ているかなどを確認する。
 - 固定する前に動作確認しておけば安心です。正しい動作をしない場合は、もう一度接続を確認してください。
- 本機の電源を切る。
- イグニッションキーを抜いて、バッテリーマイナス端子を外す。

4. チューナー BOX を取り付ける



注意

通風孔や放熱板をふさがない。
通風孔・放熱板をふさがないでください。
通風孔・放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因になります。

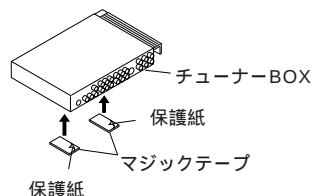
通風孔



チューナーBOX側面

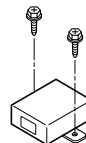
マジックテープを使って取り付ける。
マジックテープで取り付ける場合は必ず平らな場所を選んでください。
チューナーBOXが逆さまになるような位置には取り付けないでください。

- チューナー BOX を取り付ける。
チューナー BOX に付属のマジックテープを貼り付け、助手席の下などのフロアカーペットに固定する。



5. DC-DC コンバーターを取り付ける

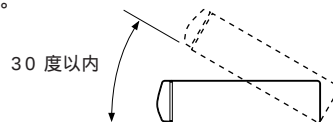
付属の座付タッピングネジ (M4X14) で平らな場所を選んで取り付け。



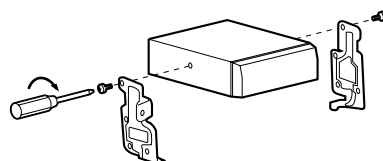
6. モニターを取り付ける

取り付けの際は必ず、フロントパネルを付けた状態で行ってください。フロントパネルを外した状態で取り付けると故障の原因となります。

- ディスプレイの開閉やディスクの出し入れの際、車のシフト操作に支障がないことを確認のうえ、取り付け場所を決める。



- モニターにブラケットを付属のネジでしっかり取り付ける。

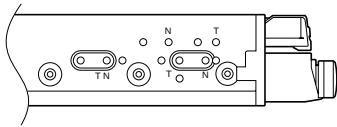


(次ページへつづく)



- 付属のネジ以外でモニターを固定した場合は動作不良の原因になります。必ず、付属のネジを使用して取り付けてください。

取り付け用ネジ穴



N 穴→ニッサン車専用

T 穴→トヨタ・ミツビシ車専用

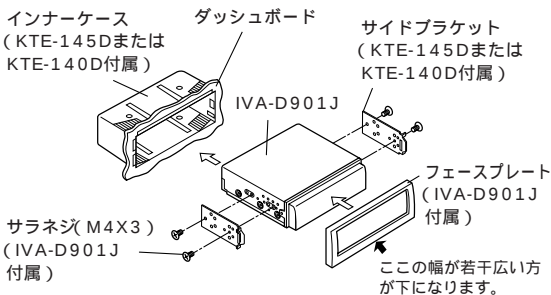
3. 「ブラケットと一体になったモニター」を車両にしっかり取り付ける。
4. インパネを取り付ける。
5. コード類を固定する。
シートレールなどの可動部に挟み込んだり、突起部に当たったりして、コードを傷めないように注意して固定する。
6. バッテリーマイナス端子を接続する。



- 車両雑音から守るために
- アースコードを車体の金属部分に確実につなぐ。(ノイズが出るときはアースの場所をかえてみる)
- 本機や本機からのコードを車両配線から離す。
- バッテリー電源コードとPINコードは離す。
- ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離す。

欧州車へのモニター取り付け

欧州車へモニターを取り付ける場合には、別売の欧州車取付 Kit (KTE-145DまたはKTE-140D) が必要になります。但し、フェースプレートとサイドブラケット用取付けサラネジは、IVA-D901J 付属のものを必ずご使用ください。



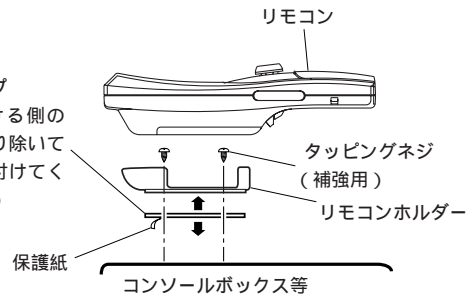
- IVA-D901J に付属されておりますフェースプレートは、欧州車専用の取り付け添付品となります。欧州車以外の車の取り付けには必要ありません。

7. リモコンホルダーを取り付ける

- リモコンに直射日光が当たるときは、ホルダーから外してグローブボックスに保管してください。
- 両面テープで確実な取り付けができない場合は、付属ネジを使って取り付けてください。

両面テープ

(貼り付ける側の汚れを取り除いてから貼り付けてください。)



警告

助手席エアバッグの近くにリモコンホルダーを取り付けない。
不適切な取り付けをしますと、エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで部品が飛ばされ、事故やケガの原因になることがあります。

8. 確認する

1. イグニッションキーをONにして、本説明書を参考に本機の動作が正しいことを確認する。
2. ホーン(クラクション)、ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。



- IN-INTの接続について
IN-INTコードは次の組み合わせ時に使用します。
- 音声認識対応のナビゲーションと組み合わせる。
音声認識対応のナビゲーションのミュートコードに接続します。
音声認識操作のとき本機の音量をミュートさせます。詳しくはナビゲーション側の説明書を参照してください。
- OUT-INT対応の製品と組み合わせる。
Ai割り込みBOX (NVE-K200) またはAi-RCA変換ケーブル (KCA-121B) などとOUT-INT対応のTV (TVE-T038など) を組み合わせる時に接続します。
TVの音声を本機に割り込ませます。
詳しくは組み合わせる製品の説明書を参照してください。

9. スイッチの切りかえについて

スイッチを理解する。

取り付け前やシステムアップを行うとき、スイッチの切りかえが必要になる場合があります。

切りかえは次の手順で行ってください。

1. 電源コードを抜く。
2. 棒状のものを垂直に挿入する。
3. 指定のポジションに切りかえる。
4. 電源コードを接続する。

システムスイッチ

本機にAi-NET対応のイコライザーを接続するときは、チューナーBOX底面にあるシステムスイッチを「EQ/DIV」側に切りかえます。



EQ/DIV
NORM
(出荷時)

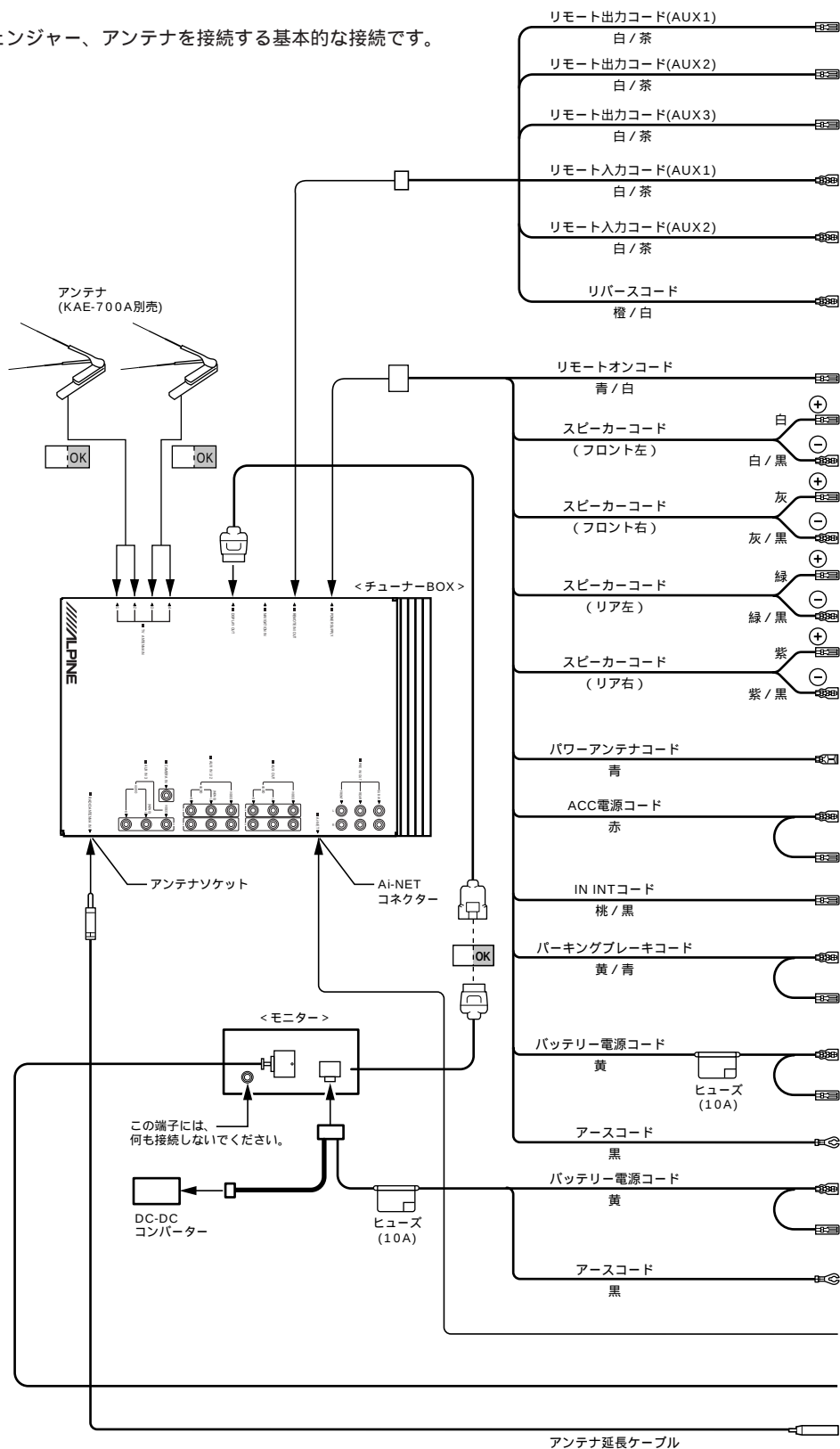


- チェンジャーのみを接続する(Ai-NET対応イコライザーを使わない) 場合、システムスイッチは「NORM」に設定してください。



基本接続図

本機とスピーカー、チェンジャー、アンテナを接続する基本的な接続です。



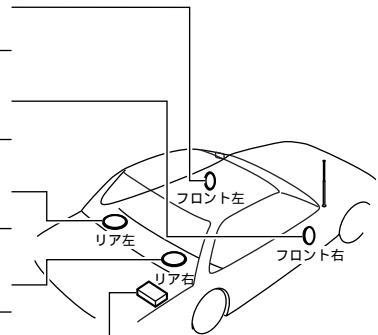


コード色	コード仕様	接続先	
白 / 茶	• リモート出力コード (AUX1) リモコン信号を出力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモコン入力コードに接続	①
白 / 茶	• リモート出力コード (AUX2) リモコン信号を出力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモコン入力コードに接続	
白 / 茶	• リモート出力コード (AUX3) リモコン信号を出力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモコン入力コードに接続	②
白 / 茶	• リモート入力コード (AUX1) リモコン信号を入力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモコン入力コードに接続	③
白 / 茶	• リモート入力コード (AUX2) リモコン信号を入力するためのコードです。	組み合わせるALPINE製品の リモコン出力コードに接続	④
橙 / 白	• リバースコード バックカメラを接続時のみ使用します。シフト レバーをバック(R)に入れたとき点灯するバック ランプのプラスに接続してください。シフトレバーの バック(R)に連動して、バックカメラの映像入力切 りかえを行います。	車のバックランプ信号線の プラス側に接続します。	⑤
青 / 白	• リモート電源コード 本機の電源ON/OFFとアンプなどの周辺機器の ON/OFFを連動させます。	アンプ/コライザー追加 の際に使用	⑥
白	• スピーカーコード (フロント左) フロント左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	フロント左のスピーカ ーに接続	
白 / 黒	• スピーカーコード (フロント右) フロント右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	フロント右のスピーカ ーに接続	
灰	• スピーカーコード (リア左) リア左スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア左のスピーカに接続	
灰 / 黒	• スピーカーコード (リア右) リア右スピーカーを駆動する信号を出力します。 接続するスピーカーは、インピーダンスが3.2 - 8Ωの ものを使用してください。	リア右のスピーカに接続	
緑	• パワーアンテナコード ラジオのON/OFFに連動してパワーアンテナを伸縮 させる信号を出力します。また、ウインドウシールドア ンテナなどブースターが付いている車種はブースター電 源として使うことができます。(ブースターが付いてい るものは必ず接続してください。接続を忘れるとラジオ の受信状態が極端に悪くなります。)	車のパワーアンテナコード またはアンテナブースター に接続	
青	• ACC電源コード エンジンキーに連動した電源を本機に供給します。	ACCボジションで電源が 供給されるコードに接続	
赤	• 音声取り込み(IN-INT)コード 通常は使用しません。	音声取り込み対応製品追加の際、またはナビ ゲーションのミュートコードへの接続に使用。 詳しくは「IN-INTの接続について」(67ペ ージ)を参照してください。	
桃 / 黒	• パーキングブレーキ補助リード線 黄 / 青	パーキング、ブレーキスイ ッチの電源側に接続	
黄 / 青	• パーキングブレーキコード パーキング、ブレーキの状態を本機に伝えます。		
黄	• バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	• アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
黄	• バッテリー電源コード エンジンキーに関係なく常に電源を本機に供給し ます。通常、バッテリーコードの接続で十分です が、さらに良い音で楽しみたいときは、直接車側の バッテリーに配線すると良いでしょう。 詳しくは、お買い上げ店にご相談ください。	常に電源が供給される (バッテリー電源プラス) コードに接続	
黒	• アースコード 車体の金属部分へしっかりと固定します。	車体に接続	
	• Ai-NETコネクタ Ai-NETチェンジャーなどでシステムアップするときに 使用します。	Ai-NETコードでAi-NET製 品と接続	⑦
	• 光デジタル出力端子 光デジタル入力対応製品と組み合わせるときに使用します。	システムアップの際に使用	⑧
	• アンテナソケット アンテナからの信号を受けるコネクタです。	車のアンテナプラグを接続	



- 左記接続先の丸番号は、「他製品と
の接続 (72 ~ 76ページ)」で使用
します。

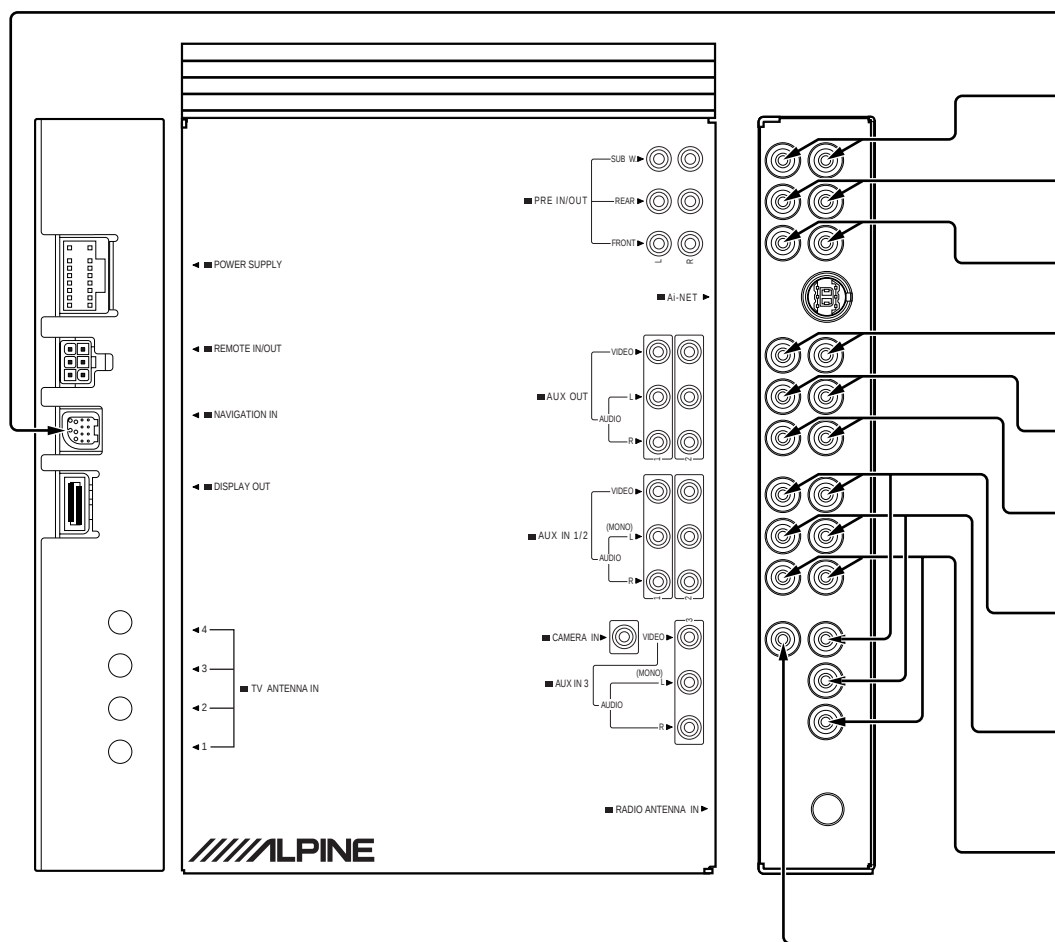
DVDビデオプレイヤーまたは、
DVDチェンジャーのどちらか1
台を組み合わせる場合は、組み合
わせる側のリモコン入力コード
をリモート出力コード(AUX1)
に接続してください。
DVDビデオプレイヤーとDVD
チェンジャーの両方を組み合わ
せる場合は、DVDビデオプレイ
ヤーのリモコン入力コードをリ
モート出力(AUX1)へ接続し、
DVDチェンジャーのリモコン入
力コードをリモート出力
(AUX2)へ接続してください。



⚠ 注意

DC-DCコンバーター取り
扱い上のご注意

- DC-DCコンバーターは、フロ
アマットの下やエアコンな
どの水がかかりやすい場所へ
は設置しないでください。故
障の原因になります。
- DC-DCコンバーターのケー
ブルは他のオーディオケーブ
ルと一緒に束ねたり、また本
体に接触させないでくださ
い。雑音の原因になります。
- DC-DCコンバーターは熱を
持ちますが、故障ではありま
せん。





- 下記接続先の丸番号は、「他製品との接続」(72～76ページ)で使用します。
DVDビデオプレイヤーまたは、DVDチェンジャーのどちらか1台を組み合わせる場合には、AUX1側に接続してください。
両方を組み合わせる場合には、DVDビデオプレイヤーをAUX1側へ接続し、DVDチェンジャーをAUX2側へ接続してください。

コード仕様	接続先	
 ● RGB入力端子(13P) RGB方式の映像/音声/リモコン出力などの信号を入力します。	組み合わせるナビゲーションのRGB出力端子に接続	⑨
 ● サブウーハー出力端子 サブウーハー用信号を出力します。	サブウーハー追加の際、サブウーハー用アンプ(ローパスフィルター内蔵アンプ)に接続	⑩
 ● リア出力/入力端子 リア左右のプリアンプ信号を出力、またはリア左右の信号を入力します。	アンプ/イコライザー追加の際に使用	⑪
 ● フロント出力/入力端子 フロント左右のプリアンプ信号を出力、またはフロント左右の信号を入力します。	アンプ/イコライザー追加の際に使用	⑫
 ● ビデオ出力端子(AUX1)、(AUX2) 映像を出力します。	組み合わせる製品のビデオ入力に接続	⑬
 ● オーディオ出力端子(左)(AUX1)、(AUX2) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(左)に接続	⑭
 ● オーディオ出力端子(右)(AUX1)、(AUX2) 音声を出力します。	組み合わせる製品のオーディオ入力(右)に接続	⑮
 ● ビデオ入力端子(AUX1)、(AUX2)、(AUX3) 映像を入力します。	組み合わせる製品のビデオ出力に接続	⑯
 ● オーディオ(MONO)入力端子(左)(AUX1)、(AUX2)(AUX3) 音声を入力します。	組み合わせる製品のオーディオ出力(左)に接続	⑰
 ● オーディオ入力端子(右)(AUX1)、(AUX2)、(AUX3) 音声を入力します。	組み合わせる製品のオーディオ出力(右)に接続	⑱
 ● バックカメラ用ビデオ入力端子 映像を入力します。	バックカメラ製品のビデオ出力に接続	⑲



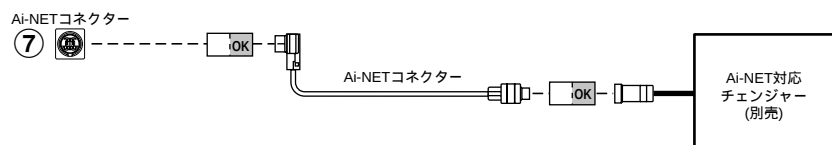
他製品との接続

1) CD または MD チェンジャーを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- チェンジャーのみを接続する(Ai-NET対応イコライザーを使わない) 場合、システムスイッチは「 NORM 」に設定してください。



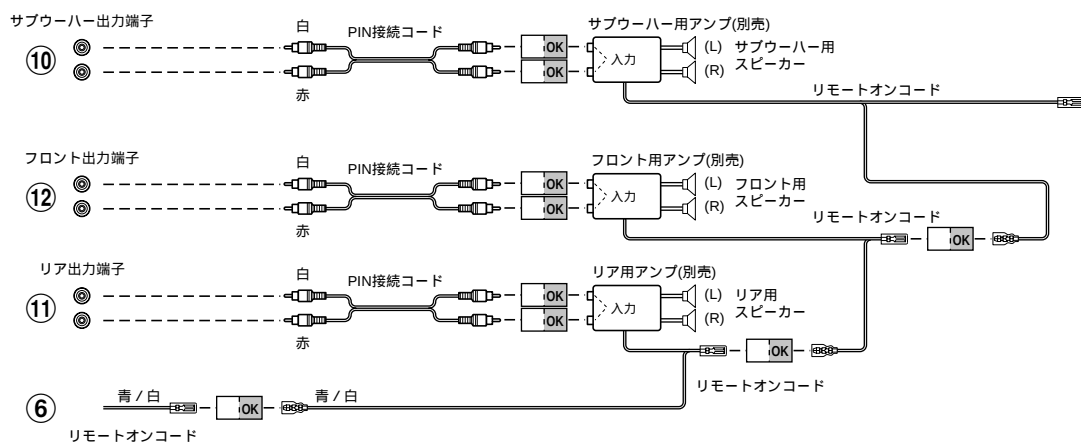
2) 外部アンプを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- 「サブウーハーのON/OFF (31ページ)」を参照してください。

必要に応じてローパスフィルター内蔵のアンプを使用してください。





3) Ai-NET 対応オーディオプロセッサ（光デジタル対応）およびチェンジャー、DVD プレイヤーを接続する。

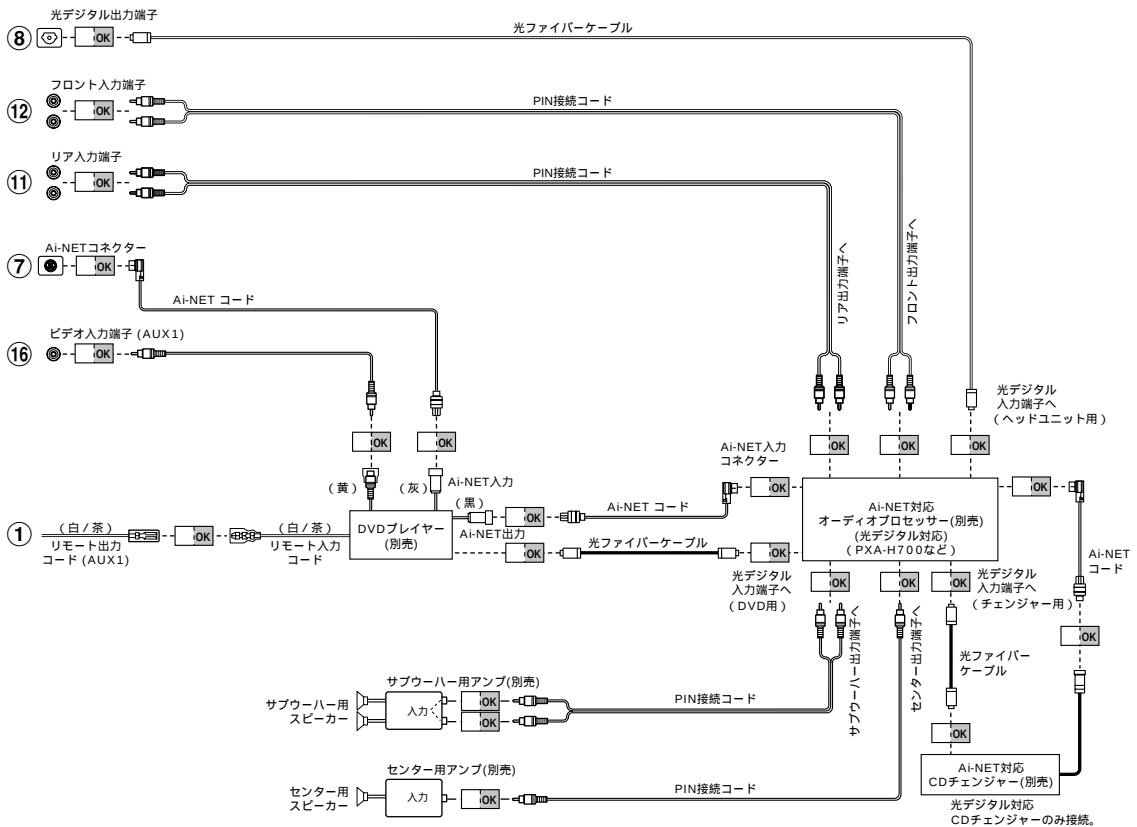
システムスイッチ EQ/DIV



- 光デジタル対応の製品を接続した場合、本機のモード設定が必要です。「デジタルアウトの設定」(41 ページ)を参照し、ONに設定してください。その後「外部オーディオプロセッサの光デジタル入力切り替え設定」(47 ページ)を参照し、設定を切りかえてください。

PXA-H510と組み合わせる場合:

- ・ 光デジタル入力端子はDVD用へ接続してください。
- ・ IVA-D901JとDVA-5200またはDVA-5205Jとの光デジタルを使用している同時接続はできません。



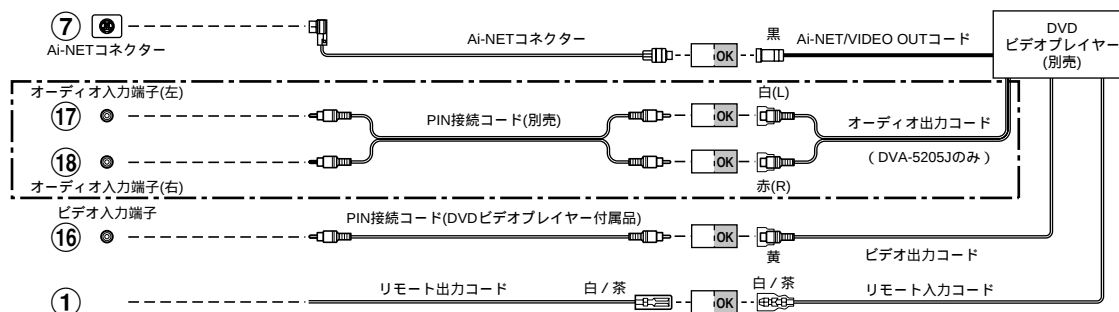


取り付けと接続

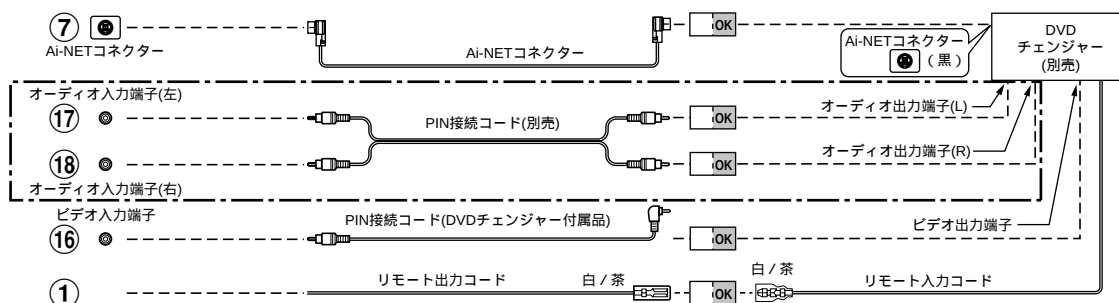
4) DVD ビデオプレイヤーまたは、DVD チェンジャーを接続する。

システムスイッチ NORM

● DVD ビデオプレイヤーの接続図



● DVD チェンジャーの接続図



Memo

- 本機 + DVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャー + デジタルオーディオプロセッサを組み合わせる場合は、本機のシステムスイッチを「EQ/DIV」ポジションに設定してください。(接続については、DVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャー側の説明書をご覧ください。)
 - ALPINE製DVDビデオプレイヤーまたは、DVDチェンジャーのどちらか1台を組み合わせる場合は、必ずAUX1に接続してください。AUX2に接続すると、リモコンは動作しません。
 - DVDビデオプレイヤーとDVDチェンジャーの両方を組み合わせる場合は、DVDビデオプレイヤーをAUX1側へ接続し、DVDチェンジャーをAUX2側へ接続してください。
- リアモニターを接続する場合：
リアモニターへDVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャーの音声を出させるには、DVDビデオプレイヤー / DVDチェンジャーのオーディオ出力コードを本機のオーディオ入力端子⑰、⑱へ接続してください。

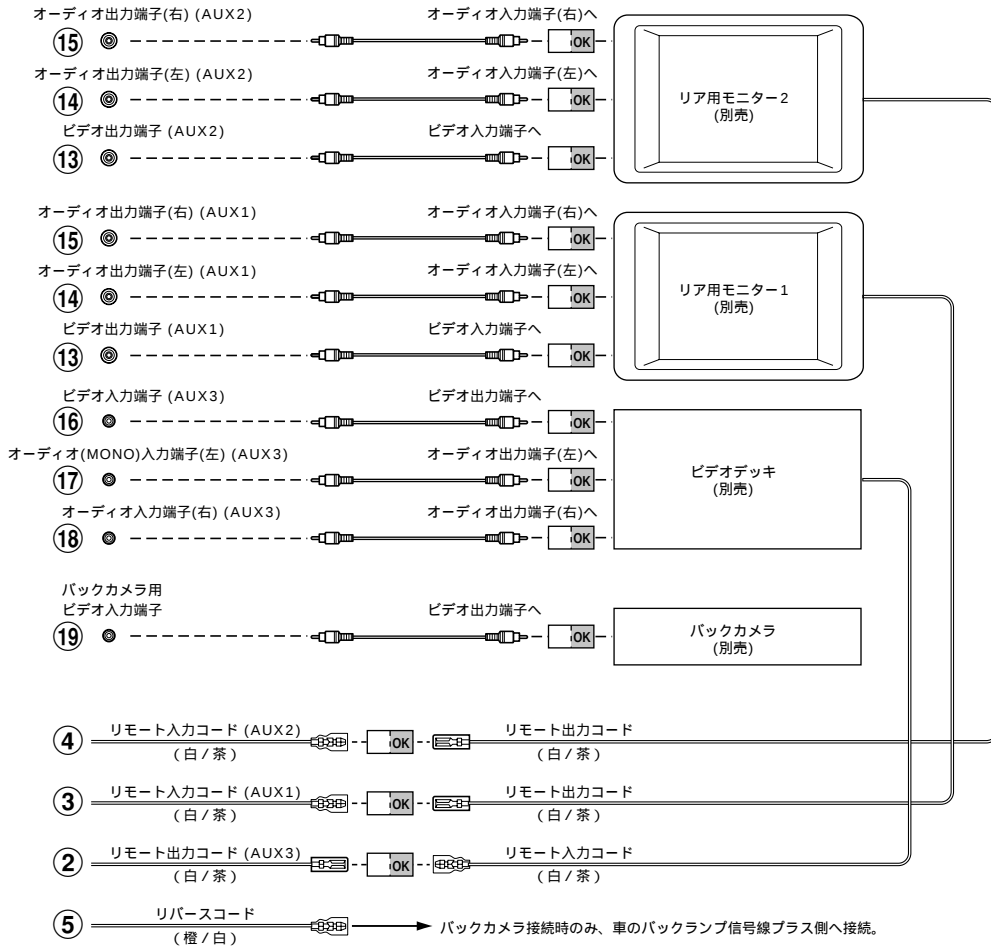


5) リアモニターおよびビデオとバックカメラを接続する。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- ビデオのオーディオ出力がモノラルのときは、チューナー側は、オーディオ入力L (MONO) に接続してください。





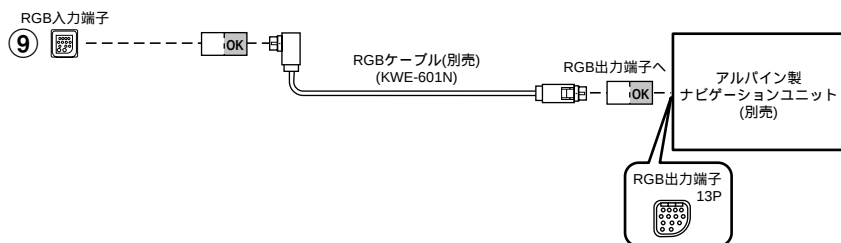
取り付けと接続

6) ナビゲーション (RGB 出力端子 13P) を接続する (RGB 接続)。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- 本機とナビゲーションシステムを接続する場合、別売またはナビゲーション製品付属のRGBケーブルを使用してください。もし、RCAで接続した場合には、本機からのナビゲーションや割り込み機能の操作はできません。
- NV7-N099S/NV7-N099SSと接続した場合は、リアモニターへのナビゲーション映像出力はされません。

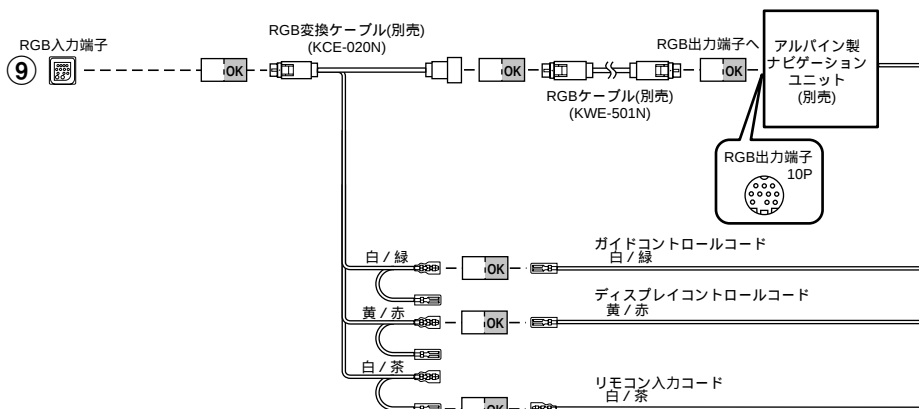


7) ナビゲーション (RGB 出力端子 10P) を接続する (RGB 接続)。

システムスイッチ	NORM
----------	------



- 本機とナビゲーションシステムを接続する場合、別売またはナビゲーション製品付属のRGBケーブルを使用してください。もし、RCAで接続した場合には、本機からのナビゲーションや割り込み機能の操作はできません。
- リアモニターへのナビゲーション映像出力はされません。



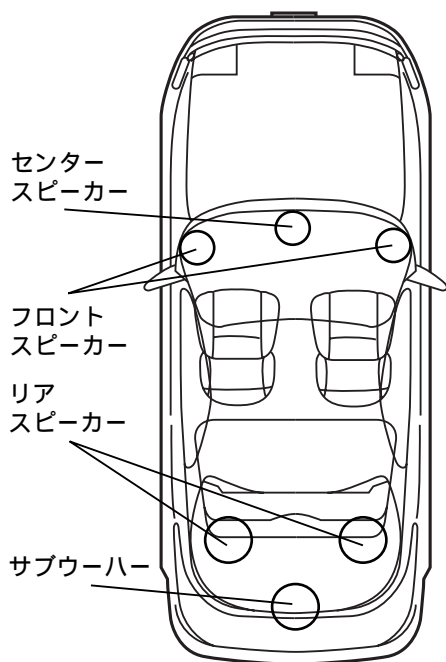
用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルはドルビー研究所が開発したデジタルオーディオ圧縮技術で、大量のオーディオデータを効率的にディスクに記録できるようにします。モノラル(1チャンネル)から5.1チャンネルのサラウンドサウンドにいたるすべてのオーディオ信号に適合しています。異なるチャンネルへの信号は完全に独立し、さらに高品質のデジタルサウンドのため音質の低下はまったくありません。

完全な5.1チャンネル・サラウンドサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510/PXA-H700など)が必要です。

IVA-D901Jは、ドルビーデジタルのデコードを行い、アナログオーディオ信号を出力します。その場合は2チャンネルオーディオで5.1チャンネルではありません。



ドルビーデジタル/DTSを楽しむための
スピーカーレイアウト

DTS

デジタル・シアター・システムズ社が開発した映画館用の高音質サラウンドシステム「DTSサウンドシステム」の家庭用デジタルサラウンドフォーマットです。

DTSは6本の独立した音声トラックを持ち、劇場公開映画などで使われている高品位の臨場感あふれるDTSサラウンドを楽しめます。

DTSはDigital Theater Systemの略。

DTSサラウンドを楽しむには別売のDTSデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H700など)が必要です。また、DVDビデオソフトもDTSに対応したものをご使用ください。

IVA-D901Jは、DTS2チャンネルデコーダーを内蔵しており、アナログ信号を出力します。

PRO LOGIC

PRO LOGICは、ドルビーサラウンドでエンコードされたプログラムをデコードするときに用いられる技術です。PRO LOGICデコーディングによって、2チャンネル(ステレオ)のソースから4チャンネル(フロント左右、中央、およびモノラルリアサラウンド)のサウンドを提供します。

PRO LOGICサウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H900/PXA-H510)が必要です。

Dolby PRO LOGIC II

Dolby PRO LOGIC IIは、2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生します。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダです。

Dolby PRO LOGIC II サウンドを楽しむには、別売のデジタルオーディオプロセッサ(PXA-H700など)が必要です。

リニアPCM音声(LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式。音楽CDでは44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～96kHz/24bitで記録されていますので、音楽CDよりも高音質の再生ができます。

視聴規制(パレンタルロック)

国ごとに規制した視聴年齢制限をするためのDVDの機能。DVDにより制限のしかたは異なり、全く再生できない場合や、過激な場面をとばしたり、差し替えたりして再生をします。

言語コード表

(詳しくは39ページをご覧ください。)

記号	コード	言語
AA	6565	アフガル語
AB	6566	アブバジア語
AF	6570	アフリカーンス語
AM	6577	アムハラ語
AR	6582	アラビア語
AS	6583	アッサム語
AY	6589	アイマラ語
AZ	6590	アゼルバイジャン語
BA	6665	バシキール語
BE	6669	ベラルーシ語
BG	6671	ブルガリア語
BH	6672	ビハーリー語
BI	6673	ビスラマ語
BN	6678	ベンガル語、バングラ語
BO	6679	チベット語
BR	6682	ブルトン語
CA	6765	カタロニア語
CO	6779	コルシカ語
CS	6783	チェコ語
CY	6789	ウェールズ語
DA	6865	デンマーク語
DE	6869	ドイツ語
DZ	6890	ブータン語
EL	6976	ギリシャ語
EN	6978	英語
EO	6979	エスペラント語
ES	6983	スペイン語
ET	6984	エストニア語
EU	6985	バスク語
FA	7065	ペルシャ語
FI	7073	フィンランド語
FJ	7074	フィジー語
FO	7079	フェロー語
FR	7082	フランス語
FY	7089	フリジア語
GA	7165	アイルランド語
GD	7168	スコットランドゲール語
GL	7176	ガルシア語
GN	7178	グアラニ語
GU	7185	グジャラート語
HA	7265	ハウサ語
HI	7273	ヒンディー語
HR	7282	クロアチア語
HU	7285	ハンガリー語
HY	7289	アルメニア語
IA	7365	国際語
IE	7369	国際語

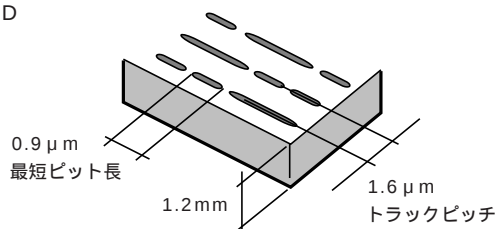
記号	コード	言語
IK	7375	Inupiak語
IN	7378	インドネシア語
IS	7383	アイスランド語
IT	7384	イタリア語
IW	7387	ヘブライ語
JA	7465	日本語
JI	7473	イディッシュ語
JW	7487	ジャワ語
KA	7565	グルジア語
KK	7575	カザフ語
KL	7576	グリーンランド語
KM	7577	カンボジア語
KN	7578	カナダ語
KO	7579	韓国語
KS	7583	カシミール語
KU	7585	クルド語
KY	7589	キルギス語
LA	7665	ラテン語
LN	7678	リンガラ語
LO	7679	ラオス語
LT	7684	リトアニア語
LV	7686	ラトビア語、レット語
MG	7771	マダガスカル語
MI	7773	マオリ語
MK	7775	マケドニア語
ML	7776	マラヤーラム語
MN	7778	モンゴル語
MO	7779	モルダビア語
MR	7782	マラータ語
MS	7783	マレー語
MT	7784	マルタ語
MY	7789	ミャンマー語
NA	7865	ナウル語
NE	7869	ネパール語
NL	7876	オランダ語
NO	7879	ノルウェー語
OC	7967	プロバンス語
OM	7977	(アフアン)オロモ語
OR	7982	オリヤー語
PA	8065	パンジャブ語
PL	8076	ポーランド語
PS	8083	パシュトー語
PT	8084	ポルトガル語
QU	8185	ケチュア語
RM	8277	ラエティ＝ロマン語
RN	8278	キルンディ語
RO	8279	ルーマニア語

記号	コード	言語
RU	8285	ロシア語
RW	8287	キニヤルワンダ語
SA	8365	サンスクリット語
SD	8368	シンド語
SG	8371	サンゴ語
SH	8372	セルビアクロアチア語
SI	8373	シンハラ語
SK	8375	スロバキア語
SL	8376	スロベニア語
SM	8377	サモア語
SN	8378	ショナ語
SO	8379	ソマリ語
SQ	8381	アルバニア語
SR	8382	セルビア語
SS	8383	シスワティ語
ST	8384	セストゥ語
SU	8385	スンダ語
SV	8386	スウェーデン語
SW	8387	スワヒリ語
TA	8465	タミール語
TE	8469	テルグ語
TG	8471	タジク語
TH	8472	タイ語
TI	8473	ティグリニヤ語
TK	8475	トゥルクメン語
TL	8476	タガログ語
TN	8478	セツワナ語
TO	8479	トンガ語
TR	8482	トルコ語
TS	8483	ツォンガ語
TT	8484	タタール語
TW	8487	トウィ語
UK	8575	ウクライナ語
UR	8582	ウルドゥー語
UZ	8590	ウズベク語
VI	8673	ベトナム語
VO	8679	ボラビュク語
WO	8779	ウォロフ語
XH	8872	コーサ語
YO	8979	ヨルバ語
ZH	9072	中国語
ZU	9085	ズール語

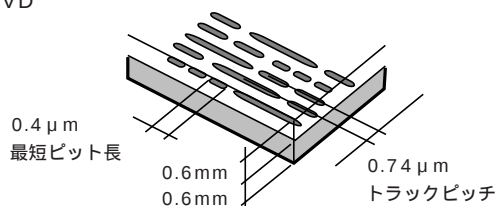
DVD について

音楽CDやDVD等のディスクには、情報を記録するための溝（トラック）があります。そこに、0と1のデジタル情報を凹凸で表した細かいピットが作られ、それをレーザー光で読み取り再生します。DVDは、トラック間隔をCDの半分以下に狭め、ピットもより細かくして高密度でより多くの情報を記録させています。

CD



DVD



12cmのディスクに映画なら1本分、音楽なら約4時間を収録できます。

さらに水平解像度500本以上の高画質により透明感のある画質、鮮やかな色合いを再現します。また、別売りのデジタルオーディオプロセッサ（PXA-H900/PXA-H510/PXA-H700など）と組み合わせることによりドルビーデジタル5.1chサラウンドで劇場の迫力と臨場感を再現することができます。

さらに、DVDディスクにはいろいろな機能があります。

- マルチ音声機能^{*}（20ページ）

1本の映画の中に最大8つの言語を収録できます。本機またはリモコンのボタン操作で好みの音声で再生することができます。

- サブタイトル（字幕）機能^{*}（20ページ）

映画の字幕スーパーなら32カ国語まで収録できます。本機またはリモコンのボタン操作で好みの字幕で再生することができます。

- マルチアングル機能^{*}（20ページ）

複数のアングルで撮影された映像が記録されていれば、本機またはリモコンのボタン操作で好みのアングル（角度）で再生することができます。

- マルチストーリー機能^{*}

1本の映画の中にいくつものストーリーが入っていて、好みのストーリーを選ぶことにより何通りものストーリーを楽しむことができます。

操作方法はディスクによって異なりますが、再生中にストーリー選択画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。



^{*} これらの機能は、ディスクによって収録されている音声言語、字幕、アングルなどが異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。

MP3 について

注意：

個人で楽しむ以外は、オーディオデータ(MP3データ含む)を著作権者に無断で複製し、有料無料を問わず配布、転送、転載することは著作権法や国際協定で固く禁じられています。

MP3とは？

正式には「MPEG-1 Audio Layer3」といい、国際標準化団体のISOとIECの共同活動機関であるMPEG が定めた圧縮規格です。

MP3は音声データを圧縮した音声ファイルで、サウンドデータを非常に高い圧縮率で圧縮することができます。

また、CDクオリティに近い音質を実現しても約1/10の圧縮率を得ることができます。

(サンプリング周波数44.1kHz、ビットレート128kbpsの場合)

このような高圧縮率を実現しているMP3フォーマットは、人には聴き取れない音を消すことなどにより高圧縮を実現しています。

MP3へ圧縮する方法

市販やフリーウェアなどのMP3専用ソフトを使い圧縮します。詳しくは専用ソフトの説明書を参照願います。

また、本機で再生可能なMP3ファイルは、拡張子が「mp3」です。

再生可能なサンプリングレート・ビットレート

サンプリングレートは32kHz～48kHz、ビットレート32kbps～320kbpsです。

但し、「22,05kHz」などサンプリングレートによっては、本機で正しく表示されない場合があります。

ID3タグについて

ID3 Tag v1に対応しています。

MP3ファイルにID3タグ情報が入っていれば、タイトル(曲名)、アーティスト名、アルバム名のID3タグ情報を表示できます。

本機で表示可能な文字は半角の英数、半角のカタカナ(表示できない場合もあります)、_(アンダーバー)のみです。

MP3ディスクを作成するには

MP3ファイルを用意し、CD-Rライティングソフトを利用して、CD-R・CD-RW メディアに書き込みます。

ファイル最大数:255、フォルダ最大数:255まで書き込みできます。但し、ライティングソフトによっては再生ができない場合があります。

MP3作成ソフトの一部には、ライティングソフトが同梱されているものもあります。

このようなソフトを使用した場合、本機で再生ができないことがあります。

このような場合は、他のライティングソフトを使用してMP3フォルダ(ファイル)のみを記録してください。

対応メディア

再生できるメディアは、CD-ROM、CD-R、CD-RWです。

対応ファイルシステム

ISO9660レベル1、レベル2でフォーマットされたディスクに対応しています。

ISO9660規格では、フォルダのディレクトリ階層(最大8階層)やフォルダ/ファイル名の文字数(31文字 拡張子除く)、フォルダ/ファイル名で利用できる文字(A～Z、0～9、_(アンダーバー))などの制限があります。

また、JolietなどのISO9660準拠であれば、再生は可能です。

但し、ファイル名/フォルダ名などは正しく表示されない場合があります。

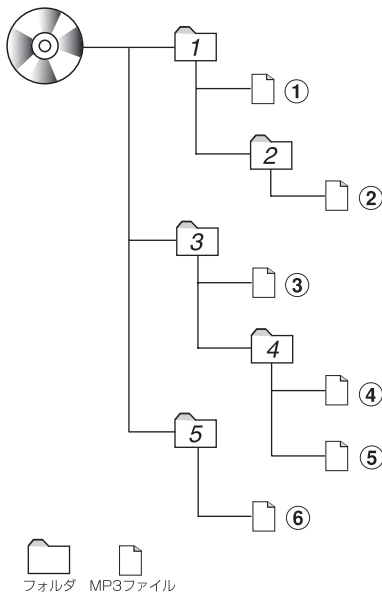
対応フォーマット

CD-ROM、CD-ROM XA、Mixed Mode CD、Enhanced CD (CD-Extra)、及びマルチセッションに対応しています。但し、Track At Onceやバケットライトで作成されたCDの場合、正常に再生できません。

演奏される順番

演奏される順番はライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、記録しようとした順番と再生される順番が一致しないことがあります。

下図のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでの演奏順は次の通りです。(実際に表示される番号ではありません)



用語説明

ビットレート

エンコードするときに指定する「音」の圧縮率で、ビットレートが高いほど高音質になるが、ファイルサイズも大きくなる。

サンプリングレート

データを1秒間に何回サンプリング(記録)するかを示す値のことで、たとえば、音楽CDは44.1kHzで、1秒間にデータを4万4100回サンプリング(記録)していることとなります。高ければ高いほど音質は向上しますが、それだけデータ量も増えます。

エンコード

音楽CD やWAVEファイルなどの音声ファイルを、特定の音声圧縮フォーマットに変換すること。

ID3タグ

曲名やアルバム名、アーティスト名など、MP3ファイルに書き込まれた楽曲情報。

ルートフォルダ

ファイルシステムの最上階層のフォルダ。全てのフォルダ/ファイルはルートフォルダに含まれています。

故障かな？と思ったら

操作ミスや勘違いを故障と間違えていませんか？ → 接続・配線は正しく行われていますか？ → 下の表をもう一度ご確認ください。 → それでも直らないときは、お買い上げ店、またはお近くのお問い合わせ窓口（P87）にご相談ください。

● 操作中に停止したままになったり正常に動作しなくなった場合は、一度電源をOFF→ONしてください。それでも正常に動作しない時は、下表を参照して処置を行ってください。

共通部

動作しない。

ディスプレイに何も表示されない。

- ヒューズが切れている。
 - ・ 規定容量のヒューズと交換する。（→P68）
- 内部のマイコンが、ノイズなどの原因で誤動作してしまった。
 - ・ リセットスイッチをボールペンの先などで押す。（→P9）

電源が入るが音が出ない。

- 音量レベルが最小になっている。
 - ・ 音量レベルを上げる。（→P10）
- MUTEがONになっている。
 - ・ MUTEを解除する。（→P10）
- フェダーの設定が適切でない。
 - ・ 2スピーカーで聴くときは、スピーカーのバランスを前または後に設定する。（→P10）
- ナビ音声割り込みがない。
 - ・ NAV.MIXの音量調整を行う。（→P45）

記憶させた内容が消えてしまった。

- リセットスイッチを押した。電源コードまたはバッテリーをはずした。
 - ・ もう一度記憶する。
- バッテリーコードの接続ミス
 - ・ 接続を確認する。（→P68～69）

ディスプレイが暗い。

- 気温が低いときは、電源を入れた後、しばらく暗いことがある。
 - ・ しばらく待つ。

ディスプレイが表示しない。

- 音声と映像があわない。
 - ・ サイマル機能になっている。（→P36）

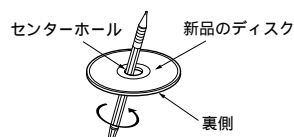
CD/MP3部/DVD/ビデオCD部

ディスクが入らない。

- すでに別のディスクが入っている。
 - ・ ディスクを取り出してから入れ直す。
- 演奏が始まらない。/音がとぶ。/音が歪む。/早送り/早戻しができない。
 - 車内温度が50℃以上ある。
 - ・ 車内温度を常温まで下げてから、演奏させる。
 - ディスクに傷が付いている。
 - ・ ディスクがひどく汚れている。録音状態が良くない。本機対応のディスクでない。
 - ・ 他のディスクを再生してみる。
 - 結露している。
 - ・ しばらく放置してから使う。
 - ピックアップレンズが汚れている。
 - ・ メンテナンスをする。（お問い合わせ窓口へ）（→P87）

ディスクが勝手にイジェクトする。

- ディスクの側面/センターホールにバリがある。
 - ・ ボールペンなどで外側の縁をなぞって突起箇所を取り除く。



CD-R/CD-RWが再生できない。

- クローズセッション(ファイナライズ処理)を行っていない。
 - ・ クローズセッション(ファイナライズ処理)を行い、再度、試してみる。

MP3が演奏されない。

- 書き込みに失敗している/対応フォーマット以外で書き込まれている
 - ・ 書き込みに失敗していないか確認する。または、「MP3について」を参照し本機対応のフォーマットで書き込みを行う。（→P80～81）

5.1chが再生されない。

- 光デジタルアウトの設定がOFFになっている。
 - ・ 光デジタルアウトの設定をONにし、外部オーディオプロセッサデジタル入力切りかえをする。（→P41、47）

動作しない。

- 結露している
 - ・ しばらく放置(1時間程度)してから使う。
- パーキング・ブレーキ・コードを接続していない。
 - ・ パーキング・ブレーキをかけていない。
 - ・ パーキング・ブレーキ・コードを接続し、パーキング・ブレーキをかける。

再生が始まらない。

- ディスクを裏返しに入れている。
 - ・ ディスクを確認し、ラベル印刷面を上にして入れる。
- ディスクが汚れている。
 - ・ ディスクをきれいにする。
- 本機で再生できないディスクが入っている。
 - ・ 再生できるディスクを確認する。(→P4)
- 視聴制限がされている。
 - ・ 視聴制限を解除、または規制レベルを変更する。

映像が不鮮明になったり、雑音が入ったりする。

- 早送り/早戻しをした。
 - ・ 多少乱れることはありますが、故障ではありません。
- 車のバッテリー電源が低下している。
 - ・ バッテリー電源及び配線を確認する。
(負荷状態で11ボルトを下回ると誤作動の原因となります。)
- モニターの蛍光管が消耗している。
 - ・ モニターの蛍光管を交換する。

映像が時々止まる。

- ディスクにキズがある。
 - ・ キズの無いディスクと交換する。

ラジオ部

受信できない。

雑音が入る。

- アンテナが接続されていない。
 - ・ アンテナが確実に接続されているか確認する。
- アンテナが伸びていない。
 - ・ アンテナを伸ばす。
 - ・ パワーアンテナ/ブースターコードが接続されているか確認する。
- 放送局の周波数が合っていない。
 - ・ 周波数を正しく合わせる。(→P23)
- 周りに障害物などがあり、受信状態が良くない。
 - ・ 見通しが良いところに移動する。
- アースコードが接続されていない、ゆるんでいる。
 - ・ アースコードが接続されているか確認する。または、接続場所を変更する。

自動的に放送局が選べない。

- 電波の弱い地域にいる。
 - ・ ディスタンスモードまたはマニュアルモードで受信する。(→P23)

メッセージが表れたら... (CD/MP3 部)

NO DISC

- ディスクが入っていない。
 - ・ ディスクを入れる。
- ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏または、イジェクトができない。
 - ・ 次の方法でディスクを取り出す。
「▲」を3秒以上押す。

HI-TEMP

- 車内温度が高すぎる。
 - ・ 車内温度を常温まで下げる。
 - ・ 本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。

NO TEX

- テキストが入力されていない。
 - ・ CDテキスト対応のCDと交換する。

メッセージが表れたら...

(チェンジャー部 (オプション))

NO MAGNE

- マガジンがCDチェンジャーにセットされていない。
- マガジンをCDチェンジャーにセットする。

NO DISC

- ディスクが入っていない。
- ディスクを入れる。

HI-TEMP

- 車内温度が高すぎる。
- 車内温度を常温まで下げる。

ERROR-01

- ディスクがマガジンに戻っていない。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。
- メカニズムエラー。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 表示が消えたら、ディスクを入れ直したマガジンを再度挿入する。
 - ③ それでも復旧しない...修理ご相談窓口へ。

ERROR-02

- ディスクがマガジンに戻っていない。
 - ① 「▲」を押す。
 - ② 空のマガジンを入れ、もう一度「▲」を押しディスクを回収する。

メッセージが表れたら... (DVD/ビデオCD部)

HI-TEMP

- 車内温度が高すぎる。
- 車内温度を常温まで下げる。
- 本機の電源をOFFにし、温度が下がるまでしばらく待つ。その後再び電源をONさせる。

NO DISC

IVA-D901J
(フロントモニター)
のみ表示

- ディスクが入っていない。
- ディスクを入れる。
- ディスクは入っているが、「NO DISC」と表示され、演奏またはイジェクトができない。
- 次の方法でディスクを取り出す。
「▲」を3秒以上押す。

⑦

- リモコン操作を受け付けない。
- ディスクまたは再生状態によっては、その操作を受け付けない場合があります。故障ではありません。

REGIONAL CODE VIOLATION

- ディスクの地域コード番号が合っていない。
- 地域コード番号が対応しているディスクを入れる。(→P4)

VIDEO SIGNAL SYSTEM IS NOT CORRECT

- PAL対応のディスクを入れた。
- NTSC対応のディスクを入れる。

LOADING ERROR

(リアモニター用に表示)

- メカニズムエラー。
 - ① 「▲」を押して、ディスクを取り出す。
イジェクトできないときは修理ご相談窓口へ。
 - ② ディスクを取り出してもエラー表示が消えない場合は、もう一度「▲」を押す。
 - ③ 何度押してもエラー表示が消えない場合は修理ご相談窓口へ。

EJECT ERROR

(リアモニター用に表示)

DISC ERROR

(リアモニター用に表示)

- ディスク傷、ディスク汚れ。/録音状態が良くない。/本機対応のディスクでない。
- 「▲」を押して、ディスクを交換する。

規格

モニター部

画面サイズ	7.0インチ
液晶	透過型TN液晶
駆動方式	低温p-si TFTアクティブマトリックス
画素数	1,152,000個(2,400×480)
有効画素数	99.99%以上
照明方式	冷陰極蛍光管
外形寸法	178(幅)×165(奥行)×50(高さ)mm(収納時)
重量	1.7kg

ラジオチューナー部

受信周波数	AM ; 522 ~ 1,629kHz, FM ; 76.0 ~ 90.0MHz
実用感度	AM ; 22.5 μV, FM ; 0.8 μV (75 Ω) 9.3dB(新IHF)
ステレオセパレーション	FM ; 45dB以上
SN比	FM ; 80dB以上
イメージ妨害比	FM ; 80dB以上
IF妨害比	FM ; 80dB以上

CD/DVD部

方式	光学式(コンパクトディスク方式)
量子化ビット数	1ビット
チャンネル数	2チャンネル(ステレオ)
ダイナミックレンジ	95dB(1kHz)以上
高周波歪率	0.008%(1kHz)以下
チャンネルセパレーション	85dB(1kHz)以上
ワウフラッター	測定限界以下
信号システム	NTSC
水平解像度	500本以上
画像出力レベル	1Vp-p(75 Ω)
画像SN比	DVD ; 60dB
音声SN比	105dB以上
周波数特性	5 ~ 20kHz

TVチューナー部

アンテナ入力	4chダイバー(75 Ω)
受信方式	NTSCカラー方式
回路方式	PLL周波数シンセサイザー
受信チャンネル	VHF1 ~ 12ch、UHF13 ~ 62ch
S/N比(ビデオ)	40dB
(オーディオ)	50dB
実用感度	40dB μV
外形寸法	275(幅)×170(奥行)×40(高さ)mm
重量	1.6kg

リモコン部

使用電源	DC1.5V×2(UM-4)
外形寸法	56(幅)×142.5(高さ)×37(奥行)mm
重量	72 g(電池は含まれない)

一般

使用電源	DC14.4V (動作範囲 ; 11 ~ 16V)
アース方式	⊖アース
音声出力レベル	プリアウト : 4V/10kΩ(最大) (フロント/リア) プリアウト : 4V/10kΩ(最大) (サブウーハー) AUX OUT:1.2V/10kΩ Ai-NET:850mV
動作温度範囲	0 ~ 45

アンプ部

最大出力	50W×4
------	-------

- 蛍光管は保証期間内であっても、消耗品につき有償交換となります。
- 製品の規格および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、印象が異なる場合があります。
- 本書の一部または全部を無断で転載しないでください。



- 液晶パネルは、非常に精度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%の画素欠けや常時点灯する画素があり得ますので、あらかじめご了承ください。

保証について

保証書について

- この製品には保証書が添付されています。お買上げの際、お受け取りください。
- 必ず「販売店印・お買上げ日」が記入されていることをご確認ください。
- 保証書は再発行できませんので、大切に保管してください。

アフターサービスについて

- 調子が悪いとき
まず、この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
- それでも調子が悪いとき
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。お買上げ店、または87ページの「お問い合わせ窓口」にあるお近くの修理ご相談窓口に、修理を依頼してください。

- 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは、保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。
- 補修性能部品
製造打ち切り後、最低6年間保有しています。
- アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点はお買上げ店、または87ページの「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。
- 一部の付属部品は補修部品も用意しています。部品を無くしたり壊したりしたときは、お買上げ店にお問い合わせください。

(AV/NAVI/MD/3D)

(平成15年11月1日現在)

お問い合わせ窓口

- 製品に関するご相談 / お問い合わせは、お買い上げ店または下記の「製品ご相談窓口」をご利用ください。
- 修理に関するお問い合わせは、下記「修理ご相談窓口」をご利用ください。
- ご相談窓口の名称・電話番号・所在地は、変更になる場合があります。

製品ご相談窓口

インフォメーションセンター	・FAX:03-3494-1767 Phone:03-3779-0711
・電話は混雑が予想されます。FAXかハガキをおすすめします。	・電話受付時間 土日祝日、 弊社休業日を除く 9:30～17:30

営業所・販売店名	電話番号	住所	担当 都道府県
アルバインマーケティング (株) 本部	03-5496-8231	〒141-0031 東京都品川区西五反田1丁目1番8号	
北海道エリア 札幌オフィス	011-621-4485	〒064-0821 北海道札幌市中央区北1条西22丁目2番1号 上野ビル	北海道全域
東北エリア 仙台オフィス 郡山オフィス 青森オフィス	022-239-5331 024-925-3811 017-762-3061	〒983-0043 宮城県仙台市宮城野区萩野町3丁目9番5号 〒963-8051 福島県郡山市富久山町八山田字土布池11番5号 〒030-0111 青森県青森市大字荒川字柴田191-2 旭日ビル202	宮城県 / 山形県 / 秋田県 / 岩手県 福島県 青森県
関信越エリア 高崎オフィス 松本オフィス 宇都宮オフィス 新潟オフィス	027-361-5813 0263-48-4772 028-610-8890 025-257-8680	〒370-0073 群馬県高崎市緑町3丁目16番6 〒390-0852 長野県松本市島立830番地の11 深澤ビル102号 〒321-0942 栃木県宇都宮市峰2-28-12 〒950-0862 新潟県新潟市石山1丁目3-6 エクセレント石山	群馬県 長野県 / 山梨県 栃木県 新潟県
東関東エリア 東関東オフィス	03-5666-5226	〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町2-406-1	千代田区 / 中央区 / 江東区 / 墨田区 / 台東区 / 荒川区 / 文京区 / 江戸川区 / 足立区 / 千葉県 / 茨城県
首都圏エリア 東京オフィス 神奈川オフィス 埼玉オフィス	045-541-7261 045-541-7261 048-664-7701	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1767番地 アルプス電気横浜事業所内5F 〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1767番地 アルプス電気横浜事業所内5F 〒331-0852 埼玉県さいたま市桜木町3丁目179番	東京都(千代田区 / 中央区 / 江東区 / 墨田区 / 台東区 / 荒川区 / 文京区 / 江戸川区 / 足立区以外) 神奈川県 埼玉県
中部圏エリア 中部オフィス 静岡オフィス 北陸オフィス	052-779-5655 054-283-0171 076-240-8111	〒465-0021 愛知県名古屋市中区猪子石3丁目108 〒422-8032 静岡県静岡市有東3丁目9番1号2F 〒921-8066 石川県金沢市矢木3丁目72番1号	愛知県 / 三重県 / 岐阜県 静岡県 石川県 / 富山県 / 福井県
近畿圏エリア 大阪オフィス	06-6386-4136	〒564-0041 大阪府吹田市泉町3-18-14	大阪府 / 奈良県 / 和歌山県
中四国エリア 岡山オフィス 広島オフィス 高松オフィス	086-243-8257 082-846-1175 087-869-3086	〒700-0975 岡山県岡山市今4丁目5番2号 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園2丁目11番16号 〒761-8071 香川県高松市伏石町1473-11	岡山県 / 鳥根県 / 鳥取県 広島県 / 山口県 徳島県 / 香川県 / 愛媛県
九州エリア 福岡オフィス 長崎オフィス 鹿児島オフィス 熊本オフィス	092-452-8870 095-727-1581 099-218-8321 096-213-7118	〒816-0093 福岡県福岡市博多区那珂3-23-2 ヒロタビル7号 〒854-0074 長崎県諫早市山川町3の13 〒890-0005 鹿児島県鹿児島市下伊敷1-53-25-102 〒862-0929 熊本県熊本市西原2-32-29	福岡県 / 大分県 / 佐賀県 長崎県 鹿児島県 / 宮崎県 熊本県
アルバイン京都販売(株)	075-351-6406	〒600-8480 京都府京都市下京区五条通堀川東入小泉町113番地の1	京都府 / 滋賀県
アルバイン兵庫販売(株)	0794-54-6123	〒675-0067 兵庫県加古川市加古川町河原133の1	兵庫県
アルバイン高知販売(株)	088-884-6800	〒780-8122 高知県高知市高須新町3丁目10番8号	高知県
(株)バルス	098-866-1916	〒900-0003 沖縄県那覇市安謝217番地3	沖縄県

修理ご相談窓口

問い合わせ窓口	電話番号	住所	管轄エリア
アルバインカスタマーズ サービス (株) 東日本営業所	048-664-9711	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町1丁目664番地	北海道 / 青森県 / 岩手県 / 秋田県 / 山形県 / 宮城県 / 福島県 / 栃木県 / 茨城県 / 群馬県 / 東京都 / 神奈川県 / 埼玉県 / 千葉県 / 新潟県 / 長野県 / 山梨県
アルバインカスタマーズ サービス (株) 西日本営業所	06-6386-4130	〒564-0041 大阪府吹田市泉町3丁目18番14号	静岡県 / 愛知県 / 三重県 / 岐阜県 / 福井県 / 富山県 / 石川県 / 滋賀県 / 京都府 / 大阪府 / 和歌山県 / 奈良県 / 兵庫県 / 岡山県 / 鳥根県 / 鳥取県 / 広島県 / 山口県 / 香川県 / 愛媛県 / 徳島県 / 高知県 / 福岡県 / 佐賀県 / 大分県 / 熊本県 / 長崎県 / 鹿児島県 / 宮崎県 / 沖縄県

索引

あ 行

アングル切りかえ (DVD)	20
位相切りかえ	53
映像ソースのみを切りかえる	36
映像の色あいを調整する	48
映像の色の濃さを調整する	48
映像の明るさを調整する	48
エリア機能を使う	43
エリア放送局一覧表	44
オートバックグラウンドの設定	48
音声言語切りかえ (DVD/ ビデオ CD)	20
音声言語の設定	38
音声多重機能を使う (二重音声放送) (TV)	26
映像を調整する	57
音量 / バランス / フェダー / ディフューズの調整	10
音量調整	10

か 行

外部オーディオプロセッサの MX モードを設定する ...	52
外部オーディオプロセッサの光デジタル入力 切りかえ設定	47
外部モニター出力の設定	46
外部割り込みアイコン表示の設定	47
外部割り込みモードの設定	46
外部入力に表示名をつける	46
簡単操作ガイド	8
カントリーコード設定を変更する	39
記憶した放送局を呼び出す (TV)	25
記憶した放送局を受信する (ラジオ)	24
曲順を変えて聴く (CD)	13
曲順を変えて聴く (MP3)	15
グラフィック EQ の調整	54
繰り返し聴く (CD)	13
繰り返し聴く (MP3)	15
言語コード表	78
言語設定を変更する	38
高音を強調する	29
故障かな?と思ったら	82
コマ送り再生 (DVD/ ビデオ CD)	18

さ 行

再生できないディスク	4
再生中止	17
再生停止 (DVD/ ビデオ CD)	17
サイマル機能	36
サブウーハー出力レベル調整	10
サブウーハーの ON/OFF	31
サブタイトル切りかえ (DVD)	20
サンプリングレートについて	81
時間補正について	29
時刻を設定する	42
システムスイッチ	67
視聴規制 (パレンタルロック) について	77
視聴規制を設定する	39
自動的にチャンネルを記憶する (TV)	25
自動的に放送局を記憶する (ラジオ)	23
字幕言語の切りかえ	20
字幕言語の設定	38
手動で時間補正を行う / 位相切りかえ	53
スクロールとは	32
スクロールの設定	34
スピーカーセットアップ	57
スピーカーの設定をする	51
スピーカーレベルを調整する	58
スローモーション再生 (DVD/ ビデオ CD)	18
静止する (DVD/ ビデオ CD)	18
操作音の切りかえ	42

た 行

タイトル / テキスト / スクロールとは	32
タイトルとは	32
タイトルリストを表示する	33
タイトルをつける	32
タイトル番号で頭出し (DVD)	18
タイムコレクションについて	29
タイムコレクションの調整	30、54
チェンジャーで CD/MD を聴く	50
チャプター / トラック / タイトルリピート再生 (DVD/ ビデオ CD)	19
チャプター / トラックの頭出し (DVD/ ビデオ CD) ...	17
チャプター / トラック番号で直接頭出し (DVD/ ビデオ CD)	18
チャンネルを微調整する (TV)	26
低音を強調する	28
ディスクインフォメーション	11
ディスクディスプレイ表示について	11
ディスタンスモード	23

ディスプレイの角度調整	10
ディスプレイをフラットにする	10
ディスプレイを立ち上げる	9
ディスプレイを収納する	9
ディスプレイ自動開閉の設定	42
ディスプレイ前後方向の調整	9
ディフュージョン調整	10
テキストとは	32
デジタルアウトの設定	41
デジタルスぺアナ表示をする	36
デジタル出力設定を変更する	40
デモンストレーションの解除	37
デモンストレーション機能	37
電源の ON/OFF	9
道路交通情報を受信する (ラジオ)	24
時計を表示する	42
トラフィックインフォメーション	24
取り付けと接続	65
ドルビーサラウンドの調整手順	51
ドルビーデジタルについて	77
トレブルセンター周波数	29
トレブルレベルの調整	29

な 行

ナビゲーションモードにする	49
ナビゲーションモードを設定する	46
ナビゲーション割り込み音声調整	10
ナビゲーション音声の割り込み音量調整	45

は 行

背景画面を切りかえる	48
ハイパスフィルターの設定	31
迫力のある大音量再生を楽しむには	58
バス帯域幅の設定	28
バスセンター周波数	28
バスレベルの調整	28
パスワードを変更する	39
バック映像	46
バックライトの明るさを設定する	48
バックライトを OFF にする	37
早送り / 早戻し (DVD / ビデオ CD)	17
パラメトリック EQ の調整	55
バランス調整	10
ビットレートについて	81
ビデオ CD の使用状態を表示する	21
ビデオ CD を再生する	16
表示モードを切りかえる	37
ファンクションガイド	8
ファンクションスイッチ	8
フェーダー調整	10
フォルダを選択する	14

放送局を選ぶ (TV)	26
放送局を記憶する (TV)	26
放送局を記憶する (ラジオ)	24
本機で再生できるディスクについて	4

ま 行

マニュアルモード	23
ミックス (CD)	13
ミックス (MP3)	15
ミュートの ON/OFF	10
メニュー言語の設定	38

や 行

用語解説	77
------------	----

ら 行

ラジオディスプレイ表示について	22
ラジオを聴く	23
リアエンター機能	35
リアカメラの設定	46
リアに低域音声をミキシングする	58
リセット	9
リニア PCM 音声 (LPCM) について	77
リニア PCM の設定	61
リピート (CD)	13
リピート (MP3)	15
リモコン操作	62 ~ 64
リモコン受光部を切りかえるには	35
ローカルモード	23
ローパスフィルターの設定	31

A to Z

AUX (外部入力) モードにする	49
AUX モードを設定する	46
Bass Compressor の設定	56
Bass Engine の設定	28
Bass Focus の設定	30、56
BLACK OUT	37
BRIGHT	48
CD を聴く	12
COLOR	48
DIMMER	48
DISPLAY セットアップ	47
Dolby 5.1ch を設定する	57
Dolby PRO LOGIC II について	77
DTS について	77
DVD セットアップ	38
DVD について	79

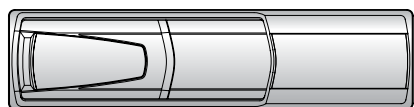
DVD の使用状態を表示する	21
DVD リージョン番号	4
DVD レベルを調整する	59
DVD を再生する	16
GENERAL セットアップ	42
HPF	31
ID3 タグについて	80
LPF	31
M.I.X. (CD).....	13
M.I.X. (MP3).....	15
Media Xpander	27
MP3 について	80
MP3 再生データの設定	43
MP3 を聴く	14
MX モードの設定	27
PARENTAL の規制レベル設定	39
PRE-STOP	17
PRO LOGIC について	77
PRO LOGIC II を使う	60
REPEAT (CD).....	13
REPEAT (MP3).....	15
SYSTEM セットアップ	45
TINT	48
TRF (トラフィックインフォメーション).....	24
TV スクリーン設定を変更する	41
TV ディスプレイ表示について	22
VISUAL の設定	43
X-OVER の設定	31、53

別売のKCA-410C(Versatile Link Terminal) と組み合わせると、チェンジャー2台を接続することができます。



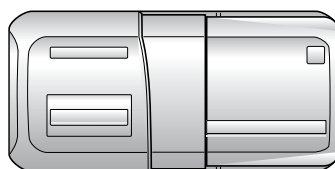
CD も、MD も、お気に入りのアルバムは、アルパインのチェンジャーにスタンバイ！！

CD CHANGER



CHA-S634

MD CHANGER



MHA-S670

車室内にもセットできる超小型サイズのCD6枚チェンジャーが、CD-R/CD-RWの再生、さらにMP3再生にも対応して新登場。人気のMDソースが思う存分楽しめるMDチェンジャーも、大ブレイク。車室内で“いい音”を楽しむ技術にかけては最先端のアルパイン。そのヘッドユニットをセンターに、車や聴きたいソースにあわせて高音質チェンジャーを拡張装備すれば、もっと“いい音”に抱かれる快適ドライブが実現。アルパインのチェンジャーにプラスして、あなたも、感動のノンストップデジタルパワープレイを、どうぞこころゆくまで！

正しい取り付け
正しい操作で
安全運転

